

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.77 / Ver.2.76

- e-Taxの令和3年3月22日受付開始分に対応しました。

令和3年4月より発行が開始される日税連第五世代税理士用電子証明書に対応しました。

《 関連メニュー 》

[消費税申告書]-[電子申告]-[消費税署名付与]メニュー

- 消費税関係申告書等の様式の変更に対応しました。

申告書および提出書類の押印が廃止されました。

○消費税申告書

○税務代理権限証書

○税理士法第33条の2第1項に規定する添付書面

《 関連メニュー 》

・ [消費税申告]-[消費税申告書]メニュー

・ [消費税申告]-[税理士添付書面]-[税務代理権限証書]メニュー

・ [消費税申告]-[税理士添付書面]-[税理士法第33条の2添付書面]メニュー

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.75

【消費税申告】	
国税電子申告（e-Tax）の改正（令和3年1月4日受付開始分）に対応しました。	2

- 国税電子申告（e-Tax）の改正（令和3年1月4日受付開始分）に対応しました。

令和3年1月4日受付開始分では、以下に対応しました。

- 消費税申告書（付表1-3、付表2-3、付表4-3、付表5-3）
- 居住用賃貸建物の仕入税額控除の適正化

《 関連メニュー 》

[消費税申告]-[電子申告]-[消費税電子申告作成]メニュー

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.74

目次

【消費税改正情報】	
消費税申告書（付表）の令和2年の様式変更に対応しました。	2
消費税法の改正に対応しました。	2

消費税改正情報

● 消費税申告書（付表）の令和2年の様式変更に対応しました。

新しい付表が追加されました。

新税率（10%、8%軽減税率）の取引だけしかない場合に使用します。

＜原則課税の場合＞

・ 付表1－3

・ 付表2－3

令和2年4月1日以後終了する課税期間に適用されます。

＜簡易課税の場合＞

・ 付表4－3

・ 付表5－3

令和元年10月1日以後終了する課税期間に適用されます。

※詳細は、国税庁ホームページ「消費税及び地方消費税の確定申告の手引き・様式等」をご参照ください。

《 関連メニュー 》

[消費税申告]-[消費税申告書]メニュー

● 消費税法の改正に対応しました。

居住用賃貸建物に係る課税仕入れ等の消費税額は、仕入税額控除の対象外になりました。

ただし、次のいずれかに該当する場合には、仕入控除税額を調整できます。

- ・ 居住用賃貸建物の全部又は一部を調整期間に課税賃貸用に供した場合
- ・ 居住用賃貸建物の全部又は一部を調整期間に他の者に譲渡した場合

これに伴い、付表2に、項目「居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した（譲渡した）場合の加算額」が追加されています。

控除税額	課税売上割合変動時の調整対象固定資産に係る消費税額の調整（加算又は減算）額	①			
調整対象固定資産を課税賃貸用（非課税賃貸用）に転用した場合の調整（加算又は減算）額	②				
居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した（譲渡した）場合の加算額	③				

（令和2年4月1日以後に終了する課税期間）

当システムでは、付表2の項目「居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した（譲渡した）場合の加算額」に対して、金額を手入力できます。

該当する仕入控除の金額がある場合だけ、入力します。

《 関連メニュー 》

[消費税申告]-[消費税申告書]メニュー

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.72

【消費税改正情報】	
消費税申告書の新様式（消費税10%・軽減税率制度）に対応しました。	2

消費税改正情報

- 消費税申告書の新様式（消費税10%・軽減税率制度）に対応しました。

新様式では軽減税率制度の実施に伴い、すべての申告書・付表が変更されています。

- ・ 申告書は、「課税標準額等の内訳書」が第二表として外出しされました。

▼イメージ図



- ・ 「付表 〇—1」は必ず出力し、「付表 〇—2」は旧税（8%・5%）がある場合に出力されます。

▼イメージ図



	10%・8%軽減税率	8%・5%・3%
原則課税	「付表 1-1」「付表 2-1」	「付表 1-2」「付表 2-2」
簡易課税	「付表 4-1」「付表 5-1」	「付表 4-2」「付表 5-2」

- ・ 軽減税率8%取引の区分経理が困難な事業者のために用意される、売上税額又は仕入税額の特例計算表も作成できます。

- ・ 課税資産の譲渡等の対価の額の計算表（2種類）
- ・ 課税仕入れ等の税額の計算表

※作成方法などは、操作説明（ヘルプ）の「中小事業者の税額計算特例表を作成する」をご参照ください。

なお、課税期間（集計期間）に応じた様式に自動で切り替わります。

- ・ 令和元年 9 月 30 日までに終了する課税期間 → 今までの様式
- ・ 令和元年 10 月 1 日以後に終了する課税期間 → 新様式

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.70

【改正情報】	
新元号(改元)に対応	2

● 新元号(改元)に対応

改元日2019年5月1日以後の日付から、新元号の日付に切り替わります。

○日付の入力では、暦表示が和暦の場合に、入力月にしたがって元号の表示が切り替わります。

※4月までは「平成」に、5月からは新元号の表示に切り替わります。

平成 31年5月 → 新元号 1年5月

新元号 1年4月 → 平成 31年4月

○画面表示や印刷、転送・汎用データ作成では、暦表示が和暦の場合に改元日以後は新元号で出力されます。

○汎用データ受入では、「日付」項目の書式が和暦形式の場合に、改元日以後は新元号の日付で受け入れできます。

※なお、改元日以後に「平成」の日付のままでも受け入れできます。

例)「平成31年5月」は「新元号1年5月(2019年5月)」として受入

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.69

【消費税改正情報】	
消費税10%への対応	2
複数税率（軽減税率制度）への対応	2
区分経理への対応（税率チェック）	2
汎用データ受入の対応	2
【その他改正情報】	
「収益認識に関する会計基準」に対応しました。完成振替処理で契約資産の計上が可能になりました。	3
【原価帳票】	
プロジェクト台帳のプロジェクト概略情報として、プロジェクト区分を2つまで出力できるようになりました。	3
プロジェクト別原価報告書で、プロジェクト情報を確認・出力できるようになりました。	4
プロジェクト一覧表・プロジェクト原価推移表にて、請負地域別・システム種類別などで集計できるようになりました。	5
プロジェクト一覧表で、新たに「予算粗利額」や「予算粗利率」などを確認できるようになりました。	6
プロジェクト一覧表で、「率」の列幅を補正できるようになりました。	6
プロジェクト原価推移表で、新たに「予算額」や「入金残」などを確認できるようになりました。	7

● 消費税10%への対応

○取引日付にもとづいた税率の自動判定

取引の日付にあわせて税率を自動判定し、税率改定後もミスなくスムーズに入力できます。

○旧税率8%（経過措置の取引）の計上

前回の8%への改定と同様に、今回も経過措置(※)が設けられています。

取引入力時に8%に変更します。

※旅客運賃等、電気料金等、請負工事等、資産の貸付けなどの取引
（詳細は国税庁のホームページを参照）

○アラート機能により入力ミスを未然に防止

施行日をまたいで伝票日付を修正した場合に、確認メッセージが表示され適切な税率を適用できます。

● 複数税率（軽減税率制度）への対応

○補助科目ごとに軽減税率を初期表示し迷わず起票

標準税率10%と軽減税率8%の複数税率は、補助科目（取引の品目）ごとの税率種別の設定で対応します。

同じ会議費でも会議室のレンタル料と茶菓子代の税率を切り替える必要がありますが、補助科目を選択するだけで迷わず起票（区分経理）できます。

※茶菓子代のほか、お中元お歳暮の食品や残業夜食のお弁当など

● 区分経理への対応（税率チェック）

○一覧形式での確認でチェック作業を効率化

標準税率10%、軽減税率8%、経過措置8%、売上返品値引きの取引等、混在する複数の税率が適切かを一覧形式でスムーズに確認できます。

● 汎用データ受入の対応

○新税率10%に対応

○軽減税率品目の取引用に、受入項目「税率種別」を追加

「消費税10%・軽減税率対応 運用ガイド」に、運用に関する一連の操作手順をまとめています。

最初に目次（1ページ）を参照して、必要な箇所をご確認ください。

※「消費税10%・軽減税率対応 運用ガイド」は、『操作説明（ヘルプ）』の「機能追加／改正情報」から参照できます。

その他改正情報

- 「収益認識に関する会計基準」に対応しました。
完成振替処理で契約資産の計上が可能になりました。

※「収益認識に関する会計基準」の適用が必要な企業は、上場企業およびその連結子会社です。

- ・適用時期：2021年4月1日以後開始する事業年度
- ・早期適用：2018年4月1日 //

プロジェクト契約の収益計上方法で以下に対応しています。

- ・「収益認識に関する会計基準」を適用した場合、契約資産と債権を区別して管理する必要があります。
進捗率に応じて収益を計上する際の相手科目（売掛金や契約資産）を指定することができます。
- ・進捗度を見積ることができない場合の新たな基準「原価回収基準」に対応しました。
プロジェクト原価のうち、回収する可能性が高い費用の額を売上高として計上します。

基準を適用する際は以下で設定します。

- ・収益認識基準：[導入処理]-[会計期間設定]-[原価管理設定]メニューの[基本設定]ページ
- ・原価回収基準：[導入処理]-[プロジェクト関連登録]-[プロジェクト登録]-[プロジェクト登録]メニューの[基本]ページ

具体的な完成振替での仕訳例は、[完成一括振替]メニューの操作説明（ヘルプ）「作成される仕訳例」の参考にある「完成振替[製造原価]で作成される仕訳例（収益認識）」をご参照ください。

原価帳票

- プロジェクト台帳のプロジェクト概略情報として、プロジェクト区分を2つまで出力できるようになりました。

プロジェクト台帳を印刷・転送する際に、プロジェクト概略情報としてプロジェクト区分を2つまで出力できるようになりました。

※[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページで設定

▼イメージ図

プロジェクト台帳			
○株式会社ABC株式会社			
2020年 4月 1日 至 2020年 3月 31日			
PAGE: 1			
【概略】			
プロジェクトコード	00000000001	積算金額	199,800,000
プロジェクト名	人事情報システム	積算消費総額	18,960,000
完成日	2020年 3月 10日	積算率	12.745.023
引渡日	2020年 3月 10日	積算金合計	218,460,000
予定期間	2020年 4月 10日～2020年 3月 10日	予算総額	63,076,000
積算地域区分	関東ブロック	入金額	2,000,000
システム構築区分	人事給与システム	入金残	216,960,000

- プロジェクト一覧表・プロジェクト原価推移表にて、請負地域別・システム種類別などで集計できるようになりました。

プロジェクト一覧表やプロジェクト原価推移表で、2つ目の区分種別を指定できるようになりました。

例えば「請負地域別・システム種類別」など、今までのシステム種類別の出力結果に対してさらに請負地域別にも分類でき、効果的な帳票を作成できます。

※各メニューとも[条件設定]画面の[基本条件2]ページで設定

▼イメージ図（プロジェクト一覧表）

コード	プロジェクト区分名	材料費	労務費	経費	外注費	当期製品製造原価
0001	仕組プロジェクト					
0001	開発ブロック	0	21,141,198	20,379,310	13,854,091	41,535,509
0001	会計システム	0	2,111,597	2,077,787	1,459,396	4,189,374
0004	人事給与システム	0	13,995,838	8,361,790	5,284,837	22,357,628
0008	その他システム	0	5,033,729	9,839,733	2,111,118	14,979,506
0002	北海道ブロック	0	4,216,948	8,040,072	5,839,393	12,257,021
0005	販売管理システム	0	459,370	4,470,500	3,500,004	4,937,870
0007	設計管理システム	0	3,757,579	5,561,572	2,339,334	7,319,151
0003	東北ブロック	240,575	1,698,729	4,129,432	3,018,522	8,047,796
0005	販売管理システム	240,575	0	1,499,342	1,186,968	1,747,917
0007	設計管理システム	0	1,698,729	2,624,090	1,851,854	4,232,619
0004	中部北陸ブロック	0	2,990,829	4,740,967	3,208,339	7,731,896
0001	会計システム	0	2,187,054	2,020,389	1,263,892	4,207,443
0008	その他システム	0	803,775	2,720,478	1,944,447	3,524,253

▼イメージ図（プロジェクト原価推移表）

コード	原価管理項目区分名	2018年 4月 発生	2018年 5月 発生	2018年 6月 発生	2018年 7月 発生
0001	仕組プロジェクト				
0001	開発ブロック				
C1100	材料費	0	0	0	0
C1200	労務費	2,782,268	3,320,724	2,520,744	9,465,653
C1300	経費	3,103,164	3,528,460	3,568,358	3,510,045
C1310	外注費	1,847,026	2,197,225	2,353,892	2,353,892
C1000	当期製品製造原価	5,885,432	6,849,184	6,089,102	12,975,899
0001	会計システム				
C1100	材料費	0	0	0	0
C1200	労務費	281,997	290,206	284,468	950,535
C1300	経費	312,158	421,280	312,529	305,704
C1310	外注費	184,445	291,667	184,445	184,445
C1000	当期製品製造原価	584,095	711,496	606,605	1,254,239
0004	人事給与システム				
C1100	材料費	0	0	0	0
C1200	労務費	2,140,655	2,285,094	1,470,602	8,079,962
C1300	経費	1,266,961	1,320,351	1,415,160	1,451,806
C1310	外注費	680,557	738,090	863,150	863,150
C1000	当期製品製造原価	3,415,616	3,805,445	2,899,782	7,525,769
0008	その他システム				
C1100	材料費	0	0	0	0

- プロジェクト一覧表で、新たに「予算粗利額」や「予算粗利率」などを確認できるようになりました。

プロジェクト一覧表で、新たに以下の項目を確認できるようになりました。

予算粗利額、予算粗利率、請負金額（税込）

予算額（当初または最終）、予算残（当初または最終）、消化率（当初または最終）

予算粗利額（当初または最終）、予算粗利率（当初または最終）

※上記項目は、[条件設定]画面の[項目選択]ページで追加選択、または[プロジェクト一覧表レイアウト登録]メニューで登録済みのレイアウトに追加登録することで、確認できます。

これにより、例えば最終予算と実績（当期製品製造原価）を確認する際に、あわせて参考情報として当初予算も出力できます。

- プロジェクト一覧表で、「率」の列幅を補正できるようになりました。

プロジェクト一覧表に出力される「粗利率」「消化率」のような「率」の列幅を、補正できるようになりました。

※[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページの[補正值] ボタンから設定

レイアウトを使用している場合は、[プロジェクト一覧表レイアウト登録]メニューの[印刷条件設定]画面の[基本設定]ページの[補正值] ボタンから設定

▼イメージ図

プロジェクト一覧表
B 2020年 4月 1日 至 2020年 3月 31日

○BICソフトウェア株式会社

プロジェクト名	当期製品製造原価	成率上乗	原価金	粗利額	粗利率	請負金額
仕掛プロジェクト						
人事管理システム	9,543,647	12,144,435	15,115,535	-2,314,541	15.06	100,000,000
システム導入管理システム	4,950,019	3,906,392	4,415,900	-1,070,021	-27.48	28,700,000
人事管理システム	7,847,982	10,830,688	11,514,863	-3,391,724	31.00	0
システム構築システム	11,563,445	19,441,888	20,227,017	-7,370,439	38.93	0
経営管理システム	10,437,894	7,836,830	8,874,482	-2,497,264	-21.47	0
運送管理システム	4,139,374	9,276,409	10,125,126	-5,187,210	35.34	0
旅行管理システム	6,424,140	8,701,290	9,227,000	-2,897,224	42.83	0
投資管理システム	4,845,833	6,481,468	6,987,800	-1,602,713	24.84	0
顧客管理システム	4,937,870	5,790,835	6,494,100	-3,892,960	43.83	75,380,000
POSシステム	1,747,917	2,600,899	2,938,780	-892,718	34.19	85,800,000
CRM/ロイヤリティ管理システム	3,824,280	5,215,205	5,740,960	-1,794,082	33.70	68,340,000
商品管理システム	6,733,814	10,421,145	11,245,660	-3,692,494	33.43	89,410,000
販売管理システム	8,407,899	12,871,114	16,815,800	-10,180,100	69.14	120,400,000
在庫管理システム	3,836,889	5,247,919	5,386,180	-2,000,830	37.60	54,630,000
サベージ管理システム	998,421	2,266,434	2,447,880	-1,269,831	56.03	49,900,000
POSシステム	6,105,760	9,425,891	10,110,200	-3,339,131	35.41	58,400,000
管理システム	1,812,694	3,878,362	3,864,620	1,768,660	49.34	82,880,000
コンピュータグラフィックス管理システム	4,023,793	10,099,446	10,907,400	-6,872,633	60.16	74,200,000
POSシステム	7,319,131	7,154,745	7,729,200	-1,244,426	-1.87	73,800,000
土木材料システム	4,294,819	7,881,669	8,479,800	-3,358,880	48.33	67,900,000
管理管理システム	4,207,443	3,645,836	3,937,000	-261,601	-18.40	0
車両管理システム	11,903,547	7,804,835	8,105,060	-4,401,514	-28.66	64,310,000
第一開発部製品開発管理プロジェクト	1,154,844	0	0	-1,154,844	0.00	0
第二開発部製品開発管理プロジェクト	1,055,782	0	0	-1,055,782	0.00	0
研究開発用プロジェクト	6,068,291	0	0	-6,068,291	0.00	0
その他	0	1,836,391,969	376,207,838	1,836,391,969	100.00	0
【仕掛合計】	137,420,009	2,917,810,308	874,139,701	1,880,390,299	93.19	1,070,320,000

プロジェクト一覧表
B 2020年 4月 1日 至 2020年 3月 31日

○BICソフトウェア株式会社

プロジェクト名	当期製品製造原価	成率上乗	原価金	粗利額	粗利率	請負金額
仕掛プロジェクト						
人事管理システム	9,543,647	12,144,435	15,115,535	-2,314,541	15.06	100,000,000
システム導入管理システム	4,950,019	3,906,392	4,415,900	-1,070,021	-27.48	28,700,000
人事管理システム	7,847,982	10,830,688	11,514,863	-3,391,724	31.00	0
システム構築システム	11,563,445	19,441,888	20,227,017	-7,370,439	38.93	0
経営管理システム	10,437,894	7,836,830	8,874,482	-2,497,264	-21.47	0
運送管理システム	4,139,374	9,276,409	10,125,126	-5,187,210	35.34	0
旅行管理システム	6,424,140	8,701,290	9,227,000	-2,897,224	42.83	0
投資管理システム	4,845,833	6,481,468	6,987,800	-1,602,713	24.84	0
顧客管理システム	4,937,870	5,790,835	6,494,100	-3,892,960	43.83	75,380,000
POSシステム	1,747,917	2,600,899	2,938,780	-892,718	34.19	85,800,000
CRM/ロイヤリティ管理システム	3,824,280	5,215,205	5,740,960	-1,794,082	33.70	68,340,000
商品管理システム	6,733,814	10,421,145	11,245,660	-3,692,494	33.43	89,410,000
販売管理システム	8,407,899	12,871,114	16,815,800	-10,180,100	69.14	120,400,000
在庫管理システム	3,836,889	5,247,919	5,386,180	-2,000,830	37.60	54,630,000
サベージ管理システム	998,421	2,266,434	2,447,880	-1,269,831	56.03	49,900,000
POSシステム	6,105,760	9,425,891	10,110,200	-3,339,131	35.41	58,400,000
管理システム	1,812,694	3,878,362	3,864,620	1,768,660	49.34	82,880,000
コンピュータグラフィックス管理システム	4,023,793	10,099,446	10,907,400	-6,872,633	60.16	74,200,000
POSシステム	7,319,131	7,154,745	7,729,200	-1,244,426	-1.87	73,800,000
土木材料システム	4,294,819	7,881,669	8,479,800	-3,358,880	48.33	67,900,000
管理管理システム	4,207,443	3,645,836	3,937,000	-261,601	-18.40	0
車両管理システム	11,903,547	7,804,835	8,105,060	-4,401,514	-28.66	64,310,000
第一開発部製品開発管理プロジェクト	1,154,844	0	0	-1,154,844	0.00	0
第二開発部製品開発管理プロジェクト	1,055,782	0	0	-1,055,782	0.00	0
研究開発用プロジェクト	6,068,291	0	0	-6,068,291	0.00	0
その他	0	1,836,391,969	376,207,838	1,836,391,969	100.00	0
【仕掛合計】	137,420,009	2,917,810,308	874,139,701	1,880,390,299	93.19	1,070,320,000

- プロジェクト原価推移表で、新たに「予算額」や「入金残」などを確認できるようになりました。

プロジェクト原価推移表で、新たに以下の項目を確認できるようになりました。

請負金額、予算額、予算残、消化率、入金残

※画面の「項目選択」（F4）から項目を追加

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.65 ／ Ver.2.62

目次

【仕訳処理】	
[証憑一括添付]メニューで、証憑を効率よく添付できるようになりました。	2
【消費税申告】	
国税電子申告（e-Tax）の改正（平成30年1月4日受付開始分）に対応しました。	2

仕訳処理

- [証憑一括添付]メニューで、証憑を効率よく添付できるようになりました。

※以下の機能は、仕訳伝票に電子証憑を添付している場合（[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[基本設定]ページで、電子証憑の添付が「1：する」の場合）に利用できます。

電子証憑を添付する仕訳伝票を目視ではすぐに見つけられないときに、証憑上の金額や取引先名などで頭出しできるようになりました。

※操作の具体的なイメージは、[証憑一括添付]メニューの操作説明（ヘルプ）「運用例」の「具体例 A - a」 - 「操作手順（初回）」 - 「Ⅲ. 仕訳伝票に電子証憑を関連付ける（リンク）」をご参照ください。

消費税申告

- 国税電子申告（e-Tax）の改正（平成30年1月4日受付開始分）に対応しました。

消費税の電子申告（e-Tax）で、ダイレクト納付の引落口座を複数事前申請・利用できるようになりました。

《 関連メニュー 》


[消費税申告]-[電子申告]-[消費税電子納税]メニュー


財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.60

※マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【仕訳処理】	
	地代家賃や書籍の定期購読などの契約書（電子証憑）を関連付けて予約しておくことで、毎月、決まった金額の仕訳伝票を定期的に起票できます。	2
	【消費税申告】	
	電子申告のメニュー構成を変更しました。	2

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

仕訳処理



- 地代家賃や書籍の定期購読などの契約書（電子証憑）を関連付けて予約しておくことで、毎月、決まった金額の仕訳伝票を定期的に起票できます。

地代家賃や書籍の定期購読などの契約書をスキャニングした電子証憑を、定型仕訳に添付して仕訳伝票予約機能を利用すると、毎月決まった金額の仕訳伝票を定期的に起票できます。なお、すでに前月入力した仕訳伝票に契約書の電子証憑が添付されている場合は、複写機能を利用して今月分を起票することもできます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票予約]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[定型仕訳データ受入]メニュー

消費税申告

- 電子申告のメニュー構成を変更しました。

変更前	変更後
[消費税申告]-[電子申告]- [消費税申告データ作成]メニュー	[消費税申告]-[電子申告]- [消費税申告データ送信]メニュー
[消費税申告]-[電子申告]- [消費税署名付与]メニュー	
[消費税申告]-[電子申告]- [消費税申告データ送信]メニュー	

電子申告データ作成から送信までを1メニューに集約し、[消費税申告]-[電子申告]-[消費税申告データ送信]メニューですべて行えるようになりました。

企業の署名と税理士の署名を付与する場合など署名を2回（以上）する場合は、今までどおり[消費税署名付与]メニューで署名を付与したのち、[消費税申告データ送信]メニューで送信します。

参 考

付与する署名が1つの場合は、[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニューの[システム設定]ページで付与署名数を「1」に設定します。


財務会計システム[個別原価管理編]


勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.58

目次

※マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【仕訳処理】	
	スキャナ保存された証憑を、仕訳伝票に関連付けできるようになりました。	2
	仕訳伝票の検索にて、税抜の伝票・税込の伝票それぞれをその計上金額で検索できるようになりました。また、元帳上の出力金額でも検索できます。	3
	プロジェクトが未登録でも『勘定奉行21[個別原価管理編]』の専用用紙に印刷できるようになりました。	3
	【会計帳票】	
	外貨内訳表で、取引先別に一覧で確認できるようになりました。 ＜『外貨入力オプション』をお使いの場合＞	4
	【原価帳票】	
	プロジェクト台帳で請負金額と入金残を出力することで、入金状況を明細単位で確認できるようになりました。	6
	【消費税申告】	
	消費税申告書が「法人用」の様式に変更されました。また、印刷部数の指定も変更されました。	7

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

仕訳処理



- スキャナ保存された証憑を、仕訳伝票に関連付けできるようになりました。

証憑のスキャナ保存をする上での「証憑の電子化（スキャン）」「電子証憑の管理」「仕訳の起票」のうち、「仕訳の起票」を当システムで行います。

仕訳伝票に証憑に関連付けできるとともに、その後、仕訳伝票の検索から電子証憑の追跡まででき、証憑確認などの業務の煩雑さを軽減します。

当システムにおける「証憑」のスキャナ保存の詳細は、操作説明の「電子帳簿保存・証憑スキャナ保存について（受領した「証憑」のスキャナ保存）」をご参照ください。

《 関連メニュー 》

主なメニュー

<事前設定>

- ・ [導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニュー

<仕訳の起票（証憑との関連付け）>

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[証憑一括添付]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票入力メニュー（IFRS組替のメニューを除く）
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー

※『自動実行管理オプション』をお使いの場合

<証憑の確認>

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]メニュー・[仕訳伝票一括転記]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票リストメニュー（IFRS組替のメニューを除く）
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー

※『自動実行管理オプション』をお使いの場合

- 仕訳伝票の検索にて、税抜の伝票・税込の伝票それぞれをその計上金額で検索できるようになりました。また、元帳上の出力金額でも検索できます。

税抜金額で計上した仕訳伝票と税込金額で計上した仕訳伝票が混在している場合でも、目的に応じて「伝票上での計上金額」または「元帳での出力金額」のそれぞれで検索できるようになりました。

具体的なイメージは[仕訳処理]メニューの[条件設定]画面の[基本条件]ページの操作説明で、「検索範囲」欄の [詳細](#) をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]の各メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]の各メニュー
 - ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理
 - ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
 - ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー
 - ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[仕訳伝票一括削除]メニュー
 - ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合

- プロジェクトが未登録でも『勘定奉行21[個別原価管理編]』の専用用紙に印刷できるようになりました。

プロジェクトを登録していなくても、『勘定奉行21[個別原価管理編]』で利用していた専用用紙をそのまま当システムでも利用できます。

- ・ [4133]単票仕訳伝票（OBCコクヨ式）
- ・ [4134]単票仕訳伝票（OBC5行）

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]）

会計帳票

- 外貨内訳表で、取引先別に一覧で確認できるようになりました。
 <『外貨入力オプション』をお使いの場合>

[外貨内訳表]メニューで、取引先ごとに外貨金額を一覧で確認できるようになりました。
 ※条件設定の項目「表示形式」を、[基本条件2]ページから[基本条件]ページへ移動しました。

▼イメージ図（画面）

コード	名義	繰越金額	借方	貸方	残高
135	売掛金				
0000001	太平洋販売株式会社				
001	米ドル	12,540.00	459,546.00	0.00	472,086.00
002	ユーロ	1,254.025	45,376.508	0.00	46,630.533
003	ユーロ	5,640.00	247,970.00	0.00	253,610.00
004	外貨未指定	564.000	30,375.790	0.00	30,939.790
000		68,442.457	0.00	0.00	68,442.457
	【太平洋販売株式会社計】	70,260.432	75,752.298	0.00	146,012.760

▼イメージ図（設定）

基本条件 | 詳細条件

表示形式

第一項目: 取引先別
第二項目: 外貨別

第一項目: 取引先別
第二項目: 外貨別

また、勘定科目ごとに外貨金額の内訳もあわせて確認することができます。

▼イメージ図（画面）

外貨内訳表
〇 B ソフトウェア株式会社
会計期間: 2008年 4月 1日 ~ 2008年 3月 31日

年計期間: 2008年 4月 1日 ~ 2008年 4月 30日
税引率: 税抜

上段: 外貨金額 下段: 円換算額

コード	名称	繰越金額	借方	貸方	残高
002	北日本銀行本店				
001	米ドル	245.00	45,680.00	0.00	45,926.00
		24,600	5,024,000	0	5,048,400
002	ユーロ	1,245.00	45,672.00	0.00	46,917.00
		145,600	4,658,544	0	4,804,144
000	外貨未指定	35,905,240	0	0	35,905,240
	【北日本銀行本店計】	36,075,440	9,682,544	0	45,758,004
	【当座預金計】	184,589,844	16,142,582	6,476,580	194,205,856
001	米ドル	686.00	54,880.00	65,420.00	-9,834.00
		69,600	5,945,000	6,476,580	-461,180
002	ユーロ	1,245.00	45,326.00	0.00	47,571.00
		145,600	4,731,752	0	4,877,352
000	外貨未指定	184,324,644	5,465,000	0	189,789,644

勘定科目計(当座預金計)行の下に
外貨別の内訳金額が表示されます。

▼イメージ図（設定）

表示形式

第一項目 補助科目別 第二項目 外貨別

☒ 勘定科目計を外貨別に表示する

チェックを付ける

原価帳票

- プロジェクト台帳で請負金額と入金残を出力することで、入金状況を明細単位で確認できるようになりました。

プロジェクト一覧表での入金状況の確認に加えて、プロジェクト台帳で明細単位での確認をできるようになりました。

事前に、[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト台帳]-[プロジェクト台帳レイアウト登録]メニューで、レイアウトを作成しておきます。

▼イメージ図

プロジェクト帳簿
OBCCソフトウェア株式会社

会計期間: 2005年 4月 1日 ~ 2005年 9月 31日

プロジェクト: 00000000025 資産管理システム

伝票日付	借方	貸方	原価計	純売上高	繰入金額	入金額	入金残(累計)
繰越金額			0	0	75,000,000	0	81,000,000
2005/09	110 当座預金	135 売掛金	0	0	0	6,500,000	74,500,000
	001 東都中央銀行本店						
000025							
	2005年 9月計		2,500,000	6,018,519	0	6,500,000	74,500,000

プロジェクト台帳レイアウト登録
OBCソフトウェア株式会社

修正
コード 0000
台帳レイアウト名 基本台帳 レイアウト

基本設定 費目設定

費目番号	コード	原価管理項目区分名	出力金額
[1]	CI100	材料費	0 発生金額を出力
[2]	CI200		
[3]	CI300		
[4]	CI000		
[5]	PI000	純売上高	0 発生金額を出力
[6]	CA	諸負金額	0 発生金額を出力
[7]	MRA	入金額	0 発生金額を出力
[8]	MRB	入金残	1 累計金額を出力

「入金残の計算方法」に合わせた項目を、レイアウトに追加します。

【諸負金計算方法】
【諸負金計算方法】
【諸負金計算方法】
【諸負金計算方法】
【入金残計算方法】
【入金残計算方法】
0 諸負金額 - 入金合計

消費税申告

- 消費税申告書が「法人用」の様式に変更されました。また、印刷部数の指定も変更されました。

消費税申告書（原則課税・簡易課税）の様式が「法人用」に変更され、マイナンバー等の項目名が変更されました。

▼イメージ図

The image shows two versions of a consumption tax declaration form side-by-side. The left version is labeled « 以前 » (Before) and the right version is labeled « Ver. 2.58 ». Both forms have a header section with fields for company name, address, and tax status. In the « Ver. 2.58 » version, the fields for company name and address are now labeled with the Japanese characters for '法人' (Corporation) and '代表者氏名' (Representative Name), which were not present in the previous version. Red boxes highlight these changes in both versions.

[印刷条件設定]画面での印刷部数の指定が「申告書」と「付表」に分かれました。申告書の部数には、OCR分を含めます。

▼イメージ図

The image shows two screenshots of the '消費税申告書 - 印刷条件設定' (Consumption Tax Declaration - Print Settings) screen. The left screenshot is labeled « 以前 » (Before) and the right screenshot is labeled « Ver. 2.58 ». In the « Ver. 2.58 » version, the settings are split into two sections: '申告書の設定' (Declaration Form Settings) and '付表等の設定' (Attachment Settings). The '申告書の設定' section has a '部数' (Number of copies) field set to 4, with a note indicating that this includes OCR data. The '付表等の設定' section has a '部数' field set to 3. A red arrow points from the '以前' version to the 'Ver. 2.58' version, highlighting the change in the number of copies for the declaration form.

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.56

目次

【仕訳処理】	
仕訳伝票の「専用用紙」「応用用紙」の印刷で、大きいフォントサイズ（奉行21シリーズと同じサイズ）で印字できるようになりました。	2
【会計帳票】	
補助元帳・取引先元帳の印刷で、タイトルを均等割付する設定の場合に、勘定科目名が常に均等割付されるようになりました。	3
【振替処理】	
振替後の原価帳票の粒度に応じて、完成振替伝票を取引先別・サブプロジェクト別に作成せずにまとめる設定ができます。	4
完成一括振替で、一度完成後に再度振り替えが必要な完成プロジェクトを自動的に抽出しお知らせします。	5
完成振替で、「完成日」や「引渡日」など振替日とは異なる日付で伝票を作成できるようになりました。	6
【配賦処理】	
社員別就労表を、社員の一覧やプロジェクトの一覧で作業時間を表示できるようになりました。	6
【消費税申告】	
輸入仕入の取引がある場合に、国内仕入と輸入仕入の消費税額を別々にチェックできるようになりました。	6
確認したい電子申告のメッセージだけを、最初から表示できるようになりました。	7
【決算処理】	
決算報告書、キャッシュ・フロー計算書を印刷する際に、先頭ページの番号を指定して、ページ番号を印字できるようになりました。	7

- 仕訳伝票の「専用用紙」「応用用紙」の印刷で、大きいフォントサイズ（奉行21シリーズと同じサイズ）で印字できるようになりました。

部門や勘定科目などの科目のフォントサイズに加えて「伝票日付」「伝票No.」「金額」のフォントサイズも、奉行21と同じサイズで印字できるようになりました。

<専用用紙>

[4117]単票仕訳伝票（OBCコクヨ式）・[4118]単票仕訳伝票（OBC5行）
[4133]単票仕訳伝票（OBCコクヨ式）・[4134]単票仕訳伝票（OBC5行）

※上記以外の専用用紙も含めて、「伝票日付」「伝票No.」「金額」のフォントサイズは、[印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページで変更できます。

<応用用紙>

フォントサイズのほか、明細行ごとに区切り線を出したり、項目ごとの間隔をお客様の見やすさに合わせて調整して印刷できるようになりました。

◀ 関連メニュー ▶

<専用用紙>

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー

<応用用紙>

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]）
- ・ [管理会計帳票]の管理会計伝票・管理会計伝票リストメニュー

- 補助元帳・取引先元帳の印刷で、タイトルを均等割付する設定の場合に、勘定科目名が常に均等割付されるようになりました。

今までは、タイトルを均等割付する設定でも、補助科目名が長い場合は勘定科目名は均等割付されませんでした。

今後は、タイトルを均等割付する設定の場合は、補助科目名の長さに影響されずに勘定科目名は常に均等割付されます。

取引先元帳も同様です。

▼イメージ図（例：補助元帳）

<今まで>

○ B C 商事株式会社	110 当 座 預 金	F101: 1 【得意】 【補助元帳】						
	002 東都中央銀行本店							
均等割付されたり されなかったりする	<table border="1"> <thead> <tr> <th>借 方</th><th>貸 方</th><th>残 高</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>繰上金</td><td></td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	借 方	貸 方	残 高	繰上金		0	
借 方	貸 方	残 高						
繰上金		0						

補助科目名が短くて均等割付される場合だけ、勘定科目も均等割付される

○ B C 商事株式会社	110 当座預金	F101: 1 【得意】 【補助元帳】						
	001 東都中央銀行門前町駅前支店							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>借方</th><th>貸方</th><th>残高</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>繰上金</td><td></td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	借方	貸方	残高	繰上金		0		
借方	貸方	残高						
繰上金		0						

補助科目名が長くて均等割付されない場合は、勘定科目も均等割付されない

<今後>

○ B C 商事株式会社	110 当 座 預 金 002 東都中央銀行本店	F101: 1 【得意】 【補助元帳】						
常に均等割付される	<table border="1"> <thead> <tr> <th>借 方</th><th>貸 方</th><th>残 高</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>繰上金</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	借 方	貸 方	残 高	繰上金			補助科目名の長さにかかわらず、勘定科目名は均等割付される
借 方	貸 方	残 高						
繰上金								

○ B C 商事株式会社	110 当 座 預 金 001 東都中央銀行門前仲町駅前支店	F101: 1 【得意】 【補助元帳】						
借高貸付 借高0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>借 方</th><th>貸 方</th><th>残 高</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>繰上金</td><td></td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	借 方	貸 方	残 高	繰上金		0	
借 方	貸 方	残 高						
繰上金		0						

振替処理

- 振替後の原価帳票の粒度に応じて、完成振替伝票を取引先別・サブプロジェクト別に作成せずにまとめる設定ができます。

今までは必ず、取引先別・サブプロジェクト別に完成振替伝票が作成されていましたが、今後は、取引先別・サブプロジェクト別に作成しないでまとめることができます。

※[会社運用設定]メニューの[振替・配賦設定]ページの「完成振替後の帳票確認」で設定
(ページの名称が、今までの[配賦設定]から[振替・配賦設定]に変更されています。)

例えば、取引先別には原価金額を確認しない場合は、完成振替伝票を取引先別に作成せず、「0:その他」取引先にまとめて作成できます。

作成される完成振替伝票の枚数が少なくなるため、仕訳伝票リスト・元帳や台帳の印刷枚数も減らせます。

▼完成振替伝票イメージ(取引先)

<取引発生時>

借方		貸方	
仕掛材料仕入高 取引先 <A>	80,000	買掛金 取引先 <A>	80,000
仕掛材料仕入高 取引先 	100,000	買掛金 取引先 	100,000

<完成時>

「取引先別に確認する」設定にした場合

借方		貸方	
材料仕入高 取引先 <A>	80,000	仕掛材料仕入高 取引先 <A>	80,000
材料仕入高 取引先 	100,000	仕掛材料仕入高 取引先 	100,000

「取引先別に確認しない」設定にした場合

借方		貸方	
材料仕入高 取引先 <その他>	180,000	仕掛材料仕入高 取引先 <その他>	180,000

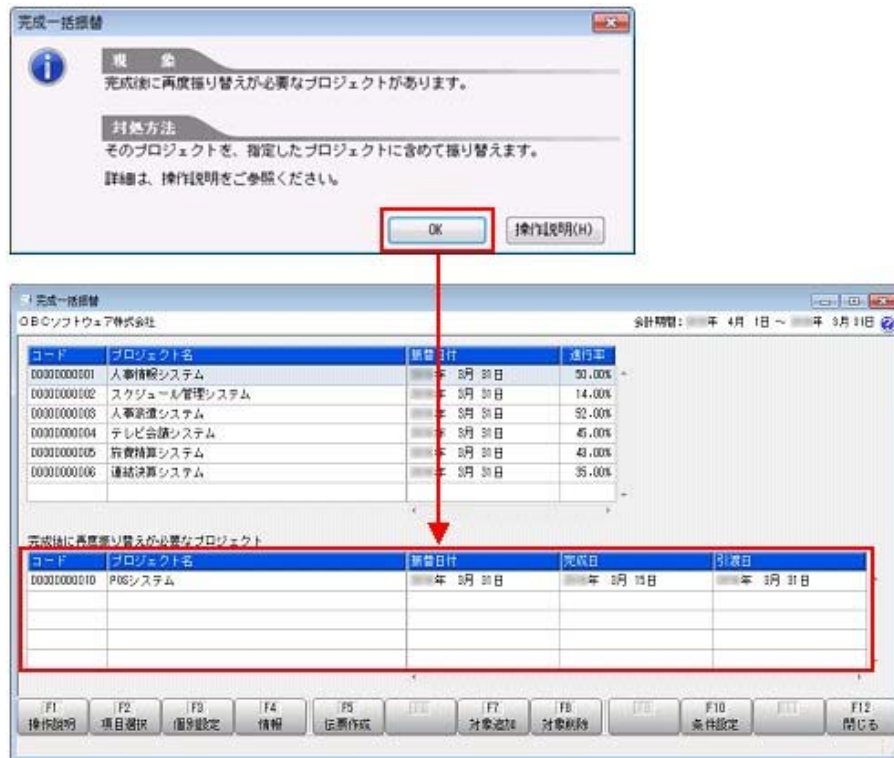
◀ 関連メニュー ▶

- ・ [導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニュー
- ・ [振替処理]-[完成振替]の各メニュー

- 完成一括振替で、一度完成後に再度振り替えが必要な完成プロジェクトを自動的に抽出しお知らせします。

一度完成したにもかかわらず、仕掛品科目に残高があるプロジェクトが抽出されます。そのまま完成振替を実行することですべての原価を計上できるため、業務効率が上がります。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

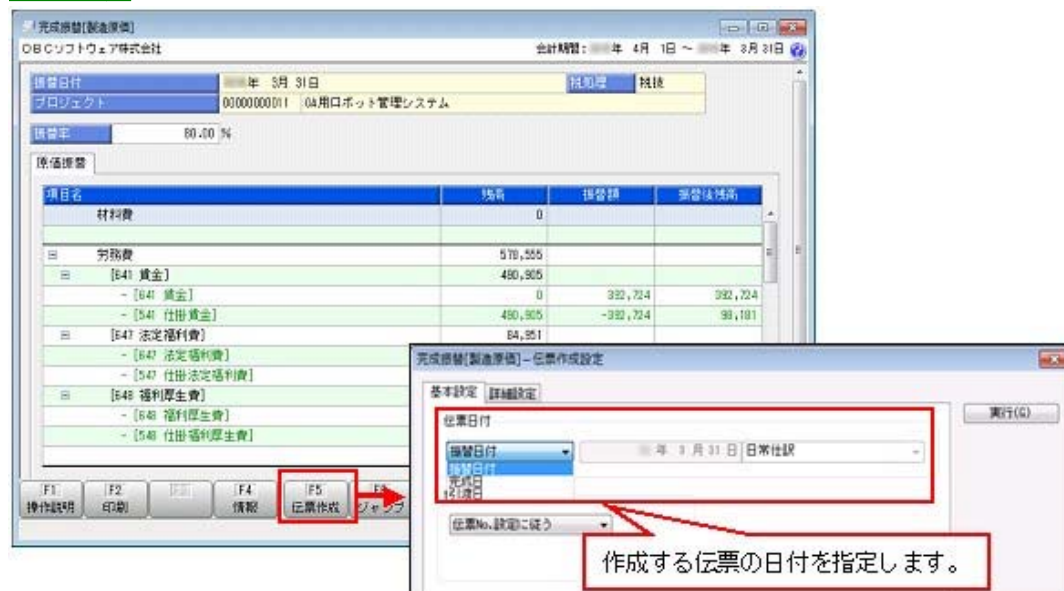
[振替処理]-[完成振替]-[完成一括振替]メニュー

- 完成振替で、「完成日」や「引渡日」など振替日とは異なる日付で伝票を作成できるようになりました。

今までは、振替日がそのまま作成される伝票の日付になっていましたが、プロジェクトごとの「完成日」や「引渡日」で伝票を作成できるようになりました。

間接費配賦などで、プロジェクトが完成した後に原価が追加で発生するような場合は、振替日は月末までで伝票日付は完成日といった伝票を作成できます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [振替処理]-[完成振替]-[完成振替[製造原価]]メニュー
- ・ [振替処理]-[完成振替]-[完成一括振替]メニュー

配賦処理

- 社員別就労表を、社員の一覧やプロジェクトの一覧で作業時間を表示できるようになりました。

[配賦処理]-[労務費配賦]-[社員別就労表]メニューで、複数のプロジェクトや社員を一覧で確認できます。

さらに、[配賦処理]-[労務費配賦]-[日報入力]メニューへジャンプできるようになったため、[日報入力]メニューを開き直すことなく、スムーズに日報を修正できます。

消費税申告

- 輸入仕入の取引がある場合に、国内仕入と輸入仕入の消費税額を別々にチェックできるようになりました。

科目別課税対象額集計表において、国内仕入と輸入仕入の消費税額が別の行に表示されるようになりました。

それぞれの消費税額を別々にチェックできます。

- 確認したい電子申告のメッセージだけを、最初から表示できるようになりました。

[消費税申告]-[電子申告]-[国税メッセージボックス確認]メニューで電子申告のメッセージを確認する際に、確認したい目的にあわせた内容だけを最初から表示できるようになりました。

例えば、今回一括で申告した結果や特定の顧問先の申告結果だけをスムーズに確認できます。

決算処理

- 決算報告書、キャッシュ・フロー計算書を印刷する際に、先頭ページの番号を指定して、ページ番号を印字できるようになりました。

先頭ページの番号を指定して、ページ番号を印刷できます。

前回の印刷ページ数に続けて、連番でページ数を付番できるようになるため、バインダ等にまとめて保管するときに管理しやすくなります。

▼イメージ図

※[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定



前回印刷したときの最終ページが「9」の場合は、「+1」した「10」を指定することで連番になります。

《 関連メニュー 》

- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー計算書]メニュー

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.54

《法改正情報》

マイナンバー制度（消費税申告書の様式変更）に対応しました。

2

- マイナンバー制度（消費税申告書の様式変更）に対応しました。

○消費税申告書の様式変更

マイナンバー制度（「社会保障・税番号制度」）の導入に伴い、消費税申告書の様式変更に対応しました。

※電子申告にも対応しています。

当システムでは、課税期間（会計期間）に応じて、新旧の様式を自動判定します。

▼イメージ図（消費税申告書の新様式）

＜消費税申告書（原則課税）＞

※平成27年10月1日以後に終了する課税期間の申告から

＜消費税申告書（簡易課税）＞

※平成28年1月1日以後に開始する課税期間の申告から

＜消費税及び地方消費税の中間申告書（前年実績に基づく予定申告）＞

※平成28年1月1日以後に開始する課税期間の申告から

○法人番号の印字

平成28年1月1日以後に開始する課税期間（会計期間）の消費税申告書に、法人番号が印字されます。

例)

◎会計期末が「12月末」の場合

- ・「平成27年12月決算」の申告書には印字なし
- ・「平成28年1月開始」の課税期間の申告書から印字される

◎会計期末が「3月末」の場合

- ・「平成28年3月決算」の申告書には印字なし
- ・「平成28年4月開始」の課税期間の申告書から印字される


※法人番号は、あらかじめ[会社情報登録]メニューの「法人番号」欄に入力します。




財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.52 ／ Ver.2.51 ／ Ver.2.50

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【法改正情報】	
	平成27年10月施行消費税改正（国境を越えた役務の提供にかかる消費税）に対応しました。	3
	【データ領域管理】	
	データ領域ごとにパスワードを設定できるようになりました。	6
	【導入処理】	
	マイナンバー制度（「社会保障・税番号制度」）の導入に伴い、法人番号を追加しました。	6
	[会社運用設定]や[会計期間設定]メニューなどの設定内容を、他の利用者が伝票入力などの作業中でも確認できるようになりました。	7
	【仕訳処理】	
	部門や勘定科目の他に、プロジェクトなど印刷するマスターが多くても1行(明細)に収めることで、仕訳明細単位での確認をしやすくなります。	7
	伝票の一部を修正した場合などに、特定のページだけ印刷（専用用紙）できます。	9
	『勘定奉行21[個別原価管理編]』の専用用紙に対応しました。	9
	仕訳伝票の検索で税抜金額からも検索できるようになりました。	10
	【会計帳票】	
	[元帳]メニューのピボット出力で、貸借対照表科目を残高ベースで確認できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	10
	勘定科目ごとの外貨金額の取引先別一覧を、[元帳]メニューから確認できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『外貨入力オプション』をお使いの場合＞	11
	【原価帳票】	
	プロジェクト原価集計表から元帳へ直接ジャンプできるようになりました。	11
	プロジェクト別予算実績対比表で、複数のプロジェクトの確認や印刷を連続でできるようになりました。	11
	確認の必要がない「0：その他」プロジェクトの金額を非表示にできます。	12
	「0：その他」プロジェクトの入金額の集計内容が変更されました。	12
	【振替処理】	
	進行基準を適用したプロジェクトの原価振替で、原価比例法以外の任意の進行率を利用できるようになりました。	13
	【配賦処理】	
	労務費配賦の振替金額の登録で、前月分を複写する機能が追加され効率的に金額を入力できます。	14
	労務費配賦用に日報入力された作業時間をもとに、間接費を配賦できるようになりました。	14
	【消費税申告】	
	税務代理権限証書の様式を改訂しました。	15
	【決算処理】	
	株主資本等変動計算書における変動事由「当期純利益」の出力位置を、変更できるようになりました。	15

	【随時処理】	
	翌期へ繰り越しの際に、入金残や支払残が0（ゼロ）になった完成プロジェクトを自動的に無効にできます。	15
	登録済みの仕訳伝票上の税区分を、非課税から課税へ一括変更でき、かつ消費税額も自動で計算されます。	16
	取引先の汎用データ受入で、メモ欄など登録済みの文字を一度にクリアできるようになりました。	17

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

法改正情報

- 平成27年10月施行消費税改正（国境を越えた役務の提供にかかる消費税）に対応しました。

当システムに影響のある改正は、大きく2つです。

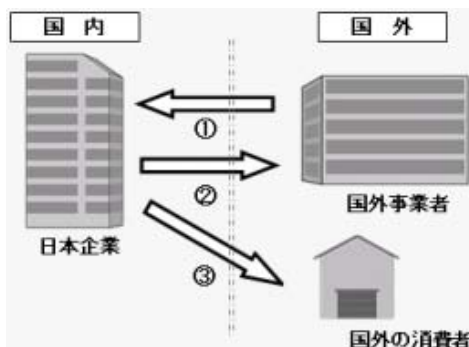
- 国外との商品の売買・サービスの提供のうちインターネット等を介した売買・提供に関して、課税取引なのか不課税取引なのかを判定する基準が変更されました。
- 新しい課税方式「リバースチャージ方式」が導入され、国外事業者が納税する売上げにかかる消費税を、日本企業が申告時に代わりに納税します。

※平成27年10月1日以後の取引から適用

詳細は、以下のとおりです。

○ 国外との一部の取引における内外判定の見直し

国外との商品の売買・サービスの提供のうちインターネット等を介した売買・提供に関して、課税取引なのか不課税取引なのかを判定する基準が、商品を販売・サービスを提供する側から商品の購入・サービスを受ける側の住所等に変更されました。



（インターネット等を介した商品の売買・サービス提供）

	今まで	今後（10月1日以後）
①	不課税仕入	課税仕入
②	課税（免税売上）	不課税売上
③	〃	〃

購入／提供を受ける側【①】

国外からの商品の購入・サービスの提供のうちインターネット等を介した購入・提供は、消費税がかかります。



事業者に限られる商品の購入・サービス提供を受ける（事業者向け電気通信利用役務の提供）

※インターネット広告の配信・掲載やクラウドサービスなど

→ 今までの「不課税仕入」から「特定課税仕入」に変更

消費者向けの商品の購入・サービス提供を受ける（事業者向け電気通信利用役務の提供以外）

※電子書籍、音楽、ソフトウェア等の購入

→ 今までの「不課税仕入」から「課税仕入」に変更

※該当する取引については、以下を参照

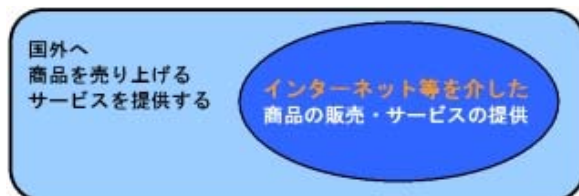
操作説明「税区分運用例一覧」の

「国外取引」－「仕入・費用」の[E（事業者に限られる取引）]の「取引例（具体的な取引）」

「国外取引」－「仕入・費用」の[F（消費者向けの取引）]の「取引例（具体的な取引）」

販売／提供する側【②③】

国外への商品の販売・サービスの提供のうちインターネット等を介した販売・提供は、今までの「免税売上」から「不課税売上」になります。



当システムでは、仕訳伝票を入力する際に適切な税区分を指定することで対応します。

指定する税区分は、操作説明「税区分運用例一覧」の「国外取引」－「売上・売却」の[B]をご確認ください。

○新しい課税方式の導入

事業者に限られる商品の購入・サービス提供を受けるときの課税方式として、「リバースチャージ方式」が新たに導入されました。

本来、商品の販売やサービスを提供する国外事業者が納税する売上げにかかる消費税を、国外事業者の代わりに日本企業が申告時に納税します。

当システムでは、特定課税仕入れ用の税区分が追加されていますので、仕訳伝票を入力する際にその税区分を指定することで対応します。

詳細は、操作説明「税区分運用例一覧」の「国外取引」－「仕入・費用」の[E]をご確認ください。

○消費税申告書と付表の様式変更と、新しい別表の追加

「リバースチャージ方式」の導入に伴い、原則課税用の消費税申告書と付表の様式が変更されました。

また、新しい別表「特定課税仕入れがある場合の課税標準額等の内訳書」が追加されました。

▼イメージ図（消費税申告書などの新様式）

消費税申告書

付表 1

付表 2

付表 2－(2)

▼イメージ図（新しい別表）

The image shows a screenshot of a Japanese tax form, specifically a 'New Schedule' (新しい別表). The form is titled '課税期間中の所得及び所得割の計算' (Calculation of income and income tax during the tax period). It contains several sections for reporting tax-related information, including a table for tax payments and a table for tax credits. The form is filled out with sample data, showing the calculation of income tax and the resulting tax liability.

当システムでは、課税期間（会計期間）に応じて、新旧の様式を自動判定します。

データ領域管理

- データ領域ごとにパスワードを設定できるようになりました。

[データ領域管理]-[データ領域保守]-[データ領域パスワード設定]メニューが追加され、データ領域に対してパスワードを設定できるようになりました。

データ領域を使用する際に、パスワードの入力が必要になります。この機能を使用することにより、簡単にセキュリティを強化できます。

《 関連メニュー 》

[グループ企業管理]-[グループ企業データ領域保守]-[グループ企業データ領域パスワード設定]メニュー

※『勘定奉行V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合

導入処理

- マイナンバー制度（「社会保障・税番号制度」）の導入に伴い、法人番号を追加しました。

平成27年10月から事業主へ法人番号の通知が開始されます。

これに伴い、当システムでは、[導入処理]-[会社情報登録]メニューに「法人番号」の入力欄が追加されました。

法人番号は、平成28年1月1日以後に開始した事業年度の消費税申告書に印字されます。

- [会社運用設定]や[会計期間設定]メニューなどの設定内容を、他の利用者が伝票入力などの作業中でも確認できるようになりました。

[会社運用設定]メニューや[会計期間設定]メニューなどの設定内容を確認する際に、今までは、他の利用者の作業を止める（メニューを閉じる）必要がありましたが、今後は同時にメニューを開けます。

※設定を変更する場合は、[修正]（F9）を押します。

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[会計期間設定]-[原価管理設定]メニュー
 - ・ [導入処理]-[会計期間設定]-[システム科目設定]メニュー
 - ・ [導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニュー

 - ・ [グループ企業管理]-[マスター配信]-[配信運用設定]メニュー
 - ・ [グループ企業管理]-[グループ企業合算]-[合算運用設定]メニュー
- ※『勘定奉行V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合

仕訳処理



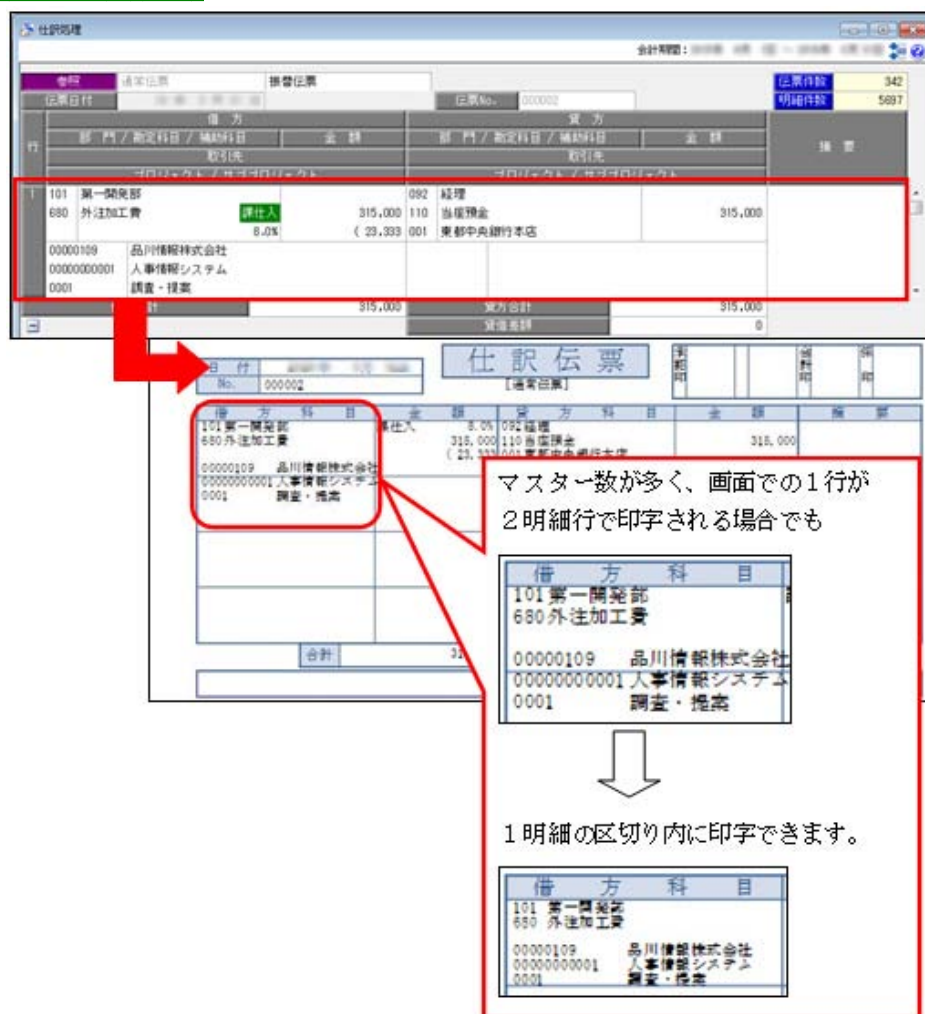
- 部門や勘定科目の他に、プロジェクトなど印刷するマスターが多くても1行(明細)に収めることで、仕訳明細単位での確認がしやすくなります。

今までは、勘定科目をはじめ出力するマスター（部門・補助科目・取引先・プロジェクトなど）が多い場合に、画面での1行が、印刷では2明細行で印字されていました。

これからは、1明細の区切り内に印字できるため、仕訳明細の確認がしやすくなるとともに、印刷枚数も抑えられます。

※1明細の区切り内には、最大で6行分のマスターを収めて印刷できます。

▼イメージ図(印刷)



マスター数が多く、画面での1行が2明細行で印字される場合でも

1明細の区切り内に印字できます。

▼イメージ図(設定)



チェックを付けたと、1明細の区切り内に印字できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]）

- 伝票の一部を修正した場合などに、特定のページだけ印刷（専用用紙）できます。

専用用紙でも特定のページを指定して印刷できるようになりました。

伝票の一部を修正した場合やプリンタの紙詰まりなどで、一部のページを差し替えたい場合に活用できます。

▼ イメージ図

※[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]）

- 『勘定奉行21[個別原価管理編]』の専用用紙に対応しました。

『勘定奉行21[個別原価管理編]』で利用していた専用用紙を、そのまま当システムでも利用できます。

- ・ [4133]単票仕訳伝票（OBCコクヨ式）
- ・ [4134]単票仕訳伝票（OBC5行）

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]）

- 仕訳伝票の検索で税抜金額からも検索できるようになりました。

仕訳伝票の検索において、今までは税込金額での検索だけでしたが、今後は税抜金額・税込金額のどちらでも検索できます。

例) 消費税額を「税抜金額からの計算」で入力している仕訳伝票の場合

借 方			貸 方		
勘定科目 / 補助科目	全 額		勘定科目 / 補助科目	全 額	
604 仕入高	課仕入 8.0%	1,000 80	305 買掛金		600
			100 現金		480

これからは、「1,000～1,000」と税抜金額を指定して検索できます。
また、今まで通り「1,080～1,080」と税込金額を指定しても検索できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]の各メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]の各メニュー
 - ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）
 - ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
 - ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー
 - ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[仕訳伝票一括削除]メニュー
 - ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合

会計帳票

- [元帳]メニューのピボット出力で、貸借対照表科目を残高ベースで確認できるようになりました。

＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞

今までの元帳のピボット出力では、発生金額ベースだけしか確認できませんでした。
これからは、残高ベースでもピボット出力できるようになるため、貸借対照表科目（売掛金など）の金額を残高で確認できます。

▼イメージ図

※ [ピボット条件設定]画面の [分析設定] ページで設定

出力金額

☒ 繰越金額を出力する

残高ベースで確認する場合はチェックを付けます。
発生金額ベースの場合はチェックを外します。

- 勘定科目ごとの外貨金額の取引先別一覧を、[元帳]メニューから確認できるようになりました。

＜「OMS S」の「Office連携サービス」／『外貨入力オプション』をお使いの場合＞

[元帳]メニューのピボット出力機能を活用することで、勘定科目ごとの外貨金額を取引先別に一覧で確認できます。

具体的な活用例は、操作説明の「勘定科目ごとの外貨金額を、取引先別に一覧で確認する」をご参照ください。

原価帳票



- プロジェクト原価集計表から元帳へ直接ジャンプできるようになりました。

これまでは、プロジェクト原価集計表の金額を仕訳明細レベルまで確認する際に、[元帳]メニューを開き直し、さらに集計条件を合わせる必要がありました。

これからは、画面で勘定科目行をダブルクリックするか、または「ジャンプ」のファンクションキー（[F6]キー）を押すと元帳へ直接ジャンプできるため効率的に確認できます。

▼イメージ図

コード	科目名	合計	経元開用プロジェクト(その他)
100	現金	240,000	0
A120	現金計	240,000	0
110	当座預金	607,969,877	0
111	普通預金	225,000,000	0
A120	現金計	832,969,877	0
A120	現金及び現金当座計	832,969,877	0
135	売掛金	376,176,408	0
145	有価証券	50,000,000	0
A1300	当座貸度計	1,258,390,675	0
PR010	仕掛品計	18,207,589	5,276,124
A1400	棚卸資産計	18,207,589	5,276,124

《 関連メニュー 》

- ・[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト一覧表]-[プロジェクト一覧表]メニュー
- ・[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト原価集計表]メニュー
- ・[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト原価推移表]メニュー

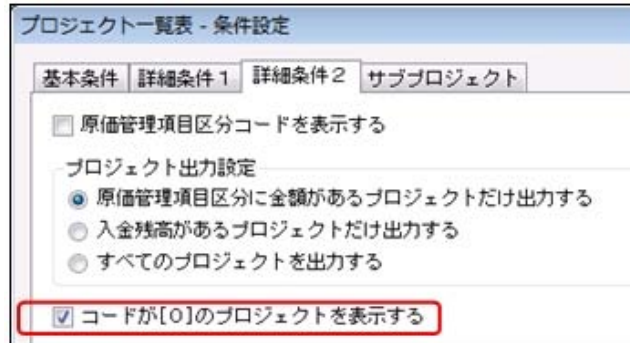
- プロジェクト別予算実績対比表で、複数のプロジェクトの確認や印刷を連続でできるようになりました。

[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト別予算実績対比表]メニューで、複数のプロジェクトを順にひとつずつ確認する場合に、今まではプロジェクトを指定しなおす手間がありました。これからは、画面表示後のファンクションキーで、プロジェクトを順に切り替えながら確認できます。

- 確認の必要がない「0：その他」プロジェクトの金額を非表示にできます。

これまですべてのプロジェクトを出力する場合に、「0：その他」のプロジェクトが必ず表示されていました。確認の必要がない場合には非表示にできます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [原価帳票] - [プロジェクト別原価帳票] - [プロジェクト一覧表] - [プロジェクト一覧表]メニュー
- ・ [原価帳票] - [プロジェクト別原価帳票] - [プロジェクト原価集計表]メニュー
- ・ [原価帳票] - [プロジェクト別原価帳票] - [プロジェクト原価推移表]メニュー

- 「0：その他」プロジェクトの入金額の集計内容が変更されました。

「0：その他」プロジェクトの入金額の集計から、「仮受消費税」科目の金額を外しました。

《 関連メニュー 》

- ・ [原価帳票] - [プロジェクト別原価帳票]の各メニュー

振替処理



- 進行基準を適用したプロジェクトの原価振替で、原価比例法以外の任意の進行率を利用できるようになりました。

進行基準を適用したプロジェクトについて、完成途中の原価振替では、今まではその時点での原価全額が振り替えられていました。

今後は選択により、原価全額ではなく指定した進行率（振替率）に応じた金額を、仕掛品科目から製造原価科目へ振り替えます。

▼イメージ図

[原価管理設定]メニュー

原価管理設定	
OBCソフトウェア株式会社	
会計期間	
参照	
基本設定 計算方法 詳細設定	
【基本設定】	
入力科目設定	1 仕掛科目を使用する
【仕掛品科目区分設定】	
仕掛品科目区分	PRO10 仕掛品計
【棚卸科目設定】	
仕掛品科目	
期首仕掛品棚卸高科目	
期末仕掛品棚卸高科目	
【消費税計上方法】	
未完工事支出金の仕入税額控除	0 課税額の都度計上
工事進行基準適用のプロジェクト	1 完了時（進行率100%）に一括計上
【工事進行基準設定】	
進行率の見積方法	1 原価比例法以外

[完成振替[製造原価]]メニュー

完成振替[製造原価]	
振替日付	
プロジェクト	0000000001 人事情報システム
進行率	50.00 %

《 関連メニュー 》

- ・ [振替処理]-[完成振替]-[完成振替[製造原価]]メニュー
- ・ [振替処理]-[完成振替]-[完成一括振替]メニュー

配賦処理

- 労務費配賦の振替金額の登録で、前月分を複写する機能が追加され効率的に金額を入力できます。

毎月一部の金額だけを変更する場合、前月の金額を複写して一部を修正することで、効率的に入力できます。

「前月複写」のファンクションキー（[F 6]キー）を押すことで、前月の金額を複写できます。

▼イメージ図

社員番号	氏名	振替項目	振替金額	基本給	福利厚生費
100000	山田 一郎		289,000	64,000	1,000
100001	川谷 しげる		256,300	34,000	1,000
100002	小川 いずみ		353,200	61,300	1,000
100004	新井 清雄		400,300	93,000	3,000
100005	森田 達治		334,300	62,300	1,000
100006	加藤 恭子		330,400	58,500	1,000
100008	藤川 光男		310,400	51,300	1,000
100010	福岡 明夫		289,300	46,000	1,000
100014	山川 静夫		250,500	39,300	1,000
100016	平光 達一		245,300	29,300	1,000
100017	福井 和栄		380,500	66,500	1,000
100019	深瀬 安正		294,300	44,500	1,000
100020	今村 孝一		312,300	54,500	1,000
100024	門山 聖一		345,300	62,100	1,000
100026	谷山 達子		312,300	49,900	1,000
100028	山口 功三		289,300	45,900	1,000

《 関連メニュー 》

[配賦処理]-[労務費配賦]-[振替金額登録]メニュー

- 労務費配賦用に日報入力された作業時間をもとに、間接費を配賦できるようになりました。

労務費配賦用に[日報入力]メニューで登録した作業時間を、間接費の配賦基準にして配賦できます。
[配賦処理]-[間接費配賦]-[間接費配賦設定]-[間接費配賦基準登録]メニューの配賦基準型で「9：時間型(日報)」を指定します。

《 関連メニュー 》

- ・ [配賦処理]-[間接費配賦]-[間接費配賦]メニュー
- ・ [配賦処理]-[間接費配賦]-[間接費一括配賦設定]-[間接費配賦条件パターン登録]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[配賦基準データ受入]-[間接費配賦基準データ受入]メニュー

消費税申告

- 税務代理権限証書の様式を改訂しました。

電子申告・書面申告において、「所得税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第9号）に対応しました。

平成27年7月1日以後に提出する税務代理権限証書について、「代理人が複数ある場合における代表する代理人の定め」に関する項目を追加した、改訂後の様式で出力できます。

《 関連メニュー 》

[消費税申告]-[税理士添付書面]-[税務代理権限証書]メニュー

決算処理

- 株主資本等変動計算書における変動事由「当期純利益」の出力位置を、変更できるようになりました。

株主資本等変動計算書に出力する「当期純利益」の出力位置を、[決算処理]-[決算報告書]-[株主資本等変動計算書登録]-[変動事由登録]メニューで任意に変更できるようになりました。

[科目体系登録]メニューで勘定科目を並び替えるように、コードを変更せずに変動事由を並び替えることができます。

詳細は、操作説明の「株主資本等変動計算書での変動事由の並び順を変更する」をご参照ください。

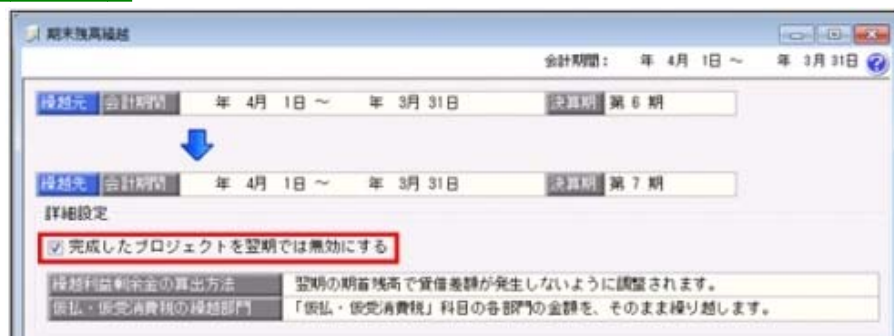
随時処理

- 翌期へ繰り越しの際に、入金残や支払残が0（ゼロ）になった完成プロジェクトを自動的に無効にできます。

[決算処理]-[期末処理]-[期末残高繰越]メニューでは、「完成したプロジェクトを翌期では無効にする」にチェックを付けると、完成したプロジェクトのうち、入金残や支払残が0（ゼロ）になったプロジェクトだけを自動的に無効にできます。

翌期以降の原価帳票で、不要なプロジェクトを非表示にできます。

▼イメージ図



[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括変更]-[マスターデータ一括無効]メニューに、完成プロジェクトを無効にする条件が追加され、入金残や支払残が0（ゼロ）のプロジェクトだけを無効にできます。

▼イメージ図

マスターデータ一括無効 - 条件設定

基本条件 項目選択

有効期間(終了)日付指定

年 3 月 31 日

範囲指定

完成区分 1 完成

指定なし ~

指定なし ~

完成プロジェクトの詳細指定

☒ 入金残があるプロジェクトを含めない

☒ 支払残があるプロジェクトを含めない

科目設定(\$)...

- 登録済みの仕訳伝票上の税区分を、非課税から課税へ一括変更でき、かつ消費税額も自動で計算されます。

[税区分一括変更]メニューで、「非課税から課税の税区分へ」または「課税から非課税の税区分へ」一括で変更できるようになりました。

※今までは、「非課税から非課税」または「課税から課税」への変更だけでした。

また、課税の税区分に変更した場合は、あわせて消費税額も自動で計算されます。

詳細は、操作説明の「税区分を一括で変更する具体例と手順」をご確認ください。


財務会計システム[個別原価管理編]






勘定奉行V ERP




機能アップガイド

Ver.2.18 / Ver.2.17

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【全般】	
	バックアップデータのファイルサイズが小さくなりました。（OBC専用モードの場合）	3
	【帳票全般】	
	仕訳伝票リスト・決算報告書・管理会計帳票でも、PDFファイルを出力できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	3
	仕訳明細の確認時に、付箋メモも常に表示して確認できるようになりました。	4
	損益計算書の内訳帳票「製造原価報告書」「販売費及び一般管理費明細書」の構成比の分母に、「純売上高」を指定できるようになりました。	5
	【データ領域管理】	
	当初予算など最終予算以外の予算を合算できるようになりました。	6
	【導入処理】	
	原価管理項目を登録すると同時に、原価管理体系に割り当てできるようになりました。	6
	【仕訳処理】	
	仕訳伝票リストの内容を、クイックメニューからExcelに転送できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	7
	仕訳入力画面の伝票日付で2桁を入力後、カーソルを自動的に次の項目に移動できます。	7
	仕訳明細の行を削除する際、「借方（貸方）だけ削除」の場合は、下の行が上へシフトしなくなりました。	8
	仕訳入力画面の摘要欄で上下キーを押した際に、コード欄からコード欄へ移動できるようになりました。	8
	摘要を検索する際に、コード検索と名称検索を多用する場合に便利な、簡易的な検索画面を用意しました。	9
	連想摘要を検索する際に、入力済みの勘定科目に関連付いた連想摘要を、貸借別に検索できるようになりました。	9
	部門権限のない部門の仕訳明細は、マスター情報のほかに摘要欄もマスキングします。	10
	【会計帳票】	
	元帳を印刷する際に、先頭ページのページ番号を指定して印刷できるようになりました。	10
	自動計算された消費税額を元帳で転送する際、税処理が「税抜」の場合は、項目タイトルが「消費税額」になります。	11
	【原価帳票】	
	プロジェクト一覧表の出力項目として、プロジェクト情報を選択できます。	11
	プロジェクト一覧表でExcelピボットグラフを作成できるようになり、プロジェクト情報を使用してピボット分析できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	11
	あらかじめ決まっているプロジェクト一覧表のレイアウトを、利用者間で共通で利用できます。	12

	台帳を印刷する際に、先頭ページのページ番号を指定して印刷できるようになりました。	12
	【分析帳票】	
	増減率に加えて前年比を出力できます。	12
	【管理会計帳票】	
	＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞	
	管理会計帳票のレイアウトで、管理会計科目を列に展開したり、マスターを明細行に出力したりできるようになりました。	13
	管理会計帳票を「原価管理体系」で作成できるようになりました。	14
	管理会計推移表でも、「借方金額」「貸方金額」の月次推移を個別に出力できるようになりました。	14
	管理会計帳票を、区分やグループ単位でも集計できるようになりました。	15
	Excel 計算式で参照する列番号・行番号を固定するために、「絶対参照」を利用できるようになりました。	15
	管理会計帳票でも、財務会計側の部門を使用できるようになりました。	15
	管理会計帳票でも、出力時の集計期間の指定で、整理仕訳を集計に含めるかを設定できるようになりました。	15
	【随時処理】	
	外貨伝票を汎用データで受け入れる際に、為替レートをもとに、日本円金額を換算しながら受け入れできます。	16
	＜『外貨入力オプション』をお使いの場合＞	
	【メニュー体系】	
	メニュー構成を変更しました。	16

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

全般

- バックアップデータのファイルサイズが小さくなりました。（OBC専用モードの場合）

バックアップデータを「OBC専用モード」で作成した際に、バックアップデータが自動的に圧縮されるようになり、サイズが小さくなりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [データ領域管理]-[バックアップ/復元]-[一括バックアップ]メニュー
 - ・ [随時処理]-[バックアップ]メニュー
 - ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[自動実行バックアップ]メニュー
- ※[自動実行管理]の各メニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

帳票全般



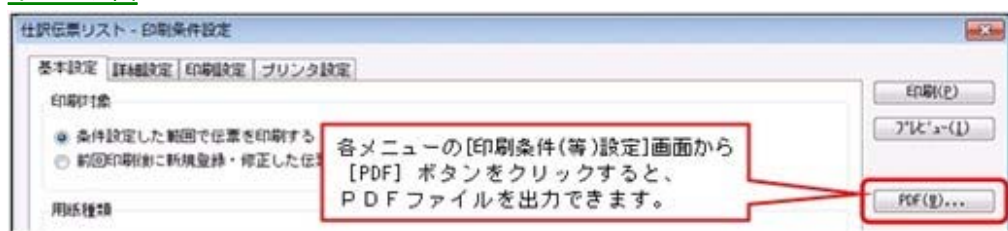
- 仕訳伝票リスト・決算報告書・管理会計帳票でも、PDFファイルを出力できるようになりました。

＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞

仕訳伝票リスト・決算報告書・管理会計帳票でも、PDFファイルを出力できるようになりました。

※会計帳票や分析帳票などについては、すでにPDFファイルを出力できる機能が追加されています。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー

▼その他の[仕訳伝票リスト]関連メニュー

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票リスト]メニュー
- ※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]の各帳票メニュー
- ※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニュー

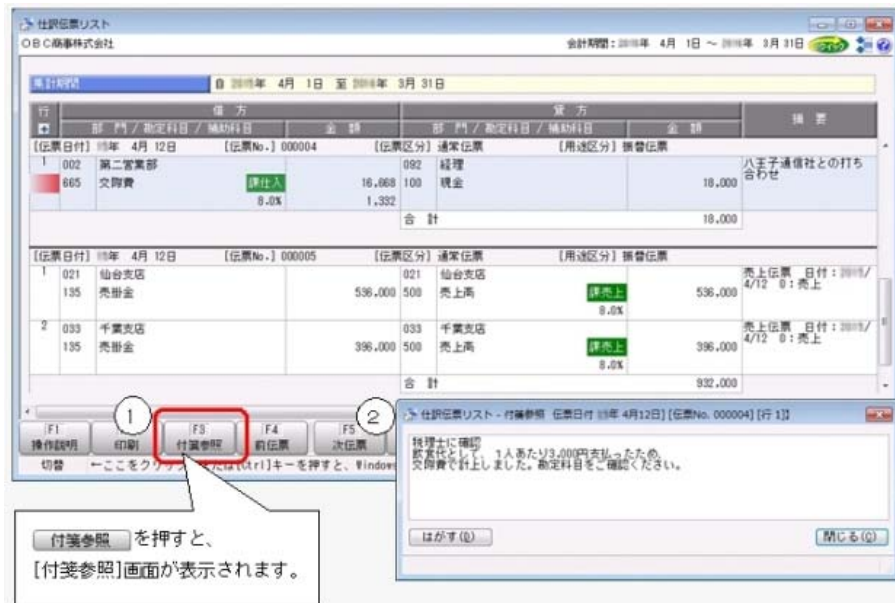
● 仕訳明細の確認時に、付箋メモも常に表示して確認できるようになりました。

今までのように、必要に応じて付箋メモを確認する方法に加えて、あらたに、仕訳明細の確認時に常に付箋メモも確認することができるようになりました。

例えば、以下の業務に活用できます。

- ・ 入力した仕訳伝票を後から確認する際に、仕訳明細と付箋メモを横に並べて確認
- ・ 承認する際に、貼られた付箋メモを横に並べて確認

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[消費税手入力確認リスト]メニュー
- ・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [消費税申告]-[税区分明細表]メニュー
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）

- 損益計算書の内訳帳票「製造原価報告書」「販売費及び一般管理費明細書」の構成比の分母に、「純売上高」を指定できるようになりました。

合計残高試算表や推移表などの帳票で、損益計算書の内訳帳票「製造原価報告書」「販売費及び一般管理費明細書」の構成比の分母として、「純売上高」などの損益計算書の科目区分も指定できるようになりました。

※決算報告書については、すでに損益計算書の科目区分も指定できる機能が追加されていますが、会計帳票・分析帳票についても機能が追加されました。

▼イメージ図

[科目体系帳票設定]メニュー

《 関連メニュー 》

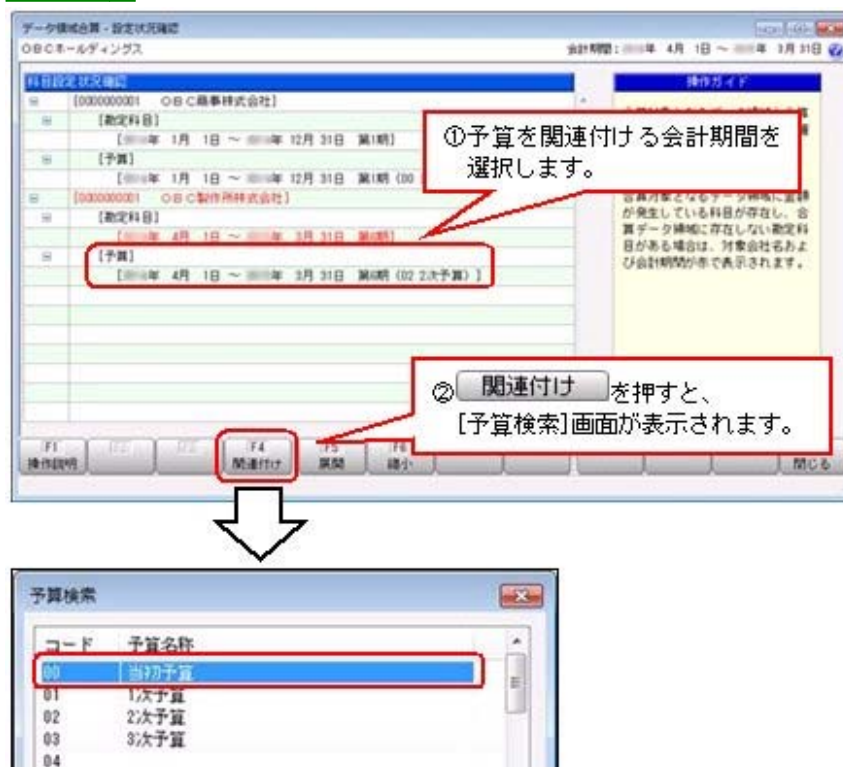
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[科目体系帳票設定]メニュー
- ・ [導入処理]-[出力様式登録]-[出力様式登録]-[出力様式帳票設定]メニュー

データ領域管理

- 当初予算など最終予算以外の予算を合算できるようになりました。

これまでは、自動で「最終予算」が合算されていましたが、「当初予算」など任意の予算を合算できます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[データ領域合算]メニュー
 - ・ [グループ企業管理]-[グループ企業合算]-[グループ企業合算]メニュー
- ※『勘定奉行 V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合

導入処理

- 原価管理項目を登録すると同時に、原価管理体系に割り当てできるようになりました。

今までは、以下のメニュー順でそれぞれ設定・登録が必要でした。

1. [導入処理]-[原価管理体系登録]-[原価管理項目登録]メニュー
2. [導入処理]-[原価管理体系登録]-[原価管理体系登録]メニュー

今回のバージョンから、[導入処理]-[原価管理体系登録]-[原価管理項目登録]メニューにてワンストップで登録できます。


《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[原価管理体系登録]-[原価管理項目登録]メニュー

仕訳処理

- 仕訳伝票リストの内容を、クイックメニューからExcelに転送できるようになりました。

＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

仕訳伝票リストの画面で  をクリックすると、表示されている内容をExcelに転送できます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー

▼その他の[仕訳伝票リスト]関連メニュー

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票リスト]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）

- 仕訳入力画面の伝票日付で2桁を入力後、カーソルを自動的に次の項目に移動できます。

伝票日付の年月日欄で2桁まで入力した際に、今までは、Enterキーで確定することで次の項目に移動していました。

伝票日付2桁入力時の移動（[仕訳処理-設定]画面の[移動設定]ページで設定）で「移動する」を選択すると、自動的に次の項目に移動します。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力メニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）

- 仕訳明細の行を削除する際、「借方（貸方）だけ削除」の場合は、下の行が上へシフトしなくなりました。

今までは、「1行すべて削除」と同様に、「借方だけ削除」「貸方だけ削除」の場合も「上にシフトする」設定になっていました。

今後は、「借方だけ削除」「貸方だけ削除」の場合は、初期では下の行が上へシフトしなくなります。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー

▼その他の[仕訳処理]関連メニュー

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力メニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー

- 仕訳入力画面の摘要欄で上下キーを押した際に、コード欄からコード欄へ移動できるようになりました。

摘要コード欄や文字入力欄で、矢印キー（[↓]キー・[↑]キー）を押した際の移動先を設定できるようになりました。

摘要の上下キーでの移動（[仕訳処理-設定]画面の[移動設定]ページで設定）で「通常移動」を選択すると、摘要のコード欄からコード欄へ、または、文字入力欄から文字入力欄へ移動します。

※今までは、摘要のコード欄と文字入力欄を交互に移動していました。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力メニュー

- 摘要を検索する際に、コード検索と名称検索を多用する場合に便利な、簡易的な検索画面を用意しました。

摘要の検索形式を選択できるようになりました。

摘要の検索形式（[仕訳処理－設定]画面の[奉行21設定]ページで設定）で「奉行21形式」を選択すると、摘要コードの検索と名称（摘要内容）の検索をボタン1つで切り替えられるため、それぞれの検索を多用する場合に便利です。

※「標準形式」では今まで通り、摘要コード・摘要内容・インデックス・連想摘要をリストから選択して切り替えます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
 - ※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力メニュー

- 連想摘要を検索する際に、入力済みの勘定科目に関連付いた連想摘要を、貸借別に検索できるようになりました。

連想摘要の検索形式（[仕訳処理－設定]画面の[奉行21設定]ページで設定）で「奉行21形式」を選択すると、連想摘要が貸借別に検索されます。

つまり、借方に入力済みの勘定科目に関連付いた借方の連想摘要、貸方の勘定科目に関連付いた貸方の連想摘要だけに絞られて検索されます。

※「標準形式」では今まで通り、勘定科目が借方貸方のどちらに入力されていても、その科目に関連付いたすべての連想摘要が、貸借区別なく検索されます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
 - ※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力メニュー

- 部門権限のない部門の仕訳明細は、マスター情報のほかに摘要欄の参照も制限します。

今までのマスター情報だけの参照制限（*表示）に加えて摘要も制限することで、摘要内容から取引内容が知られることを防ぎます。

※この機能は、ネットワーク対応製品の場合に使用できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [会計帳票]-[資金繰]-[資金繰明細表]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]の各メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]の各メニュー
- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー

会計帳票

- 元帳を印刷する際に、先頭ページのページ番号を指定して印刷できるようになりました。

元帳を印刷する際に、先頭ページのページ番号を指定できるようになりました。

▼イメージ図

※[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定

前回の印刷ページの後から続けてページ数を付番できるようになるため、月単位などでまとめてバインダに保管するときに連番にすることで、管理しやすくなります。

※仕訳伝票リストについては、すでに先頭ページのページ番号を指定して印刷できる機能が追加されています。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー

- 自動計算された消費税額を元帳で転送する際、税処理が「税抜」の場合は、項目タイトルが「消費税額」になります。

自動計算された消費税額を元帳で転送する際、今までは、税処理に関わらず、項目タイトルが「うち消費税額」で出力されていました。

今後は、以下のとおり、税処理で切り替わります。

税抜の場合：「消費税額」

税込の場合：「うち消費税額」

また、Excelに転送した際に、「うち消費税額」の表示形式（分類）を「文字列」から「数値」に変更しました。

今までは、「（」を含んだ文字列で転送していたため、「うち消費税額」を計算式に含めることができませんでしたが、今後は二次利用できます。

原価帳票



- プロジェクト一覧表の出力項目として、プロジェクト情報を選択できます。

これまで原価管理項目区分を出力できました。これに加えて、プロジェクト情報（予定期間など）も出力できるようになりました。

また、発生金額と累計金額を一度に出力できるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト一覧表]-[プロジェクト一覧表]メニュー



- プロジェクト一覧表でExcelピボットグラフを作成できるようになり、プロジェクト情報を使用してピボット分析できるようになりました。

<「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合>

プロジェクト一覧表で、業務情報の集計表（ピボットテーブル）やグラフ（ピボットグラフ）に出力し、ピボット分析ができるようになりました。

Excelの専門知識がなくても、簡単な操作だけで次々と切り口を切り換えたり（スライサー）、関心項目の詳細まで絞り込み（ドリルダウン）して視覚的に分析することで、情報の傾向や問題点を見つけ出すことができます。

プロジェクト情報も出力できるようになったため、システムなどのプロジェクト情報から、多角的な分析ができます。



- あらかじめ決まっているプロジェクト一覧表のレイアウトを、利用者間で共通で利用できます。

企業ごとに決まっている出力項目をレイアウトとしてあらかじめ登録することで、これまで利用者ごとに整えていた出力項目を作成する手間が省けます。

《 関連メニュー 》

- ・ [原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト一覧表]-[プロジェクト一覧表]メニュー
- ・ [原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト一覧表]-[プロジェクト一覧表レイアウト登録]メニュー

- 台帳を印刷する際に、先頭ページのページ番号を指定して印刷できるようになりました。

プロジェクト台帳・部門原価台帳を印刷する際に、先頭ページのページ番号を指定できるようになりました。

▼イメージ図

※[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定

前回の印刷ページの後から続けてページ数を付番できるようになるため、月単位などでまとめてバインダに保管するときに連番にすることで、管理しやすくなります。

※仕訳伝票リストについては、すでに先頭ページのページ番号を指定して印刷できる機能が追加されています。

《 関連メニュー 》

- ・ [原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト台帳]-[プロジェクト台帳]メニュー
- ・ [原価帳票]-[部門別原価帳票]-[部門原価台帳]-[部門原価台帳]メニュー

分析帳票

- 対比表で、増減率に加えて前年比を出力できます。

対比表で、前年比を出力できるようになりました。

例) 前期：100,000円 今期：200,000円の場合

前年比 = 当期金額 ÷ 前期金額 × 100 = 200%

増減率 = (当期金額 - 前期金額) ÷ 前期金額の絶対値 × 100 = 100%

《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[対比表]の各メニュー

管理会計帳票

＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞



- 管理会計帳票のレイアウトで、管理会計科目を列に展開したり、マスターを明細行に出力したりできるようになりました。

○管理会計科目を列に展開して（横に並べて）、出力できるようになりました。

管理会計集計表・管理会計推移表で、今までは、管理会計科目は行（縦軸）固定でしたが、今後は列（横軸）に出力できるようになります。

▼イメージ図

取引先別売上集計表		自 2019年 4月 1日 至 2019年 3月 31日		管理会計科目が列（横軸）に表示されます。	
発生期間	会社名	〇 B C 商事株式会社	税処理	税掛	単位： 円
取引先	売上高	売上原価	粗利益	粗利率	
00000001 太平建設株式会社	370,255,804	668,164,591	304,091,213	31.3%	
00000002 株式会社岩手産業	652,200,549	131,388,901	520,811,648	79.9%	
00000003 株式会社茨城電機	282,857,474	134,907,420	158,050,054	55.9%	
00000004 群馬事務株式会社	271,548,862	52,129,637	219,420,225	80.8%	
00000005 埼玉商事株式会社	417,956,718	31,209,710	386,153,006	92.5%	
00000006 株式会社千葉デンキ	230,295,345	135,370,393	94,924,952	41.2%	
00000007 東京事務株式会社	592,578,579	278,796,325	313,782,248	53.0%	
00000008 神奈川物産株式会社	334,179,766	84,074,094	250,099,672	74.8%	
00000009 新潟工業株式会社	153,956,068	96,388,899	57,567,969	37.4%	
00000010 石川販売株式会社	420,477,382	105,027,949	315,449,433	75.0%	
00000011 名古屋電機商事株式会社	239,389,923	141,111,133	98,278,790	41.1%	
00000012 大阪事務株式会社	43,937,213	95,555,565	-51,618,352	-117.6%	
00000013 福岡商事株式会社	69,571,431	40,000,017	29,571,414	34.0%	
00000014 京都システム株式会社	32,588,766	65,489,824	-32,891,058	-162.2%	
00000016 株式会社広島興産	13,801,612	92,593	13,709,019	99.3%	
00000017 テック高松株式会社	6,812,840	0	6,812,840	100.0%	
00000018 株式会社福岡屋	9,480,141	1,951,952	7,528,289	80.5%	
00000020 鹿児島文具	5,157,086	2,777,779	2,379,307	46.1%	
00000021 高松百貨店株式会社	23,511,033	9,462,039	14,048,994	59.8%	
00000022 新潟フラワー株式会社	3,500,490	0	3,500,490	100.0%	
00000023 T-SHOP株式会社	1,149,171	462,963	686,208	59.7%	
00000028 札幌工務店株式会社	129,026,409	15,472,225	113,554,184	87.9%	
00000000 その他	0	65,921,124	-65,921,124	0.0%	

マスターが行（縦軸）に表示されます。

○マスターを明細行に出力することで、1つの帳票で比較分析できるようになりました。
 管理会計分析表・管理会計推移表で、今までは、部門などマスターごとに必ず帳票が分割されていましたが、今後は、マスターを明細行に出力できるため、1つの帳票で一覧で確認できます。

▼イメージ図

部門別売上対費用5期間比較表									
発生期間		自 2018年 4月 1日 至 2018年 3月 31日							
会社名		〇〇商事株式会社							
税務処理		税務							
単位設定		単位：円							
1つの帳票で、マスターを一覧で確認できます。									
部門	名称	前月実績	前々月実績	7/前期実績	7/前期比	2/前期実績	3/前期実績	4/前期実績	5/前期実績
001 第一営業部	売上高	473,973,946	469,479,719	-17,495,773	96,482	462,619,734	439,465,721	426,366,664	
	売上原価	214,916,939	217,489,983	-2,449,364	99,972	214,354,793	209,423,435	209,677,919	
	売上総利益	259,056,947	252,000,736	-14,399,889	94,822	248,264,941	230,042,286	216,688,744	
	人件費	19,545,334	19,539,829	25,505	100,102	19,575,569	19,765,383	19,541,529	
	人件費	87,576,734	89,529,390	8,958,344	100,562	87,694,790	88,286,160	84,403,608	
	一般管理費	19,896,126	20,705,319	-1,895,193	94,733	20,690,599	20,671,155	20,591,848	
売上高及び一般管理費計		586,324,133	589,694,533	-9,310,655	100,262	583,955,757	568,436,139	557,662,377	
002 第二営業部	売上高	121,240,750	149,187,819	-21,844,485	94,672	139,699,209	102,397,119	181,889,797	
	売上原価	439,185,140	469,987,260	-14,182,117	96,972	439,756,011	429,476,189	409,293,819	
	売上総利益	180,476,976	184,603,537	-4,092,521	96,972	174,112,020	186,679,291	179,940,292	
	人件費	299,796,167	299,804,799	-8,998,666	96,972	294,842,000	296,796,888	229,802,527	
	人件費	19,785,260	19,819,480	-41,212	95,782	19,514,215	19,152,540	19,739,769	
	一般管理費	79,382,896	79,262,280	9,820,916	112,972	69,689,140	69,112,420	65,420,488	
売上高及び一般管理費計		300,905,472	308,962,287	-8,156,815	100,622	294,441,355	295,509,539	235,162,257	
011 札幌支店	売上高	471,941,910	394,001,337	14,940,639	140,962	397,349,068	261,576,019	359,190,295	
	売上原価	187,963,507	181,177,221	5,886,286	100,922	89,714,863	97,312,310	99,619,293	
	売上総利益	383,978,403	212,824,116	171,154,287	140,040	307,634,205	164,263,709	259,570,902	
	人件費	69,642,184	12,623,559	57,818,611	551,682	12,805,925	16,029,899	12,681,532	
	人件費	91,137,872	69,647,476	489,962	100,972	49,529,439	49,344,390	47,595,799	
	一般管理費	16,374,993	12,222,787	4,152,206	135,443	12,225,153	12,212,685	12,174,682	
売上高及び一般管理費計		569,455,775	476,871,602	92,584,173	101,912	529,388,801	325,948,793	475,447,063	
021 仙台支店	売上高	296,451,475	289,148,572	3,302,903	101,102	279,529,756	269,696,486	269,395,534	
	売上原価	184,784,289	189,313,335	-5,547,046	94,972	189,697,301	184,722,575	189,639,109	
	売上総利益	181,895,186	182,835,237	-8,440,349	104,642	179,832,455	184,973,911	189,756,424	
	人件費	12,182,189	12,375,917	-193,728	96,482	12,459,495	12,782,289	12,409,076	
	人件費	81,878,882	89,664,689	1,784,572	100,522	49,199,489	49,199,489	47,199,489	
	一般管理費	11,895,347	12,784,689	-1,895,193	91,483	12,789,399	12,776,822	12,795,233	
売上高及び一般管理費計		389,373,811	391,829,915	-2,456,104	100,972	382,228,343	371,675,600	379,689,755	

● 管理会計帳票を「原価管理体系」で作成できるようになりました。

管理会計科目体系を「原価管理体系」で作成できるようになりました。
 原価管理体系で管理会計帳票を作成すると、プロジェクト別の予算を集計できます。

※今までは、合計残高試算表などの会計帳票の科目体系だけで管理会計帳票を作成できました。

《 関連メニュー 》

- ・[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]の各帳票メニュー
- ・[管理会計帳票]-[管理会計マスター登録]-[管理会計科目登録]メニュー
- ・[管理会計帳票]-[帳票レイアウト設定]-[列項目設定]-[列項目登録]メニュー



● 管理会計推移表でも、「借方金額」「貸方金額」の月次推移を個別に出力できるようになりました。

月次や四半期などの推移の金額を、「借方金額」「貸方金額」と個別に出力できるようになりました。（前方または後方の固定列の金額も同様）
 また、勘定奉行実績の「借方金額」「貸方金額」に、発生金額だけでなく累計金額も出力できます。

《 関連メニュー 》

- ・[管理会計帳票]-[帳票レイアウト設定]-[列項目設定]-[列項目レイアウト設定]メニュー

- 管理会計帳票を、区分やグループ単位でも集計できるようになりました。

下記の区分やグループ単位でも集計できるようになりました。

- ・取引先区分
- ・セグメント1／2グループ
- ・プロジェクト区分・サブプロジェクト区分

《 関連メニュー 》

- ・[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]の各帳票メニュー



- Excel計算式で参照する列番号・行番号を固定するために、「絶対参照」を利用できるようになりました。

Excel計算式で参照する列番号・行番号は、今までは「相対参照」だけでしたが「絶対参照」で固定できるようになりました。

例えば、マスターの合計金額や全社員数を絶対参照でExcel計算式に組み込むことで、構成比や共通費の配賦などに利用できます。

《 関連メニュー 》

- ・[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[帳票出力設定]-[Excel計算式設定]メニュー

- 管理会計帳票でも、財務会計側の部門を使用できるようになりました。

○財務会計側の部門（[導入処理]-[部門登録]-[部門登録]メニューで登録）をそのまま、管理会計帳票で集計できるようになりました。

今までは、管理会計帳票用の部門階層（部門グループ）を作成する必要がありました。

○財務会計側の部門ごとに、「管理会計予算」「管理会計実績」「非会計情報」を登録できるようになりました。

今までは、管理会計帳票用の部門階層に「管理会計予算」「管理会計実績」「非会計情報」を登録し、親階層の金額は合算（[管理会計帳票]-[管理会計金額入力]の各合算メニュー）する必要がありました。

今後は、財務会計側の部門（[導入処理]-[部門登録]-[部門登録]メニューで登録）ごとに登録することで、合算せずとも、部門グループ別（親階層）に集計できます。

- 管理会計帳票でも、出力時の集計期間の指定で、整理仕訳を集計に含めるかを設定できるようになりました。

整理仕訳と日常仕訳を分けて管理している場合（[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページで設定）に、今までも、整理仕訳を集計するかを各管理会計帳票メニューの条件設定で設定（[実績条件]ページの「整理仕訳の集計条件」で設定）できました。

今後は別途、集計期間の範囲指定でも設定できるようになります。

例えば、決算整理業務が終わるまでは、一時的に整理仕訳を除いて集計できます。

《 関連メニュー 》

- ・[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]の各帳票メニュー
- ・[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[帳票出力設定]-[Excel計算式設定]メニュー

随時処理

- 外貨伝票を汎用データで受け入れる際に、為替レートをもとに、日本円金額を換算しながら受け入れできます。

＜『外貨入力オプション』をお使いの場合＞

外貨金額の仕訳伝票や期首残高の汎用データを、為替レートをもとに日本円金額に自動換算しながら、当システムのデータとして受け入れます。

《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[データ換算受入]-[仕訳伝票データ換算受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[データ換算受入]-[開始残高データ換算受入]メニュー

メニュー体系

- メニュー構成を変更しました。

変更前	変更後
クライアントツールとして提供	[データ領域管理]-[データ領域保守]-[奉行 Open-DB 運用管理設定]メニュー


財務会計システム[個別原価管理編]


勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.16 / Ver.2.15

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【法改正情報】	
	消費税額のチェック機能が強化されました。	2
	平成27年4月施行消費税法改正（簡易課税制度のみなし仕入率の見直し）に対応しました。	3
	【メニュー体系】	
	メニューの構成を変更しました。	3
	【消費税申告】	
	税区分明細表で、複数の税区分の確認や摘要での抽出ができるようになりました。	4
	【随時処理】	
	『勘定奉行21[個別原価管理編]』からコンバートした場合は、プロジェクトコードの枝番を一括で取り除くことができます。	5

法改正情報



● 消費税額のチェック機能が強化されました。

消費税 8 %改正に伴い、消費税率 8 %の取引と経過措置による消費税 5 %の取引が混在するようになったことで、消費税申告書を作成する前のチェック業務が煩雑になっています。

煩雑さを軽減し、より効率的に金額を追跡できる機能が追加されました。

○ 消費税額の入力ミス・計上漏れを可視化

課税取引額に消費税率をかけた消費税額（概算）を出力し、仕訳伝票で計上されている消費税額との差（概算との差）が「率」として表示されるようになりました。

自動計算された消費税額の手入力ミスや消費税額の計上漏れがないかを確認できます。なお、科目別課税対象額集計表では、手入力ミスや計上漏れの可能性が高い場合は欄が黄色で強調表示されます。

▼ イメージ図

消費税額			
消費税額 (伝票計上) [B]	消費税額 概算 (A × 税率) [C]	概算との差額 [B - C]	
63,817	64,033	-216	0.03%
560	6,003	-5,443	7.25%
5,600	5,600	0	0.00%

この欄をダブルクリックすると[仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[消費税手入力確認リスト]メニューにジャンプし、原因となる仕訳明細が表示されます。

さらに、その修正までを一連の流れでできます。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[消費税手入力確認リスト]メニュー

○ 補助科目ごとに出力

消費税管理資料でも、補助科目ごとに金額を確認できるようになりました。

補助科目ごとに、課税取引と非課税取引や免税取引を分けている場合に、効率よく金額をチェックできます。

▼ イメージ図

コード	科目名	税率	仕/売	通/込	科目金額(税抜)	非課税率取引額	課税取引額(税抜)	
							本体過算 (消費税過算計上)	本体過算 (消費税自動計算) [A]
704	文庫費	-	-	-	94,016	30,000	0	64,016
001	慶弔費	-	-	-	30,000	30,000	0	0
000	その他	8.0%	仕入	通常	64,016	0	0	64,016

不課税取引（慶弔費）を
わけて確認できます。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニュー
- ・ [消費税申告]-[科目別税区分集計表]メニュー

○「科目別課税対象額集計表」から各資料へのジャンプ先を最適化

今までは、「科目別課税対象額集計表」からは一律「科目別税区分集計表」にジャンプしていました。

今後は、以下のように追跡する金額によって最適なメニューにジャンプできるようになります。

- ・課税取引と非課税や免税取引の区分けが妥当であるかは、「税区分明細表」へジャンプ
- ・仕入や費用計上の課税取引が、課税売上と非課税売上のどちらに対するものか、または区分けがはっきりしないもの（共通）かの区分けが正しくされているかは、「科目別税区分集計表」へジャンプ
- ・自動計算された消費税額の手入力ミスや消費税額の計上漏れがないかは、「消費税手入力確認リスト」へジャンプ

● 平成27年4月施行消費税法改正（簡易課税制度のみなし仕入率の見直し）に対応しました。

○簡易課税制度のみなし仕入率が、次のとおりに改正されました。

- ・金融業及び保険業が、第四種事業から第五種事業へ（みなし仕入率 60%→50%）
- ・不動産業が、第五種事業から新設された第六種事業へ（みなし仕入率 50%→40%）

改正は、平成27年4月1日以後に開始する課税期間（会計期間）から適用されます。

当システムでは、課税期間（会計期間）に応じて、第六種事業が利用できるように自動的に切り替えます。

《 関連メニュー 》

- ・[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニュー
- ・[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューなどの仕訳関連メニュー

○消費税申告書と付表のレイアウトが変更されました。

みなし仕入率の見直しに伴い、簡易課税用の消費税申告書と付表のレイアウトが変更されました。

- ・消費税申告書
- ・付表4
- ・付表5
- ・付表5-(2)

当システムでは、課税期間（会計期間）に応じて、新旧レイアウトを自動判定します。

※簡易課税制度を選択しているすべての企業に影響があります。

メニュー体系

● メニューの構成を変更しました。

変更前	変更後
[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括無効]メニュー	[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括変更]-[マスターデータ一括無効]メニュー

消費税申告

- 税区分明細表で、複数の税区分の確認や摘要での抽出ができるようになりました。

○複数の税区分を確認する際に、税区分の切り替えをファンクションキーでできるようになりました。

▼イメージ図

税区分明細表 - 条件設定

基本条件 詳細条件 付箋

検索指定

● 税区分明細表 ○ 税区分未確定リスト ○ 事業区分未確定リスト

集計期間

月範囲(1)... 2015年 4月 1日 ~ 2016年 3月 31日

税区分指定

税区分コード

コード	名称
0010	課税売上分課税仕入
0011	非課税売上分課税仕入
0012	非課税売上分課税仕入

①税区分を指定します。

税区分明細表

〇〇〇株式会社

会計期間: 2015年 4月 1日 ~ 2016年 3月 31日

集計期間: 自 2015年 4月 1日 至 2016年 3月 31日

税区分: 0010 課税売上分課税仕入

伝票日付	伝票項目	補助日付	税率	税抜金額	消費税額	税込金額
15/05/01	消耗品費		8.0%	1,251,354	100,156	1,351,510
000002						
15/05/01	水道光熱費		8.0%	1,200,296	96,023	1,296,319
000002						
15/05/01	運賃		8.0%			
000002						
15/05/01	電力料等		8.0%			
000002						
15/05/01	燃料費		8.0%			
000002						
15/05/01	運賃		8.0%			
000002						

②[前税区分] (F4)・[次税区分] (F5) で切り替えて、税区分ごとの明細を確認します。

F1 検索条件 F2 印刷等 F3 計算 F4 前税区分 F5 次税区分 F6 ジャンプ F7 再集計 F8 付属税等 F9 条件設定 F10 表示完了 F11 閉じる

○特定の明細を摘要で絞り込めるようになりました。

旧税率 5 %の期間に新税率 8 %で前払いした明細など、事前に入力した摘要で絞り込む際に活用します。

▼イメージ図

税区分明細表 - 条件設定

基本条件 | **詳細条件** | 付 属

[詳細条件] ページで指定できます。

☐ 部門・グループを指定する

対象指定

☒ 部門 ☐ 部門グループ

科目指定

☐ 科目を指定する

☒ 勘定科目 勘定科目コード

☐ 補助科目 勘定科目コード 補助科目コード

コード 勘定科目名 コード 補助科目名

検索 (🔍)

摘 要

☒ 摘要を指定する

摘要コード 摘要内容

摘要内容

旧税率5%増し減率

印刷 (🖨)

随時処理

- 『勘定奉行21[個別原価管理編]』からコンバートした場合は、プロジェクトコードの枝番を一括で取り除くことができます。

『勘定奉行21[個別原価管理編]』からコンバートしたデータでは、必ずプロジェクトコードに枝番が含まれます。

今までは、枝番が不要な場合は、手作業で取り除いていただいていた。

今回から、[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括変更]-[プロジェクトコード一括変更]メニューで、一括で取り除くことができます。


財務会計システム[個別原価管理編]



勘定奉行V ERP









機能アップガイド

Ver.2.14 / Ver.2.13

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【OMSS業務支援サービス】	
	クイックメニューにコピー機能（クリップボード）が追加され、企業独自のひな形（Excel）に貼り付けて帳票を作成できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	4
	【メニュー】	
	よく使うメニューをすばやく開ける、ダイレクト起動メニューが追加されました。	5
	【全般】	
	明細ごとに入力する摘要とは別に、伝票全体に対するごとに摘要を入力できるようになりました。	5
	仕訳伝票を自動作成するメニューで、集計する対象に未承認・未転記の伝票が存在する場合、処理実行前にメッセージを表示し、注意喚起します。	7
	奉行21シリーズからデータをコンバートすると、別途設定をせずとも、奉行21と同様に、仕訳入力や元帳・合計残高試算表を出力できます。	7
	【帳票全般】	
	奉行21シリーズからデータをコンバートすると、合計残高試算表などの「繰越金額」の項目タイトルが、そのまま同じタイトルで出力できます。	8
	【データ領域管理】	
	2期以上運用しているデータ領域がわかりやすくなりました。	8
	[データ領域選択]画面の各項目の列幅や並び順を変更した際に、次回起動時にもその状態で表示されるようになりました。	8
	【導入処理】	
	[会社運用設定]メニューの承認に関する設定項目が、役割ごとに整理されました。	9
	原価帳票に関する勘定科目を追加した際に、原価管理項目や関連科目など原価管理に必要な設定を、ウィザード形式で効率よく登録できるようになりました。	9
	【仕訳処理】	
	前回印刷後に、新規登録・修正した伝票だけを印刷できるようになりました。	10
	伝票区分・用途区分を使用していない場合に、非表示にできるようになりました。	10
	摘要コードの入力を省略し、摘要内容をすぐに文字入力できるようになりました。	11
	伝票入力画面の摘要欄で[行削除]を押したときに、すぐに1行分削除できるようになりました。	11
	定型仕訳を、コードを入力するだけで簡単に呼び出せるようになりました。	11
	仕訳伝票入力時に、誤って[中止]を押したときに確認メッセージを表示します。	12
	登録済みの定型仕訳を複写し、一部異なる新しい定型仕訳を効率的に登録できるようになりました。	12
	経理担当者の1次承認に加えて、経理責任者が最終的に承認する「2段階での承認」ができるようになりました。	12
	否認のままの伝票や、未承認のまま長い間未処理の伝票がないかをチェックできるようになりました。	12

	承認機能を使用する場合でも、別途「転記」作業をせずに、承認と同時に管理資料に金額を反映させられるようになりました。	12
	経理責任者が、入力担当者の作業予定を登録したり、作業予定を複数の利用者と共有したりできるようになりました。	13
	【会計帳票】	
	元帳で税率を指定して絞込みができるようになりました。	13
	元帳で自科目側の金額で絞込みができるようになりました。	14
	元帳をPDFに出力する際に、1つのファイルにまとめて出力できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	15
	【原価帳票】	
	プロジェクト台帳で入金額の仕訳明細を確認できるようになりました。	15
	プロジェクト一覧表で「入金率」などの入金情報を出力することで、プロジェクト別に入金の確認ができるようになりました。	15
	プロジェクト一覧表からプロジェクト別予算実績対比表へジャンプできるようになりました。	16
	プロジェクト別予算実績対比表でサブプロジェクトを軸にして、予算実績を確認できるようになりました。また、原価管理項目別のサブプロジェクト別など複数階層で出力する場合に、確認しやすいレイアウトになりました。	16
	【配賦処理】	
	配賦後の帳票分析の粒度に応じて、配賦伝票をマスター別に作成せずにまとめる設定が付きました。	16
	販売費及び一般管理費の間接費を配賦する際に、製造部門へは製造原価の費用科目として、また共通プロジェクトとして配賦できるようになりました。	17
	【消費税申告】	
	OCR用とは別に、提出用の消費税申告書を印刷できるようになりました。	17
	消費税計算書で、未承認・未転記の伝票を集計できるようになりました。	17
	科目別税区分集計表で、金額の検算や誤入力チェックを効率的にできます。	17
	【決算処理】	
	二期間の決算報告書を出す場合に、帳票ごとにそれぞれ実務に則した集計ができるようになりました。	18
	決算報告書の表紙のフォントサイズや位置を調整できるようになりました。	18
	【随時処理】	
	奉行21シリーズのソリューションなどで作成された、「汎用データ受入形式」のプロジェクトデータファイルを直接受け入れできるようになりました。	18
	部門グループを一から作り直す際に、汎用データ受入で効率的にできるようになりました。	18
	マスターデータを、一括で無効にできるようになりました。	18
	特定の補助科目をいくつか指定して、一括で削除できるようになりました。	19
	[税区分一括変更]メニューで、定型仕訳の税区分・事業区分も一括で変更できるようになりました。	19
	合算元にマイナスで計上されている仕訳伝票がある場合は、マイナス金額のまま合算するようになりました。	19

【グループ企業管理】	
<p>消費税関連の設定は、個社ごとの設定を優先させるため、配信の対象外にしました。</p> <p>＜『勘定奉行V ERP8 Group Management-Edition』をお使いの場合＞</p>	19

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

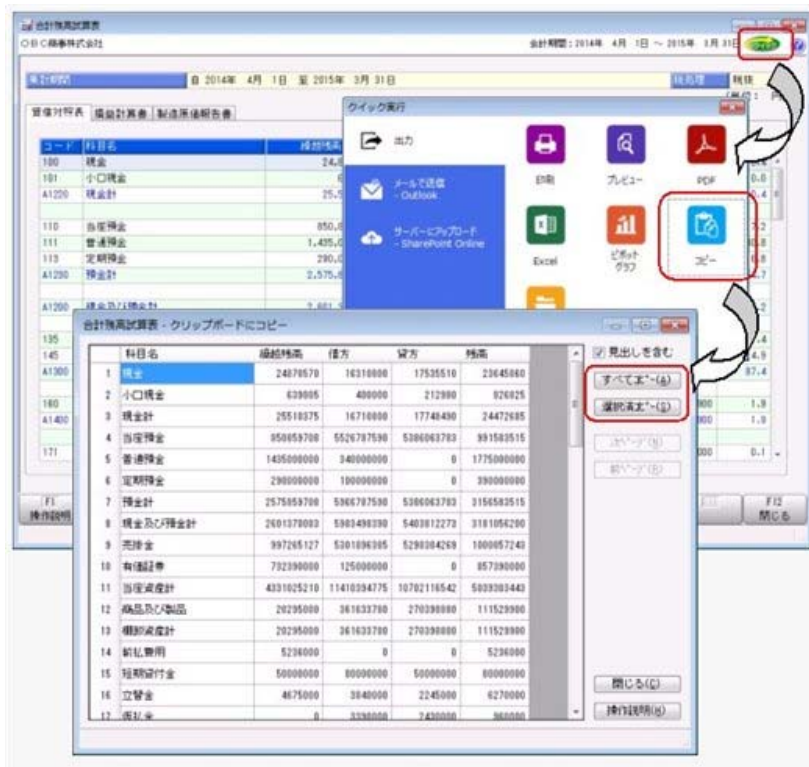
OMS S業務支援サービス

- クイックメニューにコピー機能（クリップボード）が追加され、企業独自のひな形（Excel）に貼り付けて帳票を作成できるようになりました。

＜「OMS S」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞

画面の表示内容をコピーして、企業独自のひな形（Excel）に貼り付けて帳票を作成できるようになりました。

▼イメージ図



企業独自のひな形（Excel）に、
コピーした内容を貼り付けます。



メニュー

- よく使うメニューをすばやく開ける、ダイレクト起動メニューが追加されました。

ダイレクト起動メニューを利用すると、最近使ったメニューを簡単に開くことができます。
さらに、よく使うメニューをリストに固定表示することで、毎日使用しているメニューをすばやく起動できます。

▼イメージ図



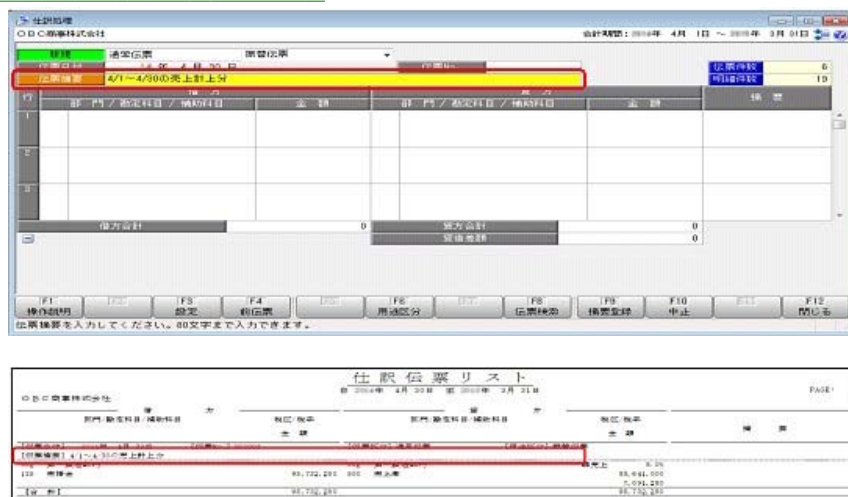
全般



- 明細ごとに入力する摘要とは別に、伝票全体に対する摘要を入力できるようになりました。

[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページの「伝票摘要の利用」を「する」にすることで、伝票全体に対する摘要が管理できるようになります。その摘要は、仕訳リストや元帳で確認できます。

▼イメージ図（[仕訳処理]メニュー）



▼イメージ図（[元帳]メニュー）

《 関連メニュー 》

- ・[仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ▼[その他の\[仕訳処理\]関連メニュー](#)
 - ・[管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
 - ・[決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
 - ・[決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]の各メニュー
- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]の各メニュー・[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ▼[その他の\[仕訳伝票リスト\]関連メニュー](#)
 - ・[管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票リスト]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
 - ・[決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳伝票リスト[IFRS組替]]メニュー
- ・[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ▼[その他の仕訳関連メニュー](#)
 - ・[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票一括転記]メニュー
 - ・[仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
 - ・[決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[反対仕訳一括起票[IFRS組替]]メニュー
 - ・[仕訳処理]-[月次処理]-[月次仮締め]-[月次仮締め後変更レポート]メニュー
 - ・[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
 - ・[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー
 - ・[随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー
 - ・[随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[仕訳伝票一括削除]メニュー
 - ・[決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後変更レポート]-[仕訳伝票変更レポート]メニュー
 - ・[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー
※『自動実行管理オプション』をお使いの場合
 - ・[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー
※『自動実行管理オプション』をお使いの場合
- ・[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー

- 仕訳伝票を自動作成するメニューで、集計する対象に未承認・未転記の伝票が存在する場合、処理実行前にメッセージを表示し、注意喚起します。

仕訳伝票を自動作成するメニューでは、未承認・未転記の伝票の金額は除かれて集計されます。未承認・未転記の伝票がある場合は、伝票作成前にメッセージにて、その後の処理を選択できます。

○処理を中断し、承認・転記後に再度実行する

○処理を続行する（ただし、未承認・未転記仕訳の金額は除く）

○未承認・未転記仕訳の集計対象別の一覧を印刷し、これをもとに承認・転記後再度実行する

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[月次処理]-[為替換算]-[為替換算]メニュー
※『外貨入力オプション』をお使いの場合
- ・ [振替処理]-[完成振替]の各メニュー
- ・ [振替処理]-[棚卸振替]の各メニュー
- ・ [配賦処理]-[部門実績配賦]の各メニュー
- ・ [配賦処理]-[部門共通原価配賦]の各メニュー
- ・ [配賦処理]-[間接費配賦]の各メニュー

- 奉行21シリーズからデータをコンバートすると、別途設定をせずとも、奉行21と同様に、仕訳入力や元帳・合計残高試算表を出力できます。

奉行21シリーズからデータをコンバートすると、伝票入力画面のファンクションキーの配置や摘要入力の操作性、元帳や合計残高試算表の印刷レイアウトに関する設定が引き継がれるようになり、設定を変更せずにそのまま運用できるようになりました。

▼参考（引き継がれる設定）

○[仕訳処理]メニュー

- ・ 印刷条件 ※ネットワーク対応製品でない場合

○[元帳]メニュー

- ・ 諸口の内訳を表示する（[条件設定]画面の[詳細条件]ページ）
- ・ 印刷タイトル（自マスター）を均等割付する（[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページ）
- ・ 自マスターの条件内容を出力する（[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページ）
- ・ 金額計項目タイトルの印刷位置（[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページの[設定]ボタン）
- ・ 伝票日付の出力形式（[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページの[設定]ボタン）
- ・ 余白への罫線印刷（[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページの[設定]ボタン）
- ・ その他の集計条件、印刷条件 ※ネットワーク対応製品でない場合

○[合計残高試算表]メニュー（[試算表見出し項目設定]メニュー）

- ・ 製造原価報告書のページの切替（[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページ）
- ・ 網掛け濃度を指定する、および各項目の濃度値（[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページ）
- ・ その他の集計条件、印刷条件 ※ネットワーク対応製品でない場合

帳票全般

- 奉行21シリーズからデータをコンバートすると、合計残高試算表などの「繰越金額」の項目タイトルが、そのまま同じタイトルで出力できます。

奉行21シリーズからデータをコンバートすると、合計残高試算表などの「繰越金額」の項目タイトルが、そのまま奉行21シリーズのときと同じタイトルで出力できるようになりました。

▼イメージ図

ここが、奉行21シリーズと同じタイトルで出力されます。

コード	科目名	前月繰越	借方	貸方	残高	構成比
100	現金		100,000	0	100,000	6.3
A1220	現金計	0	100,000	0	100,000	6.3

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [会計帳票]-[日計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[内訳表]メニューの各メニュー
- ・ [原価帳票]-[部門別原価帳票]-[部門別原価報告書]メニュー
- ・ [原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト別原価報告書]メニュー

データ領域管理

- 2期以上運用しているデータ領域がわかりやすくなりました。

今までは、最新の会計期首日だけを表示していましたが、2期以上運用しているデータ領域は、決算期が範囲で表示されるようになりました。

▼イメージ図

会社コード	会計期首	決算期	会社名	作成日時
000000001	2013年 4月 1日	1~3	〇ＢＣ商事株式会社	2013/04/01 9:58:00

- [データ領域選択]画面の各項目の列幅や並び順を変更した際に、次回起動時にもその状態で表示されるようになりました。

[データ領域選択]画面で、画面の各項目の列幅や並び順を変更した場合に、その情報が保持されるようになりました。次回起動時にも、担当者個人の見やすい幅や並び順で表示されます。

▼イメージ図

例えば、会計期首の列幅を変更し、会計期首の降順で並び替えた場合、次回起動時にも、その変更した状態で表示されます。

会社コード	会計期首	決算期	会社名	作成日時
000000001	2014年 4月 1日	5~6	〇ＢＣ商事株式会社	2013/06/11 10:18:39
000000001	2013年 4月 1日	4	〇ＢＣ商事株式会社	2013/06/11 16:09:39
000000001	2011年 4月 1日	1	〇ＢＣ商事株式会社	2013/06/11 16:09:39

導入処理

- 【会社運用設定】メニューの承認に関する設定項目が、役割ごとに整理されました。

【会社運用設定】メニューの【承認設定】ページの各項目が、4つのカテゴリに整理され、設定しやすくなりました。

【基本設定】 【詳細設定】 【業務別承認設定】 【集計設定】

▼イメージ図

また、【業務別承認設定】の各項目の選択肢について、0と1が入れ替わりました。

変更前

変更後

0：承認済／転記済で登録 → 1：承認済／転記済で登録

1：未承認／未転記で登録 → 0：未承認／未転記で登録

- 原価帳票に関する勘定科目を追加した際に、原価管理項目や関連科目など原価管理に必要な設定を、ウィザード形式で効率よく登録できるようになりました。

今までは、以下のメニュー順でそれぞれ設定・登録が必要でした。

1. [導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニュー
2. [導入処理]-[原価管理体系登録]-[原価管理項目登録]メニュー
3. [導入処理]-[原価管理体系登録]-[原価管理体系登録]メニュー

これからは、勘定科目を追加した際に、ウィザード形式で効率よく登録できるようになりましたので、便利です。

※原価帳票に関する勘定科目とは、以下の科目区分に属する勘定科目を指します。

- ・システム科目設定：当期製品製造原価
- ・原価管理設定：仕掛品科目科目区分(仕掛品科目を使用する場合)

仕訳処理



- 前回印刷後に、新規登録・修正した伝票だけを印刷できるようになりました。

前回印刷後に新規登録・修正した伝票だけを印刷できる機能を利用することで、印刷漏れを防ぎ、会社の帳簿書類をしっかりと保存できます。

※この機能は、[印刷条件設定]画面の[基本設定]ページで選択できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳伝票リスト[IFRS組替]]メニュー

- 伝票区分・用途区分を使用していない場合に、非表示にできるようになりました。

伝票区分・用途区分を使用していない場合に、非表示にできるようになりました。必要のない情報を消すことで、必要な情報がより目立つようになります。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
 - ▼その他の[仕訳処理]関連メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
 - ※『管理会計オプション』をお使いの場合
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
 - ▼その他の[仕訳伝票リスト]関連メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票リスト]メニュー
 - ※『管理会計オプション』をお使いの場合
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳伝票リスト[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
 - ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[遡及仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
 - ▼その他の仕訳関連メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[反対仕訳一括起票[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権仕訳起票]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 仕訳起票]メニュー
 - ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー
- ・ [配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニュー
 - ▼その他の伝票作成関連メニュー
 - ・ [導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高一括振替]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[月次処理]-[為替換算]-[為替換算]メニュー
 - ※『外貨入力オプション』をお使いの場合
 - ・ [振替処理]-[完成振替]の各メニュー
 - ・ [振替処理]-[棚卸振替]の各メニュー
 - ・ [配賦処理]-[部門共通原価配賦]-[部門共通原価配賦]メニュー
 - ・ [配賦処理]-[間接費配賦]-[間接費配賦]メニュー
 - ・ [配賦処理]-[労務費配賦]-[労務費配賦]メニュー

- 摘要コードの入力を省略し、摘要内容をすぐに文字入力できるようになりました。

摘要を[導入処理]-[摘要登録]メニューで別途管理せずに都度入力している場合に、仕訳伝票入力の際、摘要内容をすぐに文字入力できるようになりました。

摘要コード欄を毎回 [Enter] キーで飛ばす操作がなくなります。

※[仕訳処理-設定]画面の[運用設定]ページの明細摘要コードの入力で「入力しない」を選択すると、摘要内容から入力できます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー

▼その他の[仕訳処理]関連メニュー

- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー

※『管理会計オプション』をお使いの場合

- 伝票入力画面の摘要欄で [行削除] を押したときに、すぐに 1 行分削除できるようになりました。

伝票入力画面の摘要欄で [行削除] ファンクションキーを押したときに、すぐに 1 行分を削除できるようになりました。

※[仕訳処理-設定]画面の[奉行21設定]ページの明細行の削除で「奉行21形式」を選択すると、すぐに 1 行分削除できます。

※今までは、1 行削除するか、借方または貸方だけを削除するかを選択する画面が、必ず、表示されていました。

なお、摘要欄以外の項目では、今までどおり選択画面が表示されます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー

▼その他の[仕訳処理]関連メニュー

- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー

※『管理会計オプション』をお使いの場合

- 定型仕訳を、コードを入力するだけで簡単に呼び出せるようになりました。

定型仕訳を、コードを入力するだけで呼び出せるようになりました。定型仕訳のコードを覚えている場合などに便利です。

※[仕訳処理-設定]画面の[奉行21設定]ページの定型仕訳の呼び出しで「奉行21形式」を選択すると、定型仕訳のコードだけを入力する画面が表示されます。

※今までは、必ず、[定型仕訳検索]画面が表示され、定型仕訳をリストから選択、または検索して定型仕訳を呼び出す方法でした。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー

▼その他の[仕訳処理]関連メニュー

- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー

※『管理会計オプション』をお使いの場合

- 仕訳伝票入力時に、誤って「中止」を押したときに確認メッセージを表示します。

仕訳伝票入力時に、誤って「中止」ファンクションキーを押したときに、入力していた仕訳明細がすべてクリアされてしまうのを防ぐため、確認メッセージを表示します。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー

▼その他の[仕訳処理]関連メニュー

- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
 - ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
 - ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
- ※『管理会計オプション』をお使いの場合

- 登録済みの定型仕訳を複写し、一部異なる新しい定型仕訳を効率的に登録できるようになりました。

すでに登録してある定型仕訳をもとに、一部変更したものを繰り返し登録する場合などに効率的です。

具体的には、[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニューで、定型仕訳を複写し、新しい定型仕訳を登録できるようになりました。



- 経理担当者の1次承認に加えて、経理責任者が最終的に承認する「2段階での承認」ができるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューで、今までは、入力担当者が登録した伝票を経理責任者または経理担当者が承認するという「1段階での承認」でしたが、2段階でそれぞれ承認できるようになりました。

◀事前設定（管理者）▶

- ・ 2段階での承認を、[会社運用設定]メニューの[承認設定]ページで設定します。
- ・ 1次承認者や最終承認者の割り当ては、[セキュリティ管理]-[権限管理]-[メニュー権限登録]メニューで設定します。

◀事前設定（承認者）▶

- ・ 承認者は、担当範囲を[仕訳伝票承認]メニューの[条件設定]画面の[承認対象]ページで設定し、条件パターンとして保存します。

※事前設定の詳細や日常の処理については、操作説明の「仕訳伝票承認の流れ」をご確認ください。

- 否認のままの伝票や、未承認のまま長い間未処理の伝票がないかをチェックできるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[未承認伝票確認]メニューが追加され、否認されたままの伝票や、未承認のまま長い間未処理の伝票がないかをチェックできるようになりました。

否認伝票・未承認伝票それぞれの件数を確認できます。

また、未処理の伝票がある場合に、[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューにジャンプして、承認までできます。

- 承認機能を使用する場合でも、別途「転記」作業をせずに、承認と同時に管理資料に金額を反映させられるようになりました。

今までは、[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューの承認機能を使用する場合は、必ず、[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票一括転記]メニューで別途「転記」作業が必要でした。

これからは、承認機能を使用する場合でも、別途「転記」作業をせずに、承認と同時に管理資料に金額を反映させられるようになりました。

[会社運用設定]メニューの[承認設定]ページで、転記機能を「0：使用しない」に設定します。

※今までどおり、別途「転記」することもできます。



- 経理責任者が、入力担当者の作業予定を登録したり、作業予定を複数の利用者と共有したりできるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票予約]メニューで、経理責任者が、入力担当者の作業予定を代わりに一括して登録したり、作業予定を複数の利用者と共有したりできるようになりました。

また、入力担当者が退職した場合に、他の担当者へ割り当てなおすこともできます。

※この機能は、管理者でログインしている場合に使用できます。

※[条件設定]画面の[利用者設定]ページで、利用者を設定することで実現できます。

会計帳票



- 元帳で税率を指定して絞込みができるようになりました。

[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニューで、経過措置の旧税5%の取引内容だけを確認したい場合に便利です。

▼イメージ図

○[元帳]メニュー

※拡張形式

※標準形式

なお、消費税額を検算するには、[仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[消費税手入力確認リスト]メニューを利用すると便利です。

▼イメージ図

○[元帳]メニュー

伝票日付	伝票No.	部門	勘定科目	摘要	税率	税率処理	本体金額	消費税額 手入力	消費税額 自動計算	差額
14/05/25	000089	総務部	水運光熱費	水運光熱費 (5%適用分)	5.0%	繰上入 切り捨て	25,600	(1,218	(1,218	-1

- 元帳で自科目側の金額で絞込みができるようになりました。

[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニューで、今まで相手勘定科目側の金額で絞込みができましたが、自勘定科目側の金額でも絞込みができるようになりました。

▼イメージ図

○[元帳]メニュー

※拡張形式

※標準形式

(例)

以下の仕訳伝票を例に説明します。

行	借 方			貸 方		
	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額		部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額	
1	001	第一営業部		001	第一営業部	
	135	売掛金	1,500	500	売上高	2,000
					繰売上 8.0%	160
2	001	第一営業部				
	130	受取手形	660			

< 「500 売上高」の元帳で金額を絞り込む際の指定方法>

- ◆ 「135 売掛金」の1,500円で絞り込みたい場合
「自科目の金額で絞り込む」にチェックを付けません。
- ◆ 「500 売上高」の2,000で絞り込みたい場合
「自科目の金額で絞り込む」にチェックを付けます。



- 元帳をPDFに出力する際に、1つのファイルにまとめて出力できるようになりました。
 <「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合>

元帳などの帳票をPDFに出力する際、今までは、勘定科目別や部門別などで必ずPDFが分かれて出力されていましたが、これからは、1つのファイルにまとめて出力することもできます。

※[PDF条件設定]画面で、「〇〇別にファイルを分けて出力する」のチェックを外すと、1つのファイルにまとめて出力されます。

▼イメージ図

○[元帳]メニュー

◀ 関連メニュー ▶

- ・[会計帳票]メニューの各メニュー
- ・[原価帳票]メニューの各メニュー
- ・[分析帳票]メニューの各メニュー
- ・[予算管理]メニューの各帳票メニュー

原価帳票

- プロジェクト台帳で入金額の仕訳明細を確認できるようになりました。

[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト台帳]-[プロジェクト台帳]メニューで、入金額及び、入金に関する仕訳明細の集計ができるようになりました。

事前に、[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト台帳]-[プロジェクト台帳レイアウト登録]メニューで集計する費目に「入金額」を設定しておきます。

- プロジェクト一覧表で「入金率」などの入金情報を出力することで、プロジェクト別に入金の確認ができるようになりました。

プロジェクト一覧表を原価の確認用や入金の確認用など、用途・目的にあわせてパターン化できます。

なお、初期でパターンも用意します。用意する条件は、[会社運用設定]メニューの[基本設定]ページの「条件保持の設定」で、「1：全利用者で共通」を選択している場合です。

また、「入金残」のあるプロジェクトだけを絞込めるようになりました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト一覧表]メニュー

上記に関連して、プロジェクト区分別に確認する際に、プロジェクトの完成日を加味して絞込めるようになりました。

当期・当月だけなど、すでに確認済みのプロジェクトなどを外して集計できるので便利です。[基本条件]ページの完成区分グループボックス内で、完成日を指定できます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト一覧表]メニュー
- ・[原価帳票]-[プロジェクト原価集計表]メニュー
- ・[原価帳票]-[プロジェクト原価推移表]メニュー

- プロジェクト一覧表からプロジェクト別予算実績対比表へジャンプできるようになりました。

予算の内訳などを、よりスムーズに確認できるので便利です。

横軸項目の「予算額」「予算残」「消化率」のいずれかから、[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト別予算実績対比表]メニューへジャンプでき、予算と実績の乖離状況の確認ができます。



- プロジェクト別予算実績対比表でサブプロジェクトを軸にして、予算実績を確認できるようになりました。また、サブプロジェクト別の原価管理項目別など複数階層で出力する場合に、確認しやすいレイアウトになりました。

今までの原価管理項目・原価管理項目区分に加えて、今後は、サブプロジェクトを軸とした予算実績管理ができます。また、サブプロジェクト別の原価管理項目別など複数階層で画面・印刷で出力する場合は、内訳があることを示す「(」やインデントにて見やすくしました。

▼例

コード	名称	サブプロジェクト	予算額	発生 実績金額	予算残
0001	調査・提案		23,544,450	2,277,007	21,267,443
650	材料仕入高		82,000	0	82,000
660	外注加工費		578,456	591,667	-13,211
641	賃金		870,000	850,000	520,000
642	食料		15,942,567	0	15,942,567
643	雑給		123,540	0	123,540
644	退職金		4,578,000	0	4,578,000
647	法定福利費		0	59,000	-59,000
650	旅費交通費		457,021	409,582	59,439
651	通信費		0	264,100	-264,100
652	海運品費		657,646	63,762	594,004
653	水道光熱費		0	82,100	-82,100
654	保険料		0	32,100	-32,100
659	地代家賃		0	233,100	-233,100
665	交際費		245,000	187,586	57,404

なお、今までの原価管理項目別サブプロジェクト別で画面・印刷で出力する場合も、同じように「(」やインデントにて、確認しやすく変更されています。

配賦処理



- 配賦後の帳票分析の粒度に応じて、配賦伝票をマスター別に作成せずにまとめる設定が付きしました。

[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[配賦設定]ページの「会社運用設定 - 配賦設定」で、以下の帳票ごとに勘定科目レベルに分析の粒度を設定できます。

- ・部門共通費配賦後の分析帳票
- ・間接費配賦後の原価帳票

また、マスターごとに設定できます。

《部門共通費配賦後の分析帳票》

- ・取引先
- ・セグメント

《間接費配賦後の原価帳票》

- ・部門
- ・取引先
- ・セグメント

※分析粒度をマスター別でなく勘定科目レベルにすることで、結果的に配賦伝票の作成枚数が減少するため、配賦処理のパフォーマンスアップ、帳票集計のパフォーマンスアップが見込めます。



- **販売費及び一般管理費の間接費を配賦する際に、製造部門へは製造原価の費用科目として、また共通プロジェクトとして配賦できるようになりました。**

今までは、配賦先科目は必ずすべての部門で同じでしたが、これからは、[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦設定]-[部門実績配賦パターン登録]メニューで、部門別に配賦先科目を指定できるようになりました。

共通部門に発生した間接費（販管費）を配賦する際に、製造部門など製造・作成する部門へ、「製造原価の費用科目」として配賦する場合に利用します。

また、その際に配賦先プロジェクトとして「共通プロジェクト」を指定することで、[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニューで共通部門から配賦した金額を、最終的に[配賦処理]-[間接費配賦]-[間接費配賦]メニューで、間接費として各プロジェクトへ配賦できるようになります。

消費税申告

- **OCR用とは別に、提出用の消費税申告書を印刷できるようになりました。**

[消費税申告]-[消費税申告書]メニューで、OCR用とは別に、提出用の消費税申告書を印刷できるようになりました。

また、提出用・添付書類の印刷部数が指定できます。

※提出用の消費税申告書とは、現物帳票の2枚目以降を指します。

- **消費税計算書で、未承認・未転記の伝票を集計できるようになりました。**

[消費税申告]-[消費税計算書]メニューで、未承認・未転記の伝票を集計することで、伝票確定前に、消費税内容の確認・訂正ができるようになりました。

※科目別課税対象額集計表など、他の消費税管理資料にはすでにこの機能が追加されていますが、消費税計算書についても機能が追加されました。

※他の消費税管理資料と同様、[条件設定]画面の[詳細設定]ページの「未承認仕訳・未転記仕訳を含めて集計する」チェックボックスにチェックを付けると、集計できます。

- **科目別税区分集計表で、金額の検算や誤入力チェックを効率的にできます。**

[消費税申告]-[科目別税区分集計表]メニューに以下の機能が追加され、金額の検算や誤入力チェックを効率的にできます。

○消費税率の指定（[条件設定]画面の[基本条件]ページ）

消費税率を指定すると、以下のような場合に便利です。

- ・複数の税率が混在している場合に、税率ごとに分けて検算する
- ・頻度の少ない経過措置の旧税率で、誤って仕訳入力していないかを確認する

○売上科目と仕入・費用科目をまとめて一覧で表示（[条件設定]画面の[詳細条件]ページ）

集計結果のページを、売上科目と仕入・費用科目を分けなくて、まとめて一覧で確認できます。

例えば、建物の購入と売却の結果をまとめて確認できます。

○勘定科目ごとの金額を表示（[条件設定]画面の[詳細条件]ページ）

勘定科目ごとの金額で、大まかに確認できるようになりました。

※今までは必ず、税率（内訳金額）ごとの確認でした。

決算処理

- 二期間の決算報告書を出力する場合に、帳票ごとにそれぞれ実務に則した集計ができるようになりました。

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューで、二期間（前期・当期）の決算報告書を出力する場合に、前期の貸借対照表（株主資本等変動計算書も含む）は指定された集計期間に関係なく、会計期末時点の残高で集計できるようになりました。

今までは、貸借対照表と損益計算書を2回に分けて印刷する必要がありましたが、1回の印刷で済みます。

例) 中間決算期に、貸借対照表と損益計算書を同時に出力する場合

前期の会計期間：2014年4月1日～2015年3月31日

前期の集計期間：2014年4月1日～2014年9月30日

チェックを付けると、帳票ごとにそれぞれ実務に則した集計がされます。

前期の貸借対照表 ⇒ 2015年3月31日（会計期間末）時点の残高

前期の損益計算書 ⇒ 2014年9月30日までの累計

※[印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページで設定できます。



- 決算報告書の表紙のフォントサイズや位置を調整できるようになりました。

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューで、表紙のフォントサイズや、タイトルや会社名などの各項目の印字位置を調整できるようになりました。

※[決算報告書 - 印刷設定]ページの[設定]ボタンから表示レイアウト形式を「奉行21形式」に変更すると、『奉行21シリーズ』と同じ表紙で印刷できます。（フォントサイズ・位置調整は必要ありません。）

随時処理

- 奉行21シリーズのソリューションなどで作成された、「汎用データ受入形式」のプロジェクトデータファイルを直接受け入れできるようになりました。

[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[プロジェクトデータ受入]メニューで、受入形式に、奉行21の形式が追加されています。奉行21シリーズのソリューション製品はそのまま、今までの業務を続けられます。

- ・勘定奉行21[個別原価管理編] 汎用データ受入形式
- ・建設奉行21 汎用データ受入形式

- 部門グループを一から作り直す際に、汎用データ受入で効率的にできるようになりました。

組織改編などで部門グループを一から作り直す際、今までは、[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[部門グループデータ一括削除]メニューで部門グループを一旦削除してから、汎用データを受け入れ直す必要がありました。

これからは、[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[部門グループデータ受入]メニューで、部門グループすべての階層の削除と受け入れを同時にできるようになった(※)ため、効率的に一から作り直すことができます。

※[条件設定]画面で、[拡張項目設定]ページの「すべての部門グループを削除してから汎用データを受け入れる」にチェックを付けます。



- マスターデータを、一括で無効にできるようになりました。

[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括無効]メニューが追加され、完成したプロジェクトなど、新年度から利用しないように、一括で無効にできるようになりました。

以下のマスターを、一括で無効化できます。

取引先／セグメント／プロジェクト

※不要なマスターを無効にすることで、マスター数を減らす効果があり、結果、帳票等での集計パフォーマンスを改善できます。

- 特定の補助科目をいくつか指定して、一括で削除できるようになりました。

[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[補助科目データ一括削除]メニューで、今までは勘定科目の指定のため、すべての補助科目が一括で削除されていました。これからは、特定の補助科目をいくつか指定して、部分的な一括削除ができるようになりました。

※今までは、勘定科目だけ指定できました。

- [税区分一括変更]メニューで、定型仕訳の税区分・事業区分も一括で変更できるようになりました。

[随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[税区分一括変更]メニューで、仕訳伝票だけでなく、定型仕訳の税区分・事業区分も一括で変更できるようになりました。

- 合算元にマイナスで計上されている仕訳伝票がある場合は、マイナス金額のまま合算できるようになりました。

[随時処理]-[データ領域合算]メニューで、今までは、合算元にマイナスで計上されている仕訳伝票がある場合は、貸借を入れ替えてプラスの金額として合算していました。

これからは、貸借を入れ替えずにマイナス金額のまま合算できるようになりました。

▼イメージ図

以下のような仕訳伝票が登録されていた場合に、貸借を入れ替えずに「売掛金」「-500,000」、「売上高」「-500,000」のまま合算します。

001	第一営業部			001	第一営業部
135	売掛金	-500,000	500	売上高	-500,000
				6.0%	(-37,007)

グループ企業管理

- 消費税関連の設定は、個社ごとの設定を優先させるため、配信の対象外にしました。

<『勘定奉行V ERP8 Group Management-Edition』をお使いの場合>

[グループ企業管理]-[マスター配信]-[マスター配信]メニューで、勘定科目の消費税関連（税区分・消費税自動計算・端数処理・事業区分）の設定は、個社ごとに設定するため、配信の対象外にしました。

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.12

【消費税申告】	
税務代理権限証書の様式を改訂しました。	2
【決算処理】	
地方税の電子申告（XBRL Spec2.1 Ver. 2.0）に対応しました。	2

消費税申告

● 税務代理権限証書の様式を改訂しました。

電子申告・書面申告において、「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）に対応しました。

平成26年7月1日以後に提出する税務代理権限証書について、「調査の通知に関する同意」に関する項目の追加など、改訂後の様式で作成できます。

《 関連メニュー 》

[消費税申告]-[税理士添付書面]-[税務代理権限証書]メニュー

決算処理

● 地方税の電子申告（XBRL Spec2.1 Ver.2.0）に対応しました。

地方税の電子申告を、国税の電子申告と同一バージョン（XBRL Spec2.1 Ver.2.0）に対応しました。

具体的には、地方税申告に必要な財務諸表データを XBRL Spec2.1 Ver.2.0 に対応しました。

今までは、法人税申告に加えて地方税申告にも財務諸表データを添付する際は、電子申告科目や注記の登録を別途「地方税申告」用に設定していましたが、今後は共通になります。

《 関連メニュー 》

- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告科目設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告注記登録]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告データ作成[財務諸表]]メニュー


財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.11 / Ver.2.10

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【法改正情報】	
	消費税申告書の新レイアウト（平成26年4月1日以降終了課税期間分）に対応しました。	2
	【メニュー体系】	
	メニューを新規に追加しました。	2
	【全般】	
	プロジェクト検索で完成区分を表示できるようになり、完成したプロジェクト・未完成のプロジェクトを確認しながら選択できます。	3
	貸借別に摘要を入力できるようになり、外部システムで借方・貸方科目別に入力された摘要の仕訳伝票も受け入れられます。 ＜『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合＞	4
	未成工事支出金の仕入税額控除時期の特例を適用することができるようになりました。	4
	【会計帳票】	
	摘要集計表など各集計表から元帳へジャンプできるようになり、内訳明細を確認できます。	5
	【原価帳票】	
	原価帳票でプロジェクト別に入金額・入金残を確認できるようになりました。	5
	プロジェクト別原価報告書で複数のプロジェクトを選択して画面表示や印刷ができるようになりました。	5
	プロジェクト別原価報告書で予算情報（予算額・予算残・消化率）を確認できるようになりました。	6
	プロジェクト別原価報告書の転送で出力される金額の書式を変更しました。	6
	プロジェクトごとにサブプロジェクト別の原価を確認できるメニューが追加されました。	6
	【分析帳票】	
	従業員数を部門ごとに入力する際に部門合計が確認できるようになりました。	6
	【振替処理】	
	工事進行基準のプロジェクトで消費税額を完成時に一括計上する場合に、売上と売上返還の消費税額を別々に計上できるようになりました。	6
	【配賦処理】	
	日報を印刷する際に、社員別に改ページできるようになりました。	7
	労務費配賦の振替金額を転送できるようになりました。	7
	【随時処理】	
	『人事奉行』の『退職金管理オプション』から退職金支給時の仕訳を受け入れられます。	7
	プロジェクトデータを上書きで受け入れる際のパフォーマンスが向上しました。	7
	【OMSS業務支援サービス】	
	Office連携サービスの機能を強化（テンプレート・パスワード）しました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	7
	Excelピボットグラフを作成できるメニューが追加されました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	9
	＜グループ企業管理＞	
	勘定科目を未使用にした情報も配信できるようになりました。 ＜『勘定奉行V ERP8 Group Management-Edition』をお使いの場合＞	9

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

法改正情報



- 消費税申告書の新レイアウト（平成26年4月1日以降終了課税期間分）に対応しました。

消費税申告書の新レイアウト（平成26年4月1日以降終了課税期間分）に対応しました。

レイアウトが変更された申告書は、以下の通りです。

電子申告にも対応しています。

原則課税	簡易課税
消費税申告書	消費税申告書
付表 2	付表 4
付表 1	付表 5－（2）
付表 2－（2）	

メニュー体系

- メニューを新規に追加しました。

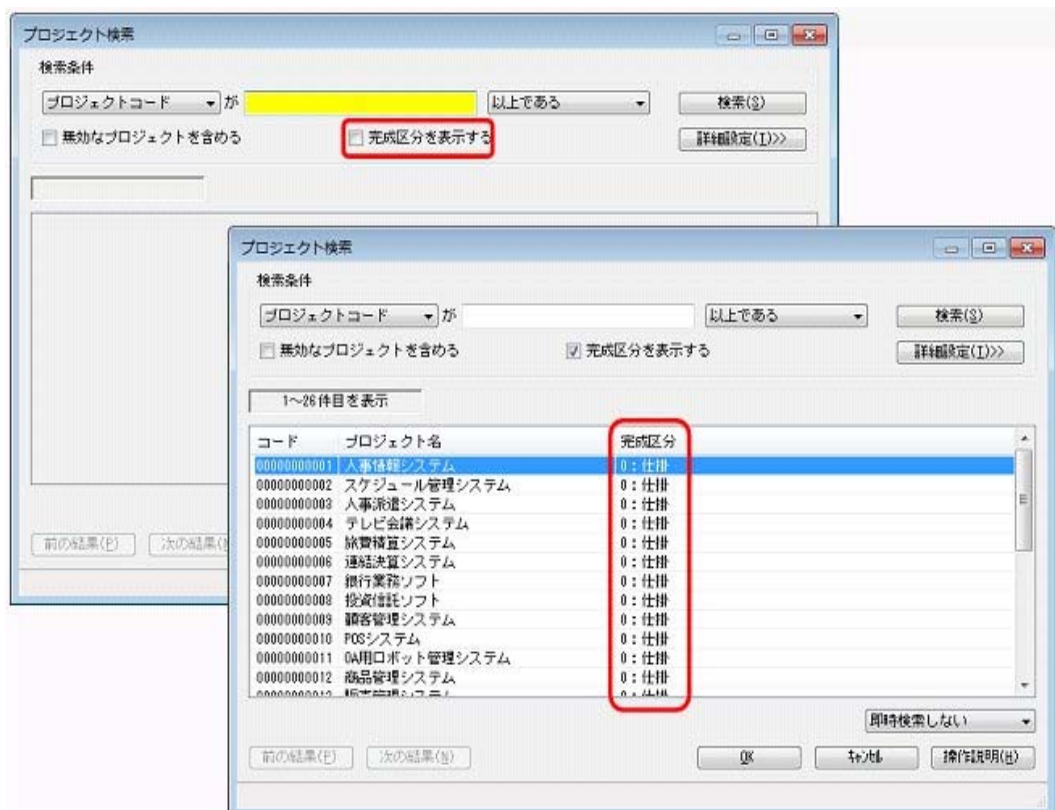
・ [原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト別サブプロジェクト内訳表]メニュー

- プロジェクト検索で完成区分を表示できるようになり、完成したプロジェクト・未完成のプロジェクトを確認しながら選択できます。

今までは、検索条件で完成区分を指定することで、完成したプロジェクトだけ、または未完成のプロジェクトだけに絞っての表示はできました。

今回から、完成区分をリストに表示することで、完成・未完成両方のプロジェクトをリストに表示しながら、補足情報として完成区分を確認できるようになります。

▼イメージ図



- 貸借別に摘要を入力できるようになり、外部システムで借方・貸方科目別に入力された摘要の仕訳伝票も受け入れられます。

＜『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合＞

「貸借別の摘要」を利用することで、借方科目・貸方科目それぞれ個別に摘要を入力できます。
また、外部システムで貸借別に入力された摘要の仕訳伝票を受け入れられます。（[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー）
貸借別に摘要を入力することで、元帳など明細出力する帳票や摘要集計表では、借方または貸方の特定の科目だけに集計できます。

詳細は、操作説明の「貸借別の摘要とは」をご確認ください。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[仕訳帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
- ※『管理会計管理オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
- ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[定型仕訳データ作成]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[定型仕訳データ受入]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合



- 未成工事支出金の仕入税額控除時期の特例を適用することができるようになりました。

未成工事支出金の仕入税額控除時期の特例（消費税法基本通達11-3-5）に対応しました。
※課税仕入れの税額控除は、その課税仕入れをした課税期間に控除することが原則です。しかし、建設業のような請負業の場合は、原材料仕入や外注加工費を「仕掛品」勘定に計上している場合に目的物が完成し引渡をした課税期間に控除することも、継続適用を条件として認められています。
取引発生時に専用の税区分を使用し、税込金額で仕訳を入力することで、完成振替の仕訳を作成する際に、課税仕入の税区分で消費税額を計上します。

詳細は、操作説明の「仕訳例：未成工事支出金の仕入税額控除」をご確認ください。

また、他の奉行シリーズから[随時処理]-[奉行連動データ受入]-[仕訳伝票受入]メニューで受け入れている仕訳伝票のうち、「仕掛品」科目に計上される原材料仕入れや外注加工費の取引の場合に、専用の税区分で自動的に受け入れます。

詳細は、操作説明の「仕訳伝票受入」をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [振替処理]-[完成振替]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計管理オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
- ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー

会計帳票



- 摘要集計表など各集計表から元帳へジャンプできるようになり、内訳明細を確認できます。

元帳にジャンプすることで、効率的に、該当項目の内訳明細を確認できます。

例えば、摘要集計表の場合には、勘定科目ごとに特定の摘要で集計された金額について、その内訳明細を確認できます。

《 関連メニュー 》

[会計帳票]-[集計表]の各メニュー

原価帳票



- 原価帳票でプロジェクト別に入金額・入金残を確認できるようになりました。

プロジェクト別に「入金額」「入金残」を把握するのに便利です。

また、粗利計算方法で、今までの「請負金額－製造原価」「売上高－製造原価」に加えて、「入金合計－製造原価」を選択することもできます。

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[プロジェクト関連登録]-[プロジェクト登録]-[プロジェクト登録]メニュー
- ・ [原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト台帳]-[プロジェクト台帳]メニュー ※印刷時のヘッダーのみ
- ・ [原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト一覧表]メニュー
- ・ [原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト原価集計表]メニュー
- ・ [原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト原価推移表]メニュー ※「入金額」のみ
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[プロジェクトデータ受入]メニュー

- プロジェクト別原価報告書で複数のプロジェクトを選択して画面表示や印刷ができるようになりました。

[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト別原価報告書]メニューで、複数のプロジェクトを順にひとつずつ確認する場合に、プロジェクトを都度指定しなおす手間がありました。これからは、画面表示後のファンクションキーで、プロジェクトを順に切り替えながら確認できます。

- プロジェクト別原価報告書で予算情報（予算額・予算残・消化率）を確認できるようになりました。

[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト別原価報告書]メニューで、予算情報（予算額・予算残・消化率）が集計できるようになりました。プロジェクトの原価を確認する際に、あわせて予算に対する原価の消化状況も把握できます。

- プロジェクト別原価報告書の転送で出力される金額の書式を変更しました。

[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト別原価報告書]メニューの転送で出力される金額の書式を変更しました。

今までは、補助科目が出力される行はその金額の前に「（）」が付加されていましたが、なくなります。これにより、補助科目が出力される行とされない行で同じ書式になるため、加工しやすくなります。

- プロジェクトごとにサブプロジェクト別の原価を確認できるメニューが追加されました。

[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト別サブプロジェクト内訳表]メニューで、プロジェクトごとにサブプロジェクト別の原価を確認できるため、内訳のサブプロジェクトごとに確認する場合に便利です。

分析帳票

- 従業員数を部門ごとに入力する際に部門合計が確認できるようになりました。

[分析帳票]-[経営分析]-[従業員数設定]メニューで従業員数を部門別に入力している際に、部門合計の従業員数を確認しながら、入力することができます。最終的に部門合計を全社の従業員数と確認することで、正しく入力できているか確認できます。

振替処理

- 工事進行基準のプロジェクトで消費税額を完成時に一括計上する場合に、売上と売上返還の消費税額を別々に計上できるようになりました。

工事進行基準のプロジェクトで消費税額を完成時に一括計上する場合に、売上と売上返還の消費税額を別々に計上できるように、それぞれの科目の税区分を変更しています。以下のように税区分を変更しています。

【売上】＜今まで＞		＜これから＞	
未完成時	⇒	未完成時	
「0：対象外」で計上		「560：完成時課税売上に振替」で計上	
完成時		完成時	
「60：課税売上」に振替		「60：課税売上」に振替	

【売上返還】＜今まで＞		＜これから＞	
未完成時	⇒	未完成時	
「0：対象外」で計上		「561：完成時課税売上の返還等に振替」で計上	
完成時		完成時	
「60：課税売上」に振替		「61：課税売上の返還等」に振替	

《 関連メニュー 》

- ・ [振替処理]-[完成振替]-[完成振替[製造原価]]メニュー
- ・ [振替処理]-[完成振替]-[完成一括振替]メニュー

配賦処理

- 日報を印刷する際に、社員別に改ページできるようになりました。

[配賦処理]-[労務費配賦]-[日報入力]メニューで日報を印刷する際に、社員別に改ページすることで、確認がしやすくなります。

- 労務費配賦の振替金額を転送できるようになりました。

[配賦処理]-[労務費配賦]-[振替金額登録]メニューで振替金額を転送できるようになりました。Excelなどで、二次加工して利用できます。

随時処理



- 『人事奉行』の『退職金管理オプション』から退職金支給時の仕訳を受け入れられます。

奉行シリーズ『人事奉行』の『退職金管理オプション』を導入している場合に、退職金支給時の仕訳が自動作成され、勘定奉行に連携できます。

仕訳伝票は、[随時処理]-[奉行連動データ受入]-[仕訳伝票受入]メニューで受け入れます。

- プロジェクトデータを上書きで受け入れる際のパフォーマンスが向上しました。

[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[プロジェクトデータ受入]メニューでプロジェクトデータを受け入れる際に、すでに登録済みのプロジェクト情報を更新する場合のパフォーマンスが向上しました。

OMSS業務支援サービス

参 考

○「OMSS」や「業務支援サービス」の詳細については、以下のサイトをご確認ください。

<http://www.obc.co.jp/click/omss/>

○「業務支援サービス」は、「OMSS」の契約期間中に利用できるサービスです。

「OMSS」の契約期間が終了した時点で、「業務支援サービス」も利用できなくなりますので、ご注意ください。

- Office連携サービスの機能を強化（テンプレート・パスワード）しました。
＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞



○Excelピボットグラフのテンプレート機能

ピボットグラフを作成した後、分析しやすいようにExcel上でデザインを変更した場合に、次回以降も同じデザインで作成できます。

当システムでは、同じメニューの同条件で作成したピボットグラフのファイルをテンプレートとして指定すると、毎回独自のデザインでピボットグラフが作成できます。

《 関連メニュー 》

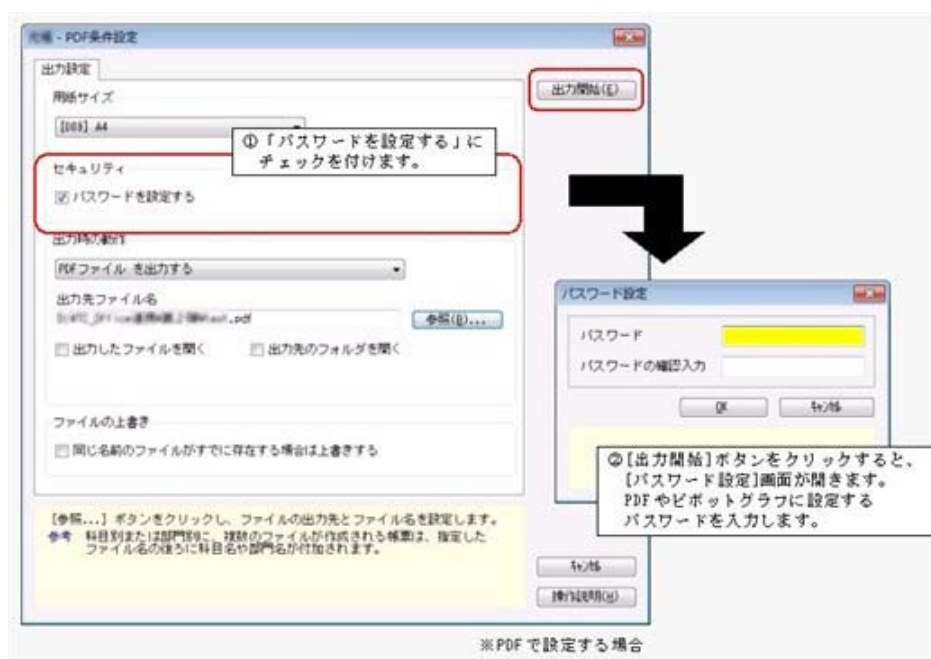
- ・ [元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]-[部門別推移表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]-[補助科目別推移表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]-[取引先別推移表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]-[セグメント別推移表]メニュー
- ※ 『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[部門別対比表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[補助科目別推移表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[取引先別推移表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[セグメント別対比表]メニュー
- ※ 『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合

○Outlook メールテンプレート機能

当システムでは、作成したPDFやピボットグラフをMicrosoft Outlookのメールに添付して送信する際に、宛先や件名、メール本文が毎回同じ場合は、Microsoft Outlookで保存したテンプレートを利用できます。

○パスワード機能

当システムでは、作成したPDFやピボットグラフにパスワードを設定できます。





- Excelピボットグラフを作成できるメニューが追加されました。
＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞

当システムの基幹データをもとに、業務情報の集計表（ピボットテーブル）やグラフ（ピボットグラフ）に出力し、ピボット分析ができるメニューが追加されました。

《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[推移表]-[補助科目別推移表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]-[取引先別推移表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]-[セグメント別推移表]メニュー
※『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[補助科目別対比表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[取引先別対比表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[セグメント別対比表]メニュー
※『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合

グループ企業管理



- 勘定科目を未使用にした情報も配信できるようになりました。
＜『勘定奉行V ERP8 Group Management-Edition』をお使いの場合＞

新しい会計期間で未使用になった勘定科目の情報も配信できるようになり、各グループ会社間で統一することが容易になります。

今までは、グループ会社それぞれで未使用にする設定が必要でした。

具体的には、[グループ企業管理]-[マスター配信]-[配信対象データ設定]メニューで、未使用の勘定科目も画面表示するように設定し、勘定科目の関連付けをします。

また、新規に追加登録した勘定科目がある場合、その並び順も加味して、配信されるようになりました。

今までは、コード順で配信されていたので、配信先で並び順を変更する必要がありました。


財務会計システム[個別原価管理編]



勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.07

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【法改正情報】	
	平成26年4月施行消費税8%改正に対応しました。	2
	国税電子申告について、平成25年度の電子申告（XBRL Spec2.1 Ver. 2.0）に対応しました。	2
	【仕訳処理】	
	定型仕訳を仕訳伝票と同時に登録する際、金額をクリアしたり、編集してから登録できるようになりました。 また、登録済みの定型仕訳の上書き登録もできます。	4
	【随時処理】	
	定型仕訳の汎用データを作成する際に、詳細な条件を指定できるようになりました。	5
	特定の仕訳明細の税率を一括で変更できるようになりました。	6

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

法改正情報



● 平成26年4月施行消費税8%改正に対応しました。

平成26年4月施行消費税8%改正に伴い、下記項目に対応しました。

- ・ 消費税率8%への引き上げ
- ・ 旧税率5%が適用される経過措置の取引入力
- ・ 消費税申告書と付表のレイアウト変更

具体的な対応内容は、操作説明の「《法改正》平成26年4月1日施行 消費税8%改正」をご参照ください。

● 国税電子申告について、平成25年度の電子申告（XBRL Spec2.1 Ver.2.0）に対応しました。

平成25年度の法人税の電子申告に対応しました。

具体的には、法人税申告に必要な財務諸表データを XBRL Spec2.1 Ver.2.0 に対応しました。

なお、地方税申告は、今までどおりVer.1.0です。そのため、法人税申告に加えて地方税申告にも財務諸表データを添付する際は、別途、電子申告科目や注記を登録する際に、税目を「地方税申告」に切り替えて設定します。

▼イメージ図

○[電子申告科目設定]メニュー

○[電子申告データ作成[財務諸表]]メニュー

電子申告データ作成[財務諸表] - 条件設定

基本条件

申告区分

☒ 確定 (会計期首から会計期末まで)

☐ 中間 (会計期首から6ヵ月目まで)

作成帳票

貸借対照表

損益計算書 (製造原価報告書を含む)

☒ 株主資本等変動計算書

☐ 償還引当金

受入システム

☒ 申告書行[法人税・地方税編]

受入方法 ファイル受入

科目

法人税申告

法人税申告

法人税・地方税申告

作成開始(C)

《 関連メニュー 》

- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告科目設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告注記登録]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告データ作成[財務諸表]]メニュー

仕訳処理

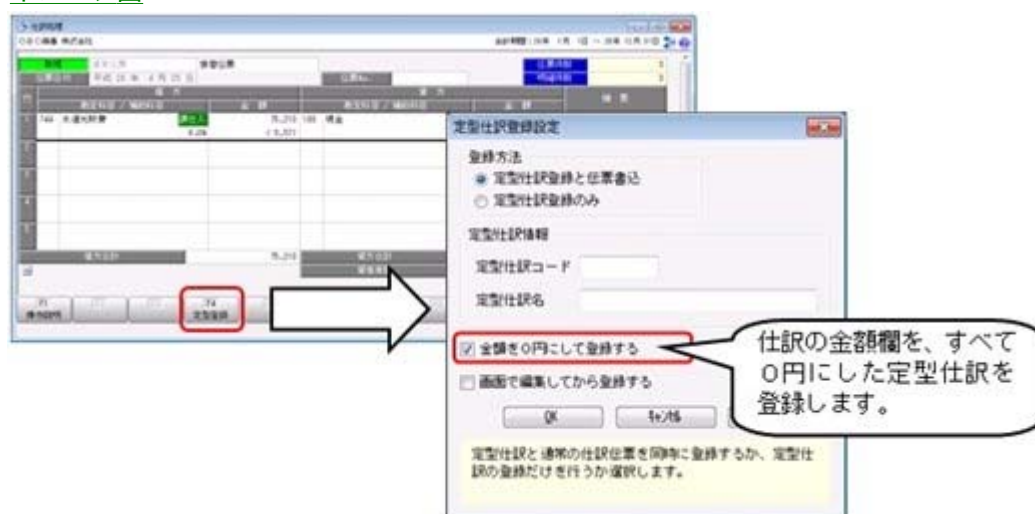


- 定型仕訳を仕訳伝票と同時に登録する際、金額をクリアしたり、編集してから登録できるようになりました。
また、登録済みの定型仕訳の上書き登録もできます。

[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューで伝票を登録すると同時に、その仕訳を「定型仕訳」としても登録する際に、今までは必ず金額が入ったままで登録されていましたが、これからは金額を0円で登録できます。

金額が毎回異なるような定型仕訳の場合に、活用します。

▼イメージ図



さらに、摘要を編集したり、部門や取引先などのマスターを未指定にして登録できます。「定型仕訳」を呼び出した後に個別入力させる項目など、一部編集する際に活用します。

▼イメージ図



なお、今までは、新規に追加することしかできませんでしたが、定型仕訳を呼び出して、一部修正した場合に、上書きでその変更内容を、元の定型仕訳に反映できるようになりました。

▼イメージ図



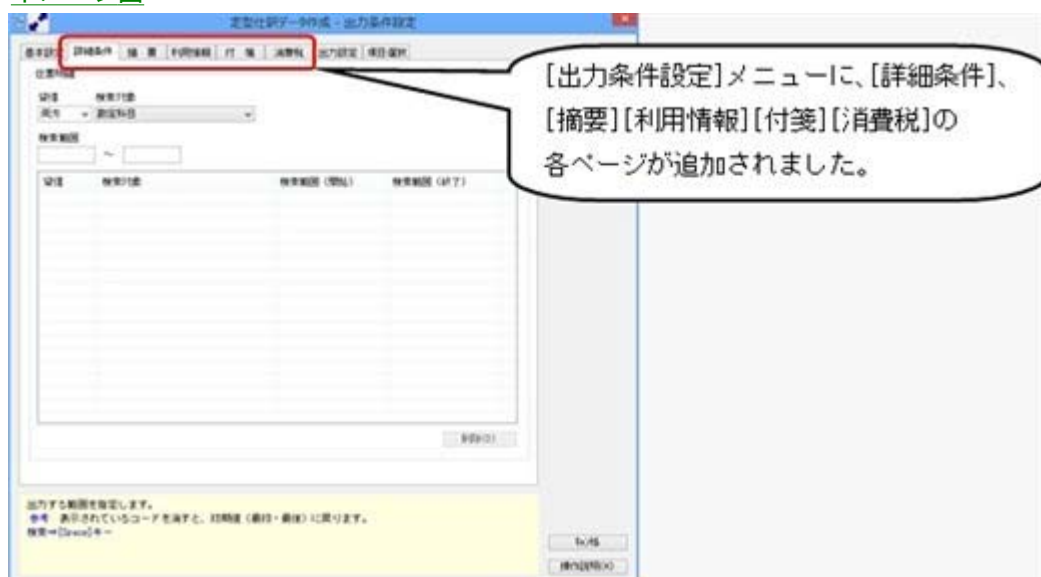
随時処理

- 定型仕訳の汎用データを作成する際に、詳細な条件を指定できるようになりました。

[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[定型仕訳データ作成]メニューで汎用データを作成する際に、詳細な条件を指定することで、必要なデータだけに絞って出力できます。

一度転送して、Excelなどで加工してから再度受け入れることで、効率的に定型仕訳の内容を更新できます。

▼イメージ図



● **特定の仕訳明細の税率を一括で変更できるようになりました。**

[随時処理]-[データー一括変更]-[仕訳伝票データー一括変更]-[税率一括変更]メニューが新規に追加され、以下のような場合に、特定の仕訳明細の税率を一括で変更できるようになりました。

新税率から旧税率（経過措置の取引）へ、また、旧税率から新税率へ変更する場合に有効です。

- ・ 外部システムから汎用受入をしているが、外部システムが旧税率の取引に対応していない
- ・ 消費税改正対応プログラムをセットアップする前に、先行登録した新税率施行日（平成26年4月1日など）以後の仕訳伝票

具体例や手順は、操作説明の「税率を一括で変更する具体例と手順」をご確認ください。


財務会計システム[個別原価管理編]






勘定奉行V ERP





機能アップガイド

Ver.2.06

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【OMSS業務支援サービス】	
	「OMSS OBCメンテナンスサポートサービス」の「業務支援サービス」に対応しました。	3
	【全般】	
	『セグメント管理』オプションの名称が『伝票項目拡張』オプションに変更になり、より多面的な分析に活用できる機能が提供されます。	13
	【帳票全般】	
	「明細区分」を利用することで、金額集計の分析軸や仕訳伝票の付加情報を強化し、多面的な分析に活用できます。	14
	＜『伝票項目拡張（旧セグメント管理）オプション』をお使いの場合＞	
	配賦伝票などを、財務会計伝票とは別の「管理会計伝票」として登録することで、財務諸表に影響を与えずに管理会計帳票を作成できるようになりました。	14
	＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞	
	決算報告書などの特定の帳票だけ、どの利用者でも共通の印刷レイアウトにできるようになりました。	14
	帳票で、複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化できます。（集計条件パターン） また、集計条件のマスターコードを、次回以降も固定できます。（コード保存）	15
	プロジェクト名称を、[プロジェクト登録]メニューで設定した「プロジェクト名」「プロジェクト略称」のどちらで表示するかを設定できるようになりました。	16
	【仕訳処理】	
	伝票検索後、条件に該当する明細行が青色で強調表示されるとともに、その行へジャンプでき、見つけやすくなりました。	18
	仕訳伝票の入力時に、借方のサブマスター（プロジェクトなど）を貸方に複写する機能が追加され、効率的に入力できます。	19
	仕訳伝票リストや承認の画面上でも、付箋の貼り付けや取り外しができるようになりました。	19
	仕訳伝票承認の業務（通知・否認・付箋）が強化され、承認者と伝票入力担当者間の一連の作業がスムーズになります。	20
	【会計帳票】	
	取引先集計表で、金額が発生している取引先だけを集計するように変更し、パフォーマンスが向上しました。	20
	【原価帳票】	
	台帳で、明細の発生していない月の月計を非表示にし、不要な情報を省くことができるようになりました。	20
	台帳を出力する際に、仕訳伝票が非常に多く登録されている場合でも、すべての集計の終了を待たずに、すぐに画面で明細を確認し始められるようになりました。	21
	プロジェクト一覧表で、仕掛プロジェクトと完成プロジェクトの区分なしに表示することで、その合計額を把握できるようになりました。	22

	プロジェクト一覧表で、予定期間を表示できるようになりました。	22
	プロジェクト一覧表の転送で出力される「プロジェクトの完成日付」の書式を、文字列属性から日付属性に変更しました。	23
	【分析帳票】	
	推移表・対比表から、直接元帳にジャンプして、金額を追跡できるようになりました。	23
	【配賦処理】	
	配賦実行後に、配賦基準を見直してやり直す場合に、配賦の実行単位で一括で配賦伝票を削除できるようになりました。	24
	【決算処理】	
	決算報告書を、要約印刷する・しないを都度切り替えて出力できるようになりました。	24
	決算報告書を、それぞれの用途に応じて、要約形式（要約設定や見出し項目の内容）を複数用意できるようになりました。	24
	キャッシュ・フロー計算書が「直接法」でも印刷できます。	25
	補助科目ごとに、キャッシュ・フロー属性を設定できるようになりました。	25
	【随時処理】	
	プロジェクトの汎用データを作成する際に、完成区分などの条件も指定できるようになりました。	25
	複数の外部システムと連携している場合に、外部システムごとに、仕訳伝票データを「承認済み」として受け入れるかを設定できるようになります。	25
	奉行21シリーズのソリューション製品等で作成された日報のデータを受け入れるようになりました。	26
	『SUPER COMPACT Pathfinder』との連携で、貸借対照表は「残高」・損益計算書は「発生」という場合も、一度に集計して、連携できるようになりました。	26
	【その他の変更情報】	
	『参照専用ライセンス』の初期画面を設定できるメニューを追加しました。 ＜『参照専用ライセンス』をお使いの場合＞	26
	メニュー形式が「メニューバー」の場合でも、「奉行 i メニュー」を表示できるようになりました。	27
	【財務諸表照会Webオプション】	
	「明細区分」を利用することで、金額集計の分析軸や仕訳伝票の付加情報を強化し、多面的な分析に活用できます。 ＜『伝票項目拡張（旧セグメント管理）オプション』をお使いの場合＞	27
	配賦伝票などを、財務会計伝票とは別の「管理会計伝票」として登録することで、財務諸表に影響を与えずに管理会計帳票を作成できるようになりました。 ＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞	27

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

OMSS 業務支援サービス



- 「OMSS OBCメンテナンスサポートサービス」の「業務支援サービス」に対応しました。

「OMSS OBCメンテナンスサポートサービス（以下、OMSS）」にご加入いただいているお客様向けに、当システムを活用して業務生産性や情報活用の向上を支援する「業務支援サービス」をご用意しました。

また、新たに「OMSS+」というサービスも用意しています。「OMSS」にご加入いただいているお客様が、製品や業務カテゴリごとに、さらに充実した便利さを追求いただくにあたり、お客様が選択できるサービスです。

「OMSS」や「業務支援サービス」の詳細については、以下のサイトをご確認ください。

<http://www.obc.co.jp/click/omss/>

注 意

- 「業務支援サービス」は、「OMSS」の契約期間中に利用できるサービスです。
「OMSS」の契約期間が終了した時点で、「業務支援サービス」も利用できなくなりますので、ご注意ください。
- 「OMSS+」は、「OMSS」にご加入いただいているお客様が、別途、追加料金によってご利用いただけるサービスです。

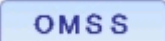
当システムでは、以下の「業務支援サービス」について利用できます。

- Office連携サービス
- 電子記録債権連携サービス

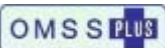
参 考

操作説明（ヘルプ）では、以下のように記載しています。

- 「OMSS」の「業務支援サービス」で提供する機能

 または『OMSS』

- 「OMSS+」の「業務支援サービス」で提供する機能

 または『OMSS+』

■Office連携サービス

<「OMSS」をお使いの場合>

当システムから「Microsoft Office」に、シームレスに連携する機能を利用できるサービスです。

当システムの基幹データを円滑に情報共有・分析でき、全社的な情報活用による業務生産性の向上を支援します。

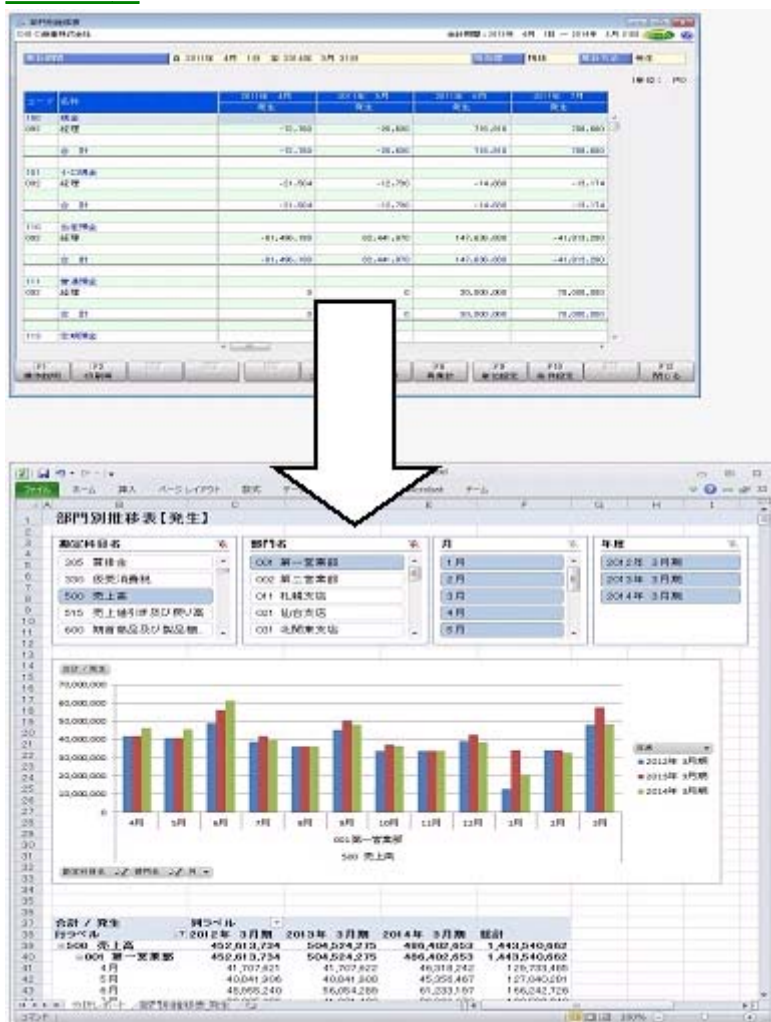
○Excelピボットグラフ連携

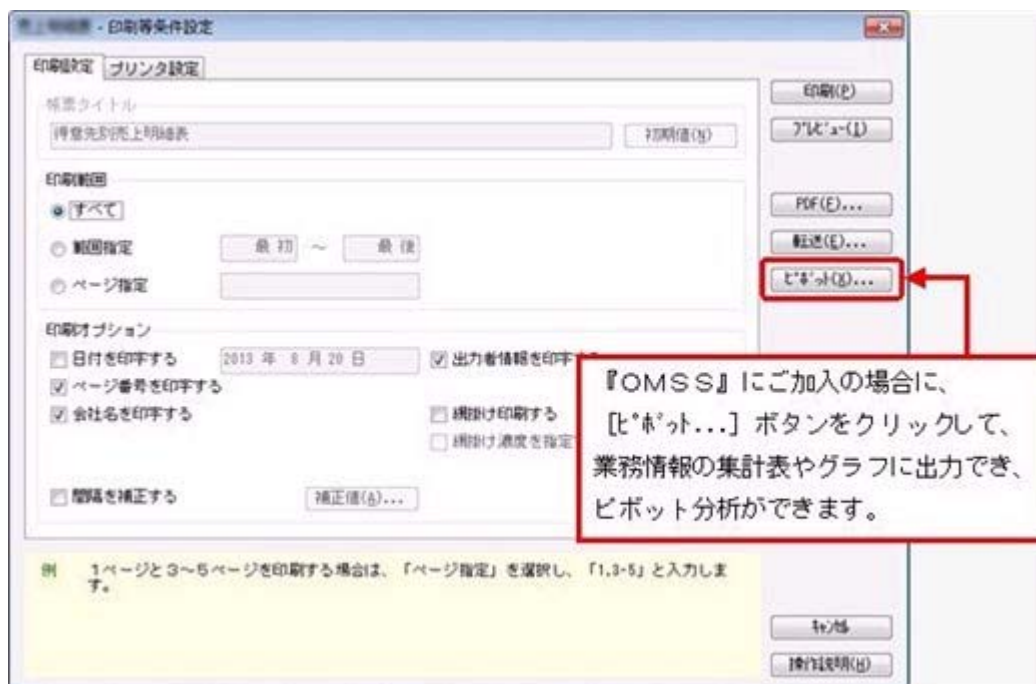
当システムの基幹データをもとに、業務情報の集計表（ピボットテーブル）やグラフ（ピボットグラフ）に出力でき、ピボット分析ができます。

Excelの専門知識がなくても、簡単な操作だけで次々と切り口を切り換えたり（スライサー）、関心項目の詳細まで絞り込み（ドリルダウン）して視覚的に分析することで、情報の傾向や問題点を見つけ出すことができます。

※Microsoft Excel 2010以上が必要です。

▼イメージ図





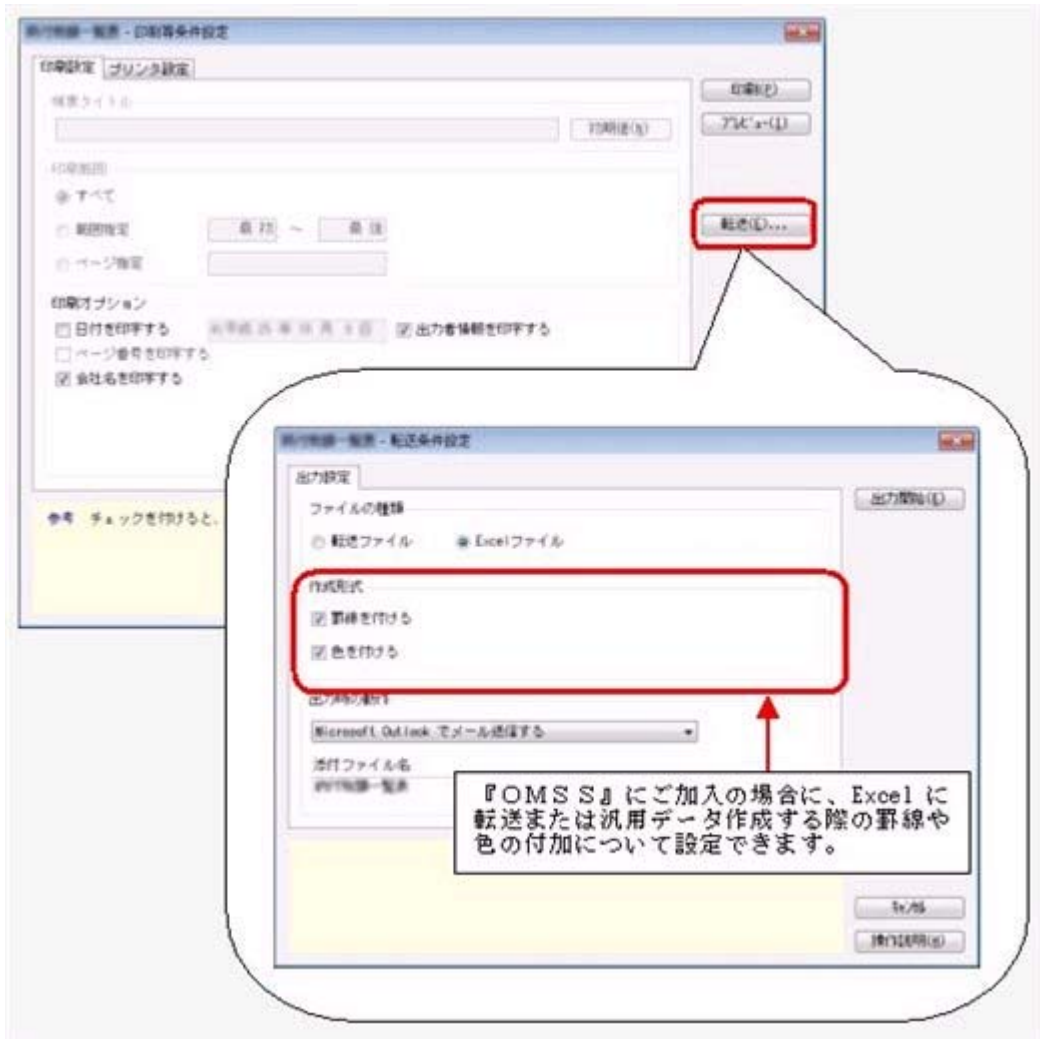
《 関連メニュー 》

- ・ [元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]-[部門別推移表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[部門別対比表]メニュー

○Excelへの罫線出力機能

各帳票をExcelに出力する際に、自動で罫線や項目を色付けして、見やすい資料を作成できます。

▼イメージ図



○PDF出力機能

各帳票の印刷物を、PDFファイルとして出力できます。

▼イメージ図



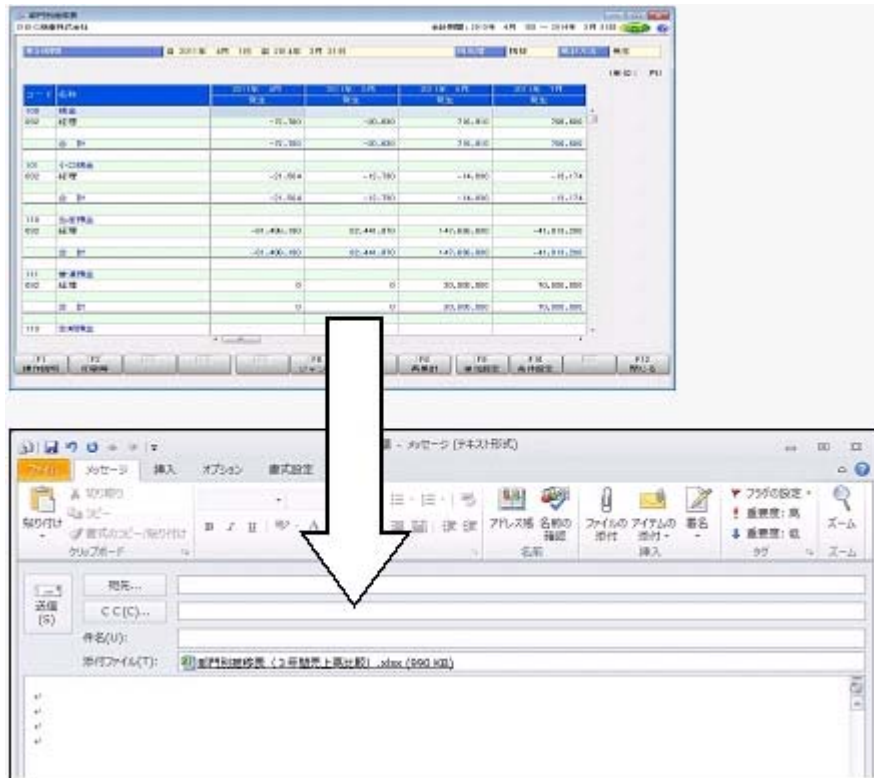
○Outlook 連携

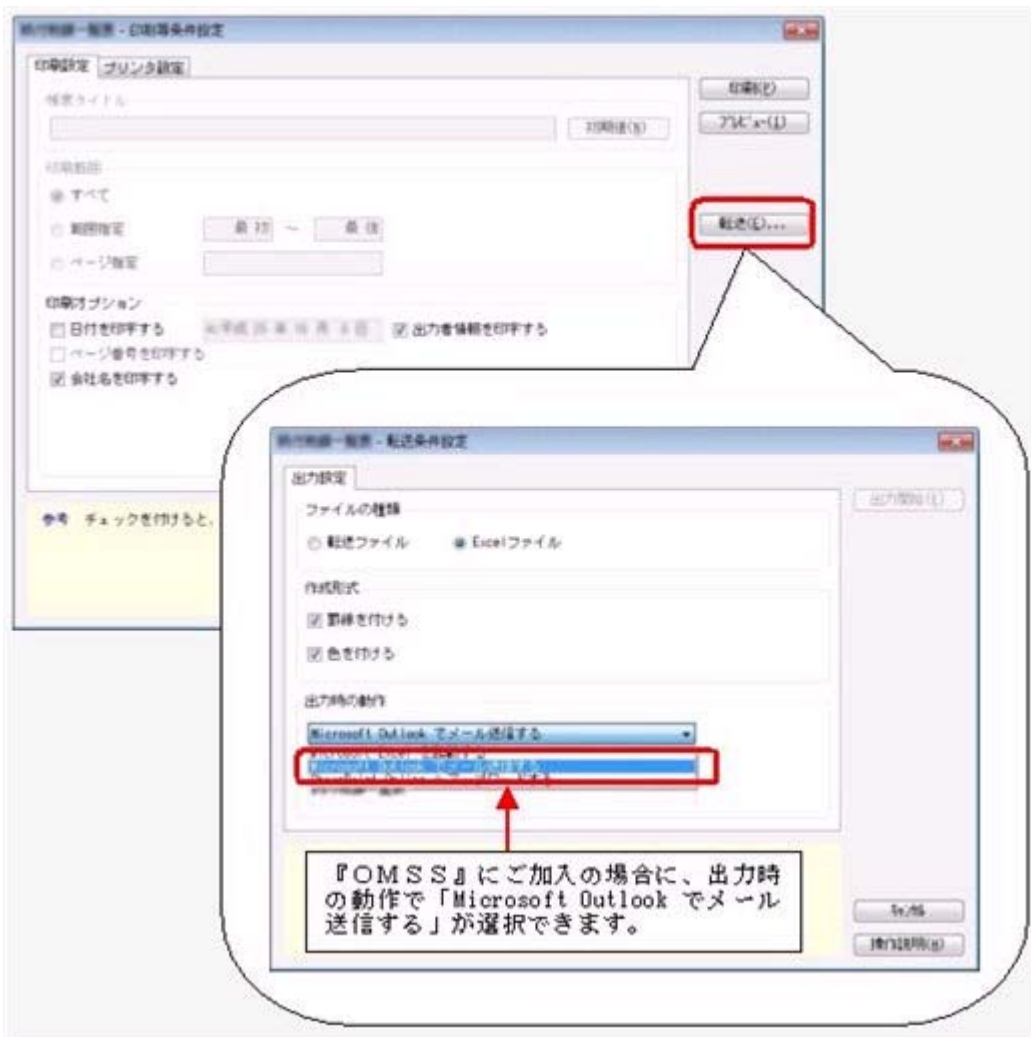
自動的にOutlookを起動して、Excel出力した集計表やPDF化した管理資料のファイルを添付して、送信できます。

「ファイルを作成・保存してから、メールに添付して送信する」といった、一連の手間を省くことができます。

※Microsoft Outlook 2007以上が必要です。

▼イメージ図





直接「SharePoint Online」のライブラリを指定して、Excel出力した集計表やPDF化した管理資料のファイルを保存できます。

基幹情報を簡単にクラウド上のサイトで共有でき、利用者は時間や場所にとらわれずに、情報を活用できます。

[illegible]

○ダイレクト出力機能（クイックメニュー）

画面表示した帳票を、クイックメニューからワンタッチでダイレクト印刷できます。

また、前述の「Excelピボットグラフ連携」「Excel罫線出力」「PDF出力」「Outlook連携」「SharePoint Online連携」についても、ワンタッチでダイレクト出力できます。出力形式が決まっている帳票は、印刷・転送の条件設定画面を経由せずに直接出力できるため、よりスピーディーに出力できます。

よって、『参照専用ライセンス』を利用している経営者や営業なども、ワンタッチの簡単な操作で、基幹情報をすぐに取り出せます。

▼イメージ図



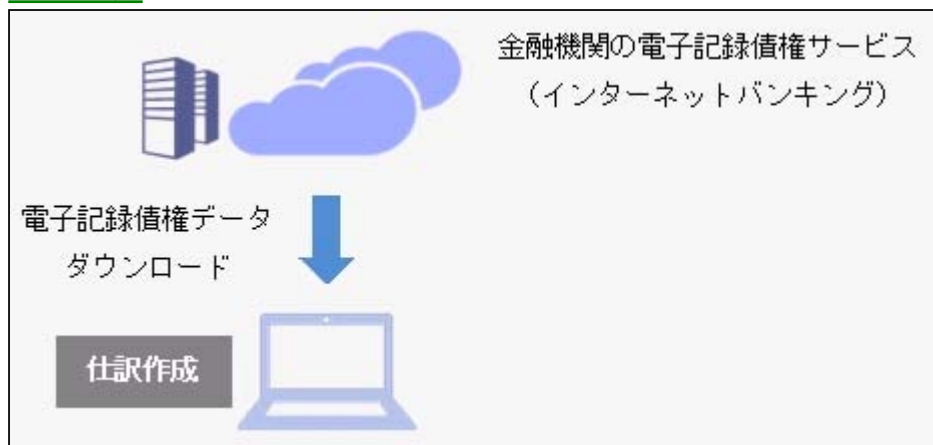
■電子記録債権連携サービス

<「OMSS」をお使いの場合>

「電子記録債権」とは、事業者の資金調達の円滑化等を図るために創設された、既存の手形・売掛債権とは異なる新たな金銭債権です。

このサービスをご利用いただくことで、金融機関の電子記録債権サービスでダウンロードした電子記録債権（債務）データファイルをもとに、簡単に仕訳伝票を作成できます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

[電子記録債権処理]メニューの各メニュー

電子記録債権連携サービス（てん末管理対応サービス）

<「OMSS+」をお使いの場合>

『OMSS+』の「てん末管理対応サービス」をご利用いただくことで、電子記録債権の仕訳自動作成に加えて、割引や決済のてん末管理が行えるようになります。

また、電子記録債務のデータの生成も可能となります。電子記録債権の管理と業務の効率化を実現します。

上記、「業務支援サービス」の利用期間を確認できる、[管理ツール]-[ライセンス一覧]メニューが追加されました。

当システムで使用できる「業務支援サービス」について、利用期間を一覧で確認できます。

また、当システムおよびオプション製品についても、ライセンス情報（登録番号やライセンスキー等）を一覧で確認できます。

▼イメージ図

※利用期間やライセンス情報の最新情報は、以下の方法で取得できます。

【インターネット接続環境のコンピュータで、当システムをお使いの場合】
常に最新情報が表示されます。

【インターネットに接続されていないコンピュータで、当システムをお使いの場合】
OMS Sにご加入いただいたお客様がダウンロードできる「OMS Sライセンスファイル」を、[ライセンス一覧]メニュー読み込むことで最新情報を表示できます。

※[ライセンス一覧]メニューは、管理者だけに表示されます。

全般

- 『セグメント管理』オプションの名称が『伝票項目拡張』オプションに変更になり、より多面的な分析に活用できる機能が提供されます。

『セグメント管理オプション』の名称が『伝票項目拡張オプション』に変更になりました。

今までのセグメント情報に加え、「明細区分」など、金額集計の分析軸や仕訳伝票の付加情報が強化されて、多面的な分析に活用できる機能が提供されます。



- 「明細区分」を利用することで、金額集計の分析軸や仕訳伝票の付加情報を強化し、多面的な分析に活用できます。

＜『伝票項目拡張（旧セグメント管理）オプション』をお使いの場合＞

「明細区分」を利用することで、「マネジメント・アプローチ」によるセグメント会計の枠にとどまらず、お客様の用途に合わせて、さらなる金額集計の分析軸や、仕訳伝票の付加情報を強化できます。

業務システムから流れてくる情報を「明細区分」として仕訳伝票に取り込むことで、業務にもとづいた多面的な分析に活用できます。

明細区分の使用方法は、操作説明の「明細区分とは」をご参照ください。



- 配賦伝票などを、財務会計伝票とは別の「管理会計伝票」として登録することで、財務諸表に影響を与えずに管理会計帳票を作成できるようになりました。

＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞

部門集計表など、管理会計帳票としても活用する帳票では、「管理会計伝票」として登録した共通経費の配賦伝票も含めて集計することで、部門ごとの利益などを正確に確認できます。

一方で、財務会計用の帳票（財務諸表など）では、「管理会計伝票」を集計から除くことで、純粋に財務会計の金額を確認できます。

詳細は、操作説明の「財務諸表（財務会計用の帳票）に影響を与えずに管理会計帳票を作成する」をご確認ください。

- 決算報告書などの特定の帳票だけ、どの利用者でも共通の印刷レイアウトにできるようにしました。

集計条件や印刷の条件を、利用者ごとに保持するか、全利用者で共通で保持するかを設定できるようになりました。

※[会社運用設定]メニューの[基本設定]ページの「条件設定の保持」で設定できます。

以下のような場合に、有効です。

- 決算報告書などの特定の帳票だけ、どの利用者でも共通の印刷レイアウトにする場合
- 税理士事務所など、どの利用者でも同じ設定条件で印刷する場合

- 帳票で、複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化できます。（集計条件パターン）

また、集計条件のマスターコードを、次回以降も固定できます。（コード保存）

○集計条件パターンの具体的な利用方法は、操作説明の「複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化する」をご確認ください。

○コード保存の具体的な利用方法は、操作説明の「集計条件のマスターコードを、次回以降も固定する」をご確認ください。

※[会計帳票]の各帳票メニューや決算報告書については、すでにこの機能が追加されていますが、他の帳票にも機能が追加されました。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[内訳表]-[現預金内訳表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[資金繰]-[資金繰実績推移表]／[資金繰明細表]メニュー
- ・ [原価帳票]の各帳票メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]／[対比表]の各メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績対比表]の各メニュー
- ・ [消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニュー／[科目別税区分集計表]メニュー／[税区分明細表]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー計算書]／[キャッシュ・フロー精算表]メニュー

- プロジェクト名称を、[プロジェクト登録]メニューで設定した「プロジェクト名」「プロジェクト略称」のどちらで表示するかを設定できるようになりました。

[導入処理]-[会計期間設定]-[原価管理設定]メニューの[基本設定]ページのプロジェクト名表示で、プロジェクト名称を、[導入処理]-[プロジェクト関連登録]-[プロジェクト登録]-[プロジェクト登録]メニューで設定した「プロジェクト名」「プロジェクト略称」のどちらで表示するかを設定できるようになりました。

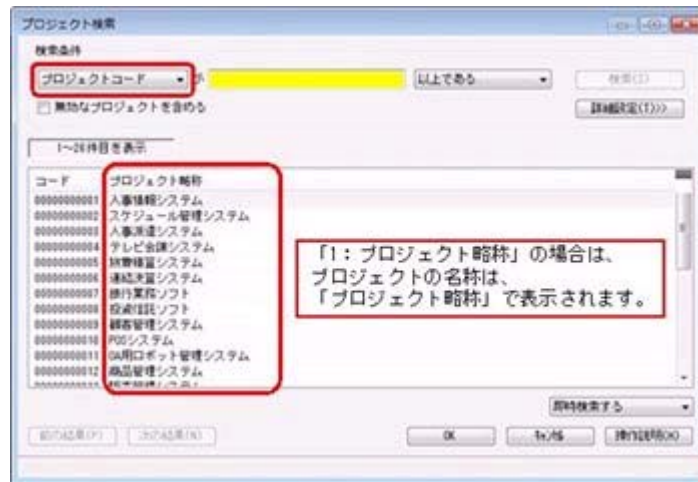
[仕訳処理]メニューや[元帳]メニューなど、設定した内容が各メニューに反映されます。

▼例

- ・ [仕訳処理]画面

- ・ [元帳]画面

・[プロジェクト検索]画面

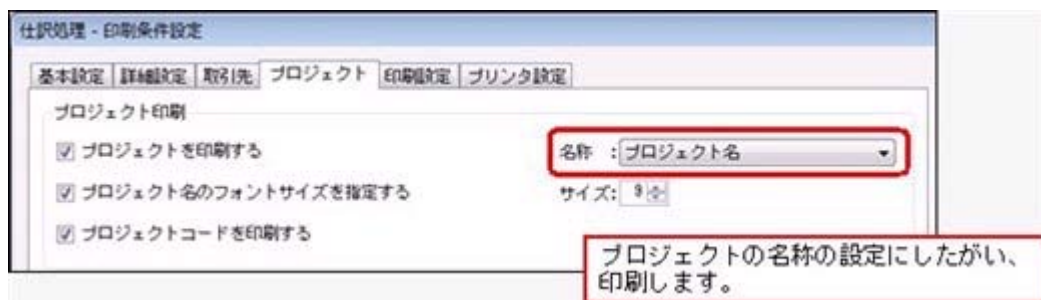


[仕訳処理]メニューや[元帳]メニュー、[部門原価台帳]メニュー、[プロジェクト原価台帳]メニューなど明細を出力するメニューでは、印刷時にプロジェクトの名称を、「プロジェクト名」にするか「略称」するか選択できます。

[印刷条件設定]画面の[プロジェクト]ページの「名称」で、プロジェクトの名称を選択します。

▼例

[仕訳処理 - 印刷条件設定]画面



原価帳票を出力するメニューでは、メニューごとに出力するプロジェクトの名称を設定できます。

[条件設定]画面の「名称表示」で、プロジェクトの名称を選択します。

▼例

[プロジェクト一覧 - 条件設定]画面



仕訳処理



- 伝票検索後、条件に該当する明細行が青色で強調表示されるとともに、その行へジャンプでき、見つけやすくなりました。

[条件設定]画面で指定した条件と一致する明細行が、青色で強調されて表示されるようになりました。

▼イメージ図

例) 「021 仙台支店」を条件指定した場合

行	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額	備 考
1	D01 第一営業部		002 経理		広告宣伝費の支払い
T02	広告宣伝費	1,500,000	110 当座預金	15,000,000	
		5.0%	001 東都中央銀行本店		
				(31,428	
2	D02 第二営業部				
T02	広告宣伝費	1,500,000			
		5.0%			
				(31,428	
3	D11 札幌支店				
T02	広告宣伝費	1,000,000			
		5.0%			
				(47,619	
4	D21 仙台支店				
T02	広告宣伝費	1,000,000			
		5.0%			
				(47,619	
5	D31 札幌支店				
T02	広告宣伝費	700,000			

また、一致した明細行が次画面以降にある場合でも、[次検索明細] (F8) を押すことで、該当する明細行へジャンプでき、効率的に見つけやすくなりました。

※ [次検索明細] (F8) は、[Ctrl] キーでWindowsファンクションを切り替えると、以下のように表示されます。



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニューなど
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニューなど
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニューなど

- 仕訳伝票の入力時に、借方のサブマスター（プロジェクトなど）を貸方に複写する機能が追加され、効率的に入力できます。

[仕訳処理]画面で、貸方のサブマスター（プロジェクトなど）のコード入力欄にカーソルが入ったときに、借方のサブマスターを複写する機能が追加されました。

※[仕訳処理 - 設定]画面の[複写設定]ページの借方複写で設定

▼イメージ図

項目	複写設定	借方複写
部門コード	前行複写 <input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する	
勘定科目コード	前行複写 <input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する	
補助科目コード	前行複写 <input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する	
取引先コード	前行複写 <input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する	<input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する
セグメント1コード	前行複写 <input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する	<input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する
セグメント2コード	前行複写 <input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する	<input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する
プロジェクトコード	前行複写 <input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する	<input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する
サブプロジェクトコード	前行複写 <input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する	<input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する
外貨コードの複写	前行複写 <input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する	
レートの複写	前行複写 <input type="radio"/> 複写しない <input type="radio"/> 複写する	

※サブマスター：取引先・プロジェクト・サブプロジェクト・セグメント

これにより、借方貸方それぞれで、同じサブマスターのコードを指定する煩雑さが解消されます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[仕訳帳入力]メニュー

- 仕訳伝票リストや承認の画面上でも、付箋の貼り付けや取り外しができるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニューや[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューなどのリスト参照画面上では、今までは、貼ってある付箋を確認するだけでしたが、貼ったりはがしたり、メモ内容を編集したりできるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳伝票リスト[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[遡及仕訳伝票リスト]メニュー



- **仕訳伝票承認の業務（通知・否認・付箋）が強化され、承認者と伝票入力担当者間の一連の作業がスムーズになります。**

通知や否認機能・付箋の強化により、仕訳伝票承認で承認者と伝票入力担当者間の一連の作業がスムーズになります。

詳細は、操作説明の「仕訳伝票承認の流れ」をご確認ください。

【承認者】

○承認する伝票がある場合に、当システム起動時にメッセージで通知を受けられます。

※[会社運用設定]メニューの[承認設定]ページの「起動時の承認確認メッセージ」で設定できます。

○承認作業を進める中で、仕訳伝票に誤入力などの問題が見つかった場合、問題のある仕訳伝票を否認して差し戻すことができます。

またその際に、付箋を活用して、否認理由などを入力担当者に伝達することもできます。

【入力担当者】

○否認された伝票がある場合は、当システム起動時に、メッセージで通知されます。

また、その通知メッセージから直接、否認伝票を確認・修正することもできます。

○承認者が否認時に貼り付けた付箋を頼りに、修正すべき該当明細行へジャンプし、スムーズに修正できるようになりました。

会計帳票

- **取引先集計表で、金額が発生している取引先だけを集計するように変更し、パフォーマンスが向上しました。**

[会計帳票]-[集計表]-[取引先集計表]メニューで、取引先を指定せずに集計する際に、金額が発生している取引先だけを集計するように変更しました。

月次残高を利用して集計するように設定している場合に有効です。

詳細は、操作説明の「月次集計の帳票全般で、集計速度を向上させる設定」をご確認ください。

※この機能は、ネットワーク対応製品の場合に使用できます。

原価帳票

- **台帳で、明細の発生していない月の月計を非表示にし、不要な情報を省くことができるようになりました。**

[原価帳票]-[部門別原価帳票]-[部門原価台帳]-[部門原価台帳]メニュー・[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト台帳]-[プロジェクト台帳]メニューの[印刷条件設定]画面で、「明細のある月だけ月計を出力する」に設定すると、明細の発生していない月の月計を非表示にできるようになりました。

この機能により、不要な情報を省くことができ、印刷枚数を節約できます。

※元帳にはすでにこの機能が追加されていますが、台帳にも機能が追加されました。

- 台帳を出力する際に、仕訳伝票が非常に多く登録されている場合でも、すべての集計の終了を待たずに、すぐに画面で明細を確認し始められるようになりました。

[原価帳票]-[部門別原価帳票]-[部門原価台帳]-[部門原価台帳]メニューの部門原価台帳・[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト台帳]-[プロジェクト台帳]メニューのプロジェクト台帳を出力する際、今までは、すべての集計が終了するまで、仕訳伝票の集計結果を確認できませんでした。

今回から、集計の終了した明細から順次、画面に表示されるため、仕訳伝票リストを効率よく確認できるようになりました。

※元帳・仕訳伝票リスト・税区分明細表については、すでにこの機能が追加されていますが、台帳についても機能が追加されました。

- プロジェクト一覧表で、仕掛プロジェクトと完成プロジェクトの区分なしに表示することで、その合計額を把握できるようになりました。

[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト一覧表]メニューで、今までは、必ず完成区分ごとに区分して表示されていましたが、選択できるようになりました。

※[条件設定]画面の[詳細条件1] ページのプロジェクトの表示方法で設定します。

▼イメージ図

「仕掛プロジェクトと完成プロジェクトを区分しないで表示する」にチェックを付けない場合（今までの表示）

このスクリーンショットは、プロジェクト一覧表の「仕掛プロジェクトと完成プロジェクトを区分しないで表示する」にチェックが付いていない状態を示しています。表には、仕掛プロジェクトと完成プロジェクトの別々の合計行が追加されています。

コード	プロジェクト名	原価計	仕掛費	完成費	総費
0000000004	テレビ会議システム	8,727,060	0	5,736,066	3,990,974
0000000005	経費精算システム	8,675,048	0	5,106,066	3,434,991
0000000006	連結決算システム	3,804,722	0	1,475,580	2,329,142
0000000007	総務業務ソフト	6,005,418	0	2,246,487	3,758,931
0000000008	投資信託ソフト	4,600,060	0	1,562,521	3,037,539
0000000009	顧客管理システム	5,356,068	0	328,065	5,684,133
0000000010	POSシステム	1,918,763	0	0	1,918,763
	【仕掛合計】	40,435,772	0	16,528,387	23,907,385
0000000001	人事情報システム	8,551,767	0	4,562,276	3,989,491
0000000002	スケジュール管理システム	4,565,414	0	1,608,084	3,957,330
0000000003	人事派遣システム	6,435,661	0	3,505,514	2,930,147
	【完成合計】	19,552,856	0	9,675,874	9,876,982

それぞれの合計額を確認できます。

「仕掛プロジェクトと完成プロジェクトを区分しないで表示する」にチェックを付けた場合

このスクリーンショットは、プロジェクト一覧表の「仕掛プロジェクトと完成プロジェクトを区分しないで表示する」にチェックが付いている状態を示しています。表には、すべてのプロジェクトの合計行が追加されています。

コード	プロジェクト名	原価計	仕掛費	完成費	総費
0000000001	人事情報システム	8,551,767	0	4,562,276	3,989,491
0000000002	スケジュール管理システム	4,565,414	0	1,608,084	3,957,330
0000000003	人事派遣システム	6,435,661	0	3,505,514	2,930,147
0000000004	テレビ会議システム	8,727,060	0	5,736,066	3,990,974
0000000005	経費精算システム	8,675,048	0	5,106,066	3,434,991
0000000006	連結決算システム	3,804,722	0	1,475,580	2,329,142
0000000007	総務業務ソフト	6,005,418	0	2,246,487	3,758,931
0000000008	投資信託ソフト	4,600,060	0	1,562,521	3,037,539
0000000009	顧客管理システム	5,356,068	0	328,065	5,684,133
0000000010	POSシステム	1,918,763	0	0	1,918,763
	全 計	60,048,544	0	26,401,061	33,647,483

すべての合計額を確認できます。

- プロジェクト一覧表で、予定期間を表示できるようになりました。

[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト一覧表]メニューで、予定期間（終了）を表示できるようになりました。

※[条件設定]画面の[詳細条件2] ページのプロジェクト情報表示で設定します。

また、そのほかのプロジェクトの情報も、画面上で確認できます。

※画面で[情報]（F7）を押すと、その他のプロジェクトの情報が表示されます。

- プロジェクト一覧表の転送で出力される「プロジェクトの完成日付」の書式を、文字列属性から日付属性に変更しました。

[原価帳票]-[プロジェクト別原価帳票]-[プロジェクト一覧表]メニューのプロジェクト一覧表の転送で出力される「プロジェクトの完成日付」の書式が、Excel上で日付属性になります。

分析帳票



- 推移表・対比表から、直接元帳にジャンプして、金額を追跡できるようになりました。

金額の推移や前年比から変化の大きい科目にあたりをつけて、そのまま元帳に直接ジャンプすることで、効率的に明細レベルでの確認作業ができます。

▼イメージ図

《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[推移表]の各メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]の各メニュー

配賦処理

- 配賦実行後に、配賦基準を見直してやり直す場合に、配賦の実行単位で一括で配賦伝票を削除できるようになりました。

配賦基準（配賦パターン）を見直して配賦をやり直す場合、今までは、[仕訳処理]メニューなどで配賦伝票を検索して削除する必要がありましたが、今後は、[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦履歴]メニューなどの履歴メニューから、配賦の実行単位で配賦伝票を一括削除できます。

詳細は、操作説明の「配賦基準を変更して配賦をやり直す」をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦履歴]メニュー
- ・ [配賦処理]-[部門共通原価配賦]-[部門共通原価配賦履歴]メニュー
- ・ [配賦処理]-[間接費配賦]-[間接費配賦履歴]メニュー

決算処理

- 決算報告書を、要約印刷する・しないを都度切り替えて、出力できるようになりました。

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューの決算報告書を、要約印刷する場合としない場合を、それぞれの用途に応じて、都度切り替えて出力できるようになりました。今までは、[要約設定]メニューで、要約したり解除したりと煩雑な作業が必要でしたが、今回から、要約設定はそのままに、決算報告書の条件で要約印刷と要約しない印刷を切り替えるだけで、簡単に出力できます。

また、必要に応じて、それぞれの見出し項目を別々に設定できます。

※要約する・しないの使用方法は、操作説明の「決算報告書を作成する」をご参照ください。

- 決算報告書を、それぞれの用途に応じて、要約形式（要約設定や見出し項目の内容）を複数用意できるようになりました。

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューの決算報告書を、社内用や外部向けなどの用途に応じて、要約形式（要約設定や見出し項目の内容）を複数用意できるようになり、決算報告書のパターンと関連付けることで、パターンを切り替えながら効率的に印刷できます。

※要約形式を複数用意する手順は、操作説明の「決算報告書を作成する」をご参照ください。

- キャッシュ・フロー計算書が「直接法」でも印刷できます。

今まで、[決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー計算書]メニューのキャッシュ・フロー計算書の表示方法は、「間接法」だけに対応していましたが、「直接法」でも印刷できるようになりました。

表示方法は、[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューで選択します。

《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[キャッシュ・フロー確認表]-[キャッシュ・フロー確認表]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]（または[分析帳票]-[キャッシュ・フロー確認表]）-[キャッシュ・フロー項目設定]-[キャッシュ・フロー属性設定]メニュー



- 補助科目ごとに、キャッシュ・フロー属性を設定できるようになりました。

1つの勘定科目で複数のキャッシュ・フロー項目へ影響を与える場合や、取引内容によりキャッシュ・フロー項目へ影響したりしなかったりする勘定科目の場合には、補助科目ごとにキャッシュ・フロー属性を設定することで、適切に反映させることができます。

※補助科目ごとに設定する方法は、操作説明の「補助科目ごとにキャッシュ・フロー属性を設定する」をご参照ください。

随時処理

- プロジェクトの汎用データを作成する際に、完成区分などの条件も指定できるようになりました。

原価帳票では、有効なプロジェクトだけを集計しますが、終了したプロジェクトが当システム上有効なままになっているケースがあります。

汎用データの作成・受入を活用して、終了したプロジェクトを当システム上スムーズに無効にするために、詳細な絞込みができるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[プロジェクトデータ作成]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行プロジェクトデータ作成]メニュー



- 複数の外部システムと連携している場合に、外部システムごとに、仕訳伝票データを「承認済み」として受け入れるかを設定できるようになります。

複数の外部システムと連携している場合に、仕訳伝票データの受入時に承認済みとするシステムとしないシステムが混在する際、今までは、承認済みとしないシステムにあわせて設定する必要がありましたが、今後は、システムごとに設定できます。

※[会社運用設定]メニューの[承認設定]ページの「汎用データ受入伝票」の個別設定で、外部システムごと（受入パターンごと）に「承認済／転記済」を設定できます。

- 奉行21シリーズのソリューション製品等で作成された日報のデータを受け入れるようになりました。

[随時処理]-[汎用データ受入]-[配賦基準データ受入]-[日報データ受入]メニューで、奉行21シリーズのソリューション製品等で作成された日報のデータを受け入れられるようになりました。

受入形式に、「OBC受入形式」とは別に、「奉行21シリーズ汎用データ受入形式」が追加されています。

- 『SUPER COMPACT Pathfinder』との連携で、貸借対照表は「残高」・損益計算書は「発生」という場合も、一度に集計して、連携できるようになりました。

[随時処理]-[他システム連携]メニューで『SUPER COMPACT Pathfinder』と連携する際、貸借対照表・損益計算書別々に、集計方法「発生/累計」を選択できるようになりました。

貸借対照表は「残高」・損益計算書は「発生」で集計して連携することが、一度の操作でできます。

その他の変更情報



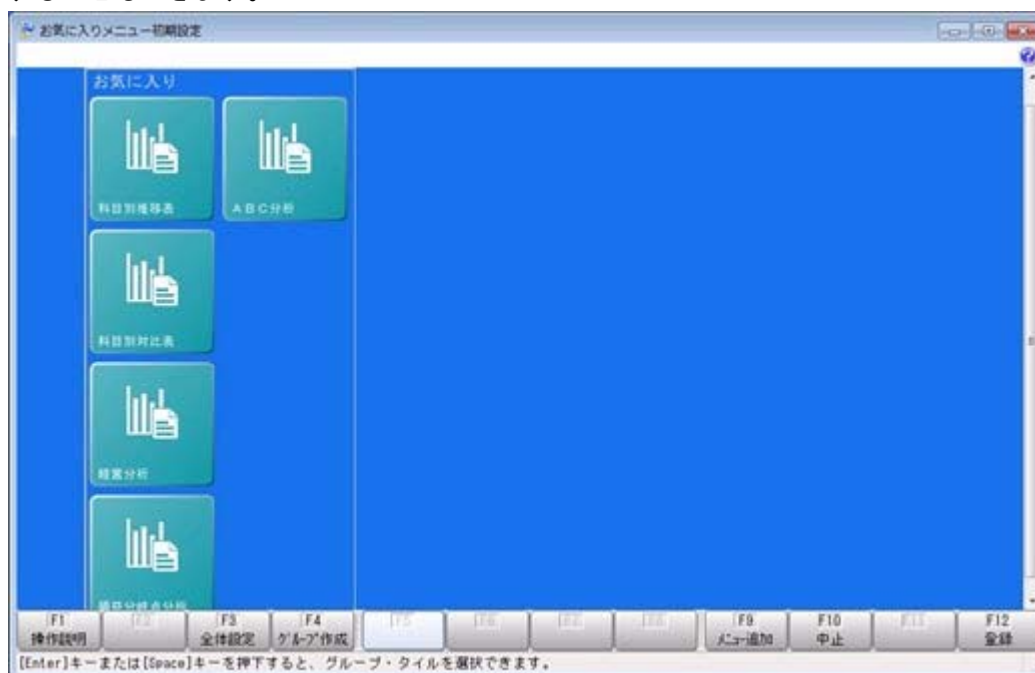
- 『参照専用ライセンス』の初期画面を設定できるメニューを追加しました。

＜『参照専用ライセンス』をお使いの場合＞

『参照専用ライセンス』の[お気に入り]画面について、管理者などが初期設定できる[管理ツール]-[お気に入りメニュー初期設定]メニューが追加されました。


[お気に入り]画面を初期設定すると、『参照専用ライセンス』の利用者がはじめてログインした際に、設定した[お気に入り]画面が初期で表示されます。

『参照専用ライセンス』の利用者は、初期設定内容から、独自の[お気に入り]画面に変更することもできます。



- メニュー形式が「メニューバー」の場合でも、「奉行 i メニュー」を表示できるようになりました。

[管理ツール]-[利用者別設定]メニューの[メニュー設定]ページで設定した、メニュー形式が「メニューバー」の場合でも、「奉行 i メニュー」を表示できるようになりました。

「メニューバー」の右下の  アイコンをクリックすると、別ウィンドウで「奉行 i メニュー」を表示できます。

※「奉行 i メニュー」のご利用には、インターネット接続環境が必要となります。

財務諸表照会Webオプション

- 「明細区分」を利用することで、金額集計の分析軸や仕訳伝票の付加情報を強化し、多面的な分析に活用できます。

＜『伝票項目拡張（旧セグメント管理）オプション』をお使いの場合＞

勘定奉行側に、「明細区分」の機能が追加されました。

勘定奉行側で「明細区分」を利用すると、財務諸表照会Webオプションの合計残高試算表でも、明細区分を指定して集計できます。

- 配賦伝票などを、財務会計伝票とは別の「管理会計伝票」として登録することで、財務諸表に影響を与えずに管理会計帳票を作成できるようになりました。

＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞

勘定奉行側に、「管理会計伝票」の機能が追加されました。

勘定奉行側で「管理会計伝票」を利用すると、財務諸表照会Webオプションの合計残高試算表でも、「管理会計伝票」を加味した集計ができます。

全社ベースの集計では、配賦伝票などの「管理会計伝票」を集計から除くことで、純粋に財務会計の金額を確認できます。

部門ベースの集計では、「管理会計伝票」として登録した共通経費の配賦伝票も含めて集計することで、部門ごとの利益などを正確に確認できます。

財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.05

目次

【管理会計帳票】	
＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞	
管理会計帳票の印刷条件が、パターンごとに保持されるようになりました。	2
【随時処理】	
追加で登録した、仕訳伝票の汎用データの「受入データ形式」を、すべての利用者共通で 利用できるようになりました。	3

<『管理会計オプション』をお使いの場合>

- 管理会計帳票の印刷条件が、パターンごとに保持されるようになりました。

管理会計帳票の印刷条件（[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページ・[プリンタ設定]ページの設定）が、パターンごとに保持されるようになりました。

※[基本設定]ページ・[詳細条件]ページの印刷条件は、以前からパターンごとに保持されています。

今までは、[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計分析表]メニューなど、1つのメニュー内でパターンごとに帳票レイアウトが異なる場合※に、それぞれの帳票を印刷するたびに用紙サイズや印刷の向きを切り替える必要がありました。

※例えば、1つの帳票が用紙サイズ「A4」の縦で、もう1つの帳票が「B4」の横のような場合

これからはパターンごとに印刷条件が保持されるため、切り替える手間が省けます。

▼イメージ図（印刷条件設定）

[印刷設定]ページ



[プリンタ設定]ページ



《 関連メニュー 》

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計分析表]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計集計表]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計推移表]メニュー

- 追加で登録した、仕訳伝票の汎用データの「受入データ形式」を、すべての利用者共通で利用できるようになりました。

<「Ver. 2.03」をセットアップして運用していた場合だけ、ご確認ください。>

「Ver. 2.03」では、[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューで「受入データ形式」を追加する場合は、利用者ごとに形式作成が必要でしたが、今後は、すべての利用者共通で運用できます。

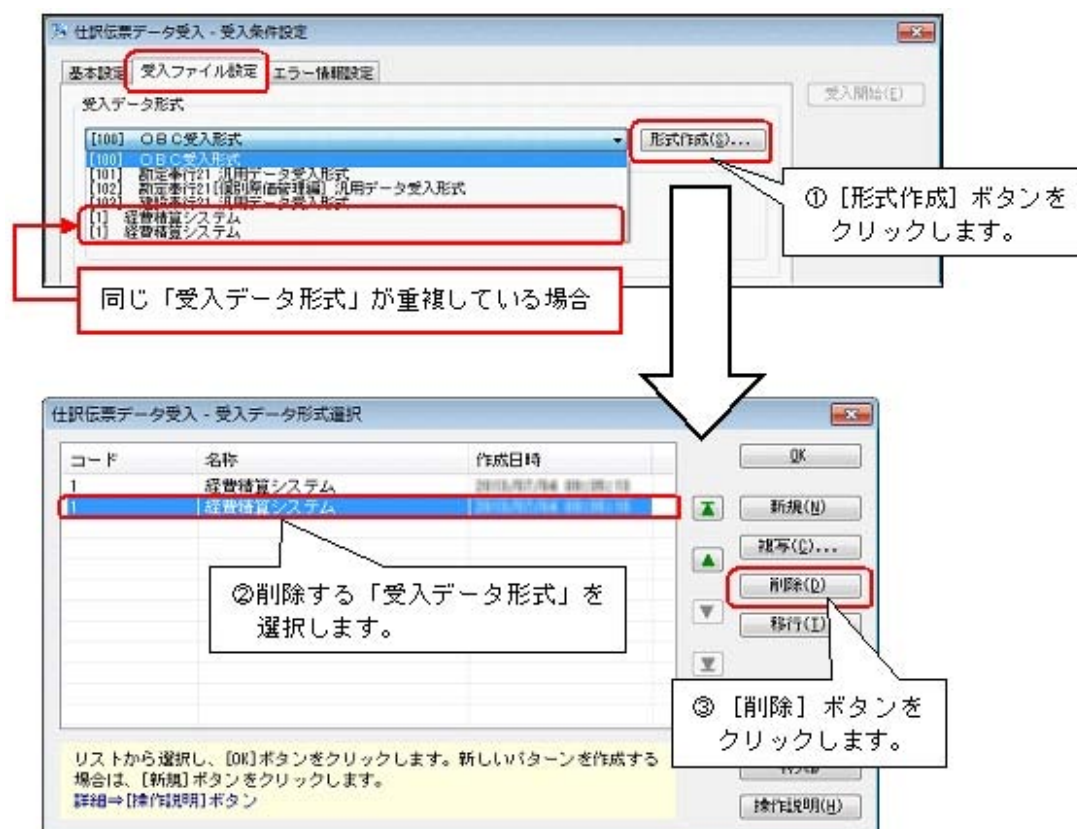
▼イメージ図（受入データ形式）



※「Ver. 2.03」で、「仕訳伝票データ受入」メニューを複数の利用者と運用していた場合、新しいバージョンになると、同じ「受入データ形式」が重複して表示されることがあります。
その場合は、1つだけ残して、他の重複した「受入データ形式」は削除してください。

▼イメージ図（「受入データ形式」の削除）

同じ「受入データ形式」が重複して表示されている場合は、「受入条件設定」画面の「受入ファイル設定」ページで、以下のように削除します。




財務会計システム[個別原価管理編]

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.03

目次

※マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【帳票全般】	
	IFRS帳簿（IFRS金額）の管理を実現しました。	3
	元帳などの会計帳票や決算報告書で、複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化できます。	3
	元帳や内訳表・集計表などの帳票で、集計条件のマスターコードを、次回以降も固定できます。	4
	月次集計の帳票全般で、集計パフォーマンスを向上できます。（仕訳伝票明細が非常に多く登録される場合に、月次残高を最適化する。）	4
	【データ領域管理】	
	『固定資産奉行』をあわせてお使いの場合に、データ領域ごとに利用する製品を設定できるメニューが追加されました。 ＜『勘定奉行V ERP8 Group Management-Edition』をお使いの場合＞	5
	【仕訳処理】	
	仕訳伝票リストを出力する際に、仕訳伝票が非常に多く登録されている場合でも、すべての集計の終了を待たずに、すぐに画面で明細を確認し始められるようになりました。	5
	【会計帳票】	
	元帳の集計（画面・印刷・転送すべて）のパフォーマンスが向上しました。	6
	【配賦処理】	
	配賦を実行する前の確認リストの印刷で、2ページ以降にも科目名を印字することで、配賦結果が確認しやすくなりました。	6
	【決算処理】	
	法人税電子申告の添付書類「財務諸表(XBRL)」データの連動で、ファイルを作成せずに、直接、『申告奉行[法人税・地方税編]』で受け入れられるようになりました。	7
	【随時処理】	
	外部システムで作成された仕訳伝票の汎用データを受け入れる場合など、伝票日付が同じ伝票を1枚の仕訳伝票にまとめることができます。	7
	外部システムで作成された仕訳伝票の汎用データなど、摘要の文字数が上限（40文字）を超えている際に、摘要を加工してその仕訳伝票を受け入れることができます。	8
	仕訳伝票の汎用データを、複数の目的で、定期的に作成している場合に、異なる出力条件をパターン化できます。	8
	仕訳伝票の汎用データを、複数の外部システムから、定期的に受け入れている場合に、異なる受入条件をパターン化できます。	8
	『建設奉行21』対応のソリューションと連携が可能になりました。	9
	『申告奉行[法人税・地方税編]』での税金のシミュレーション用に、「四半期」「月次」のデータを連動できるようになりました。	9

【その他の変更情報】	
<p>プロジェクトマスターを、他の業務システムとスケジュールを組んで自動連携することで、業務効率を高められます。</p> <p style="text-align: right;">＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞</p>	9
【財務諸表照会 Webオプション】	
元帳の集計（画面・印刷・転送すべて）のパフォーマンスが向上しました。	10
マウス操作でも、マスターを検索できるようになりました。	10

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

帳票全般

● IFRS帳簿（IFRS金額）の管理を実現しました。

IFRS（国際財務報告基準）での会計処理に対応するため、日本基準に加え、IFRS帳簿（IFRS金額）の管理を実現しました。

最終的には、日本基準の仕訳とIFRS組替仕訳を合算したIFRS金額を、連結会計システムへ出力します。

※詳細は、操作説明の「IFRS帳簿の適用に際して確認する（事前準備）」、「IFRS帳簿（IFRS金額）を管理するにあたって」をご確認ください。



● 元帳などの会計帳票や決算報告書で、複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化できます。

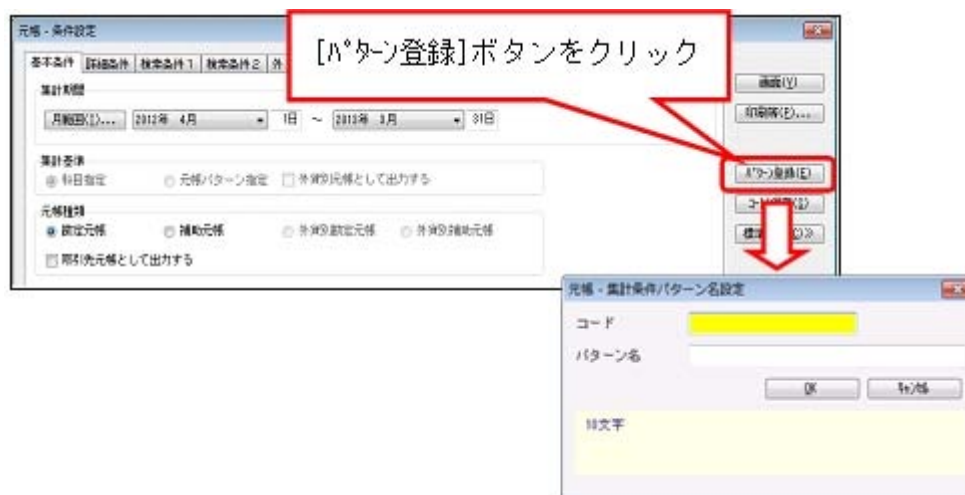
以下のように、用途・目的に合わせてパターン化すると、有効です。

○決算報告書など、貸借対照表は「累計」で出力して損益計算書は「発生」で出力すると
いったように、帳票ごとに集計方法（発生・累計）を切り替えている場合

○元帳で、勘定科目を分類ごとに毎回、複数回に分けて出力している場合

○固定した複数の部門グループの帳票を、毎回出力している場合

▼イメージ図



集計条件パターンの具体的な利用方法は、操作説明の「複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化する」をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票] の各帳票メニュー
※ [現預金内訳表] メニュー・ [資金繰実績推移表] メニュー・ [資金繰明細表] メニューを除く
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書] メニュー

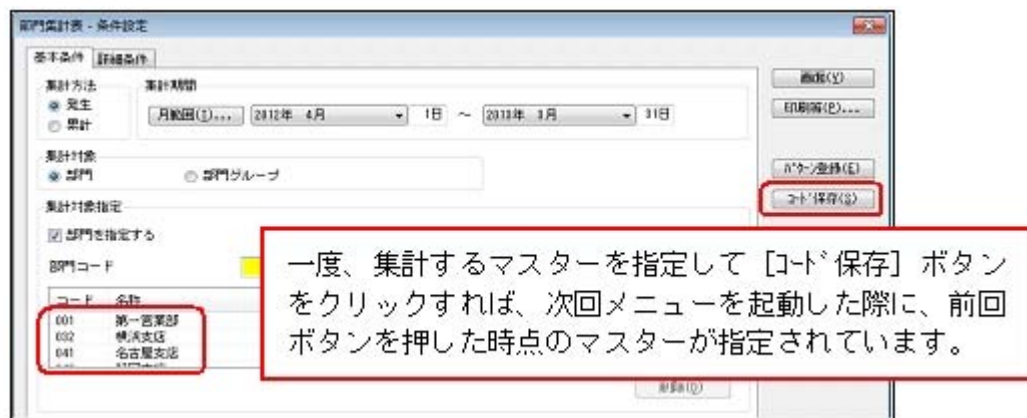


- 元帳や内訳表・集計表などの帳票で、集計条件のマスターコードを、次回以降も固定できます。

以下のような運用の場合、集計条件のマスターコードを次回以降も固定すると、有効です。

- 常に、確認するマスターが固定している場合
- 常に、固定のマスターと、毎回変更するマスターが混在している場合
または
常に、固定のマスターと、全範囲のマスターが混在している場合

▼ イメージ図



コード保存の具体的な利用方法は、操作説明の「集計条件のマスターコードを、次回以降も固定する」をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票] の各帳票メニュー
※ [現預金内訳表] メニュー・ [資金繰実績推移表] メニュー・ [資金繰明細表] メニューを除く
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書] メニュー



- 月次集計の帳票全般で、集計パフォーマンスを向上できます。
(仕訳伝票明細が非常に多く登録される場合に、月次残高を最適化する。)

月次集計の帳票全般を、仕訳伝票からではなく、月次残高を利用して集計するように設定できるようになりました。

毎日深夜に月次残高を最適化することで、集計速度が向上します。

仕訳伝票明細が非常に多く登録される場合に、有効です。

詳細は、「月次集計の帳票全般で、集計速度を向上させる設定」をご確認ください。

※この機能は、ネットワーク対応製品の場合に使用できます。

データ領域管理

- 『固定資産奉行』をあわせてお使いの場合に、データ領域ごとに利用する製品を設定できるメニューが追加されました。

＜『勘定奉行V ERP8 Group Management-Edition』をお使いの場合＞

会計カテゴリの製品（『勘定奉行』シリーズおよび『固定資産奉行』）を統合運用環境でお使いの場合に、データ領域ごとに利用する製品を設定できるメニューが追加されました。

奉行製品上のデータ領域選択画面に、利用するデータ領域だけが表示されます。

○[データ領域管理]-[データ領域保守]-[データ領域別利用製品制限]メニュー

▼利用例

グループ会社の中でも、グループ子会社の規模によって、システム化されていない業務（＝奉行製品）がある場合に設定します。

仕訳処理



- 仕訳伝票リストを出力する際に、仕訳伝票が非常に多く登録されている場合でも、すべての集計の終了を待たずに、すぐに画面で明細を確認し始められるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニューで仕訳伝票リストを出力する際、今までは、すべての集計が終了するまで、仕訳伝票の集計結果を確認できませんでした。

今回から、集計の終了した明細から順次、画面に表示されるため、仕訳伝票リストを効率よく確認できるようになりました。

※元帳については、すでにこの機能が追加されていますが、仕訳伝票リストなど、明細を出力する他のメニューについても機能が追加されました。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
- ・ [消費税申告]-[税区分明細表]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[遡及仕訳伝票リスト]メニュー

● 元帳の集計（画面・印刷・転送すべて）のパフォーマンスが向上しました。

[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニューで、取引先元帳や外貨別元帳、部門を個別に表示する場合のような、マスターと勘定科目を組み合わせるケースで、パフォーマンスが向上しました。

「指定された日付範囲に明細がある場合だけ出力する」際に、次の科目を検索するパフォーマンスが向上しています。

※外貨別元帳は、『外貨入力オプション』をお使いの場合に使用できます。

配賦處理

- 配賦を実行する前の確認リストの印刷で、2 ページ以降にも科目名を印字することで、配賦結果が確認しやすくなりました。

配賦リスト（基準確認・結果確認）で、2 ページ以降にも科目を印字すると、どの科目の配賦金額が把握しやすくなります。

※[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページで設定

▼イメージ図

配賦結果確認

[illegible]

なお、科目をすべてのページに印字する場合は、別途、[印刷設定]ページで各情報の列の間隔を狭く補正することで、確認しやすいリストになり、印刷枚数も抑えられます。

以下の機能も追加されています。

○合計の表示

○金額が0の勘定科目・補助科目の表示

※[条件設定]画面の[詳細条件]ページで設定

《 関連メニュー 》

- ・ [配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニュー
- ・ [配賦処理]-[部門共通原価配賦]-[部門共通原価配賦]メニュー
- ・ [配賦処理]-[間接費配賦]-[間接費配賦]メニュー

決算処理



- 法人税電子申告の添付書類「財務諸表(XBRL)」データの連動で、ファイルを作成せずに、直接、『申告奉行[法人税・地方税編]』で受け入れられるようになりました。

『申告奉行[法人税・地方税編]』と連動する場合、[決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告データ作成[財務諸表]]メニューで作成した電子申告データ「財務諸表(XBRL)」を、受け入れる方法が2通りになりました。

- ・ 直接、『申告奉行[法人税・地方税編]』で受け入れる
- ・ ファイルを作成してから、『申告奉行[法人税・地方税編]』で受け入れる ※今まではこの方法

『申告奉行[法人税・地方税編]』が、当システムと同じコンピュータにセットアップされている場合は、「直接受入」を選択します。異なるコンピュータの場合は、「ファイル受入」を選択します。

随時処理



- 外部システムで作成された仕訳伝票の汎用データを受け入れる場合など、伝票日付が同じ伝票を1枚の仕訳伝票にまとめることができます。

[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューから、外部システムで1伝票1明細で作成された仕訳伝票データを受け入れる場合など、伝票日付が同じ伝票を1枚の仕訳伝票にまとめることができます。

※1伝票あたり、最大9,999明細までまとめます。

※[仕訳伝票データ受入]メニューの[拡張項目]ページで設定できます。

なお、1枚の伝票にまとめることで、一度に大量のデータを受け入れる際に、その時間を短縮する効果もあります。

《 関連メニュー 》

[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー

※このメニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。



- 外部システムで作成された仕訳伝票の汎用データなど、摘要の文字数が上限（40文字）を超えている際に、摘要を加工してその仕訳伝票を受け入れることができます。

[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューで、今までは、摘要の文字数の上限（40文字）を超えている場合、必ず未受入になっていましたが、今後は、摘要を加工して受け入れられるようになりました。

摘要文字をすべて受け入れるか、上限を超えた文字（41文字以降）を切り捨てて受け入れるかを選択できます。

※[仕訳伝票データ受入]メニューの[拡張項目]ページで設定できます。

外部システムで作成された、仕訳伝票の汎用データを受け入れる場合などに有効です。外部システム側で別途、摘要の文字数を当システムに合わせる必要はありません。

《 関連メニュー 》

[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー

※このメニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。



- 仕訳伝票の汎用データを、複数の目的で、定期的に作成している場合に、異なる出力条件をパターン化できます。

[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニューで、仕訳伝票の汎用データを、以下のような複数の目的で、定期的に作成している場合に、それぞれパターンとして登録すると、有効です。

- ・ 仕訳伝票データを外部システムで使用する
- ・ 仕訳伝票のチェックや分析用に、データを加工して2次利用する

※詳細は、操作説明の「出力条件パターンの利用方法」参照



- 仕訳伝票の汎用データを、複数の外部システムから、定期的に受け入れている場合に、異なる受入条件をパターン化できます。

[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューで、仕訳伝票の汎用データを、「経費精算システム」「販売管理システム」といった複数の外部システムから、定期的に作成している場合に、受入条件が異なるときは、それぞれパターンとして登録すると有効です。

- ・ 「経費精算システム」と「販売管理システム」で、受入データ形式が異なる
- ・ 販売管理システムの仕訳伝票データは、同じ日付の伝票を1枚にまとめて受け入れる

※詳細は、操作説明の「受入条件パターンの利用方法」参照

● 『建設奉行21』対応のソリューションと連携が可能になりました。

[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニューで、建設奉行21形式の汎用データを作成できるようになりました。

※奉行21シリーズの「他ソフト編集」形式と同じ項目レイアウトで出力できます。

また、[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューで、『建設奉行21』のソリューション製品で作成した仕訳伝票のデータを受け入れできるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[奉行間連動]-[連動データ受入]-[仕訳伝票受入]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー

※[自動実行管理]の各メニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

● 『申告奉行[法人税・地方税編]』での税金のシミュレーション用に、「四半期」「月次」のデータを連動できるようになりました。

[申告奉行データ作成]メニューで、今までは、税務申告として必要な「確定」「中間」だけの連動でしたが、「四半期」「月次」での税金のシミュレーション用の連動もできます。

その他の変更情報

● プロジェクトマスターを、他の業務システムとスケジュールを組んで自動連携することで、業務効率を高められます。

＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞

[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行プロジェクトデータ受入]メニューで、他の業務システムから、スケジュールを組んで自動連携することで、業務効率を高められます。

また、今までは、手動でのファイル連携でしたが、[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行プロジェクトデータ作成]メニューで、別のサーバーコンピュータ上の『固定資産奉行V』とも、プロジェクトを、スケジュールを組んで自動連携できるので、業務効率を改善できます。

- 元帳の集計（画面・印刷・転送すべて）のパフォーマンスが向上しました。

勘定奉行側と同様、取引先元帳や部門を個別に表示する場合のような、マスターと勘定科目を組み合わせるケースで、パフォーマンスが向上しました。

「指定された日付範囲に明細がある場合だけ出力する」際に、次の科目を検索するパフォーマンスが向上しています。

- マウス操作でも、マスターを検索できるようになりました。

今までは、[Space]キー（キーボード）での検索だけでしたが、コード入力欄に検索ボタンが追加され、マウス操作でもマスターを検索できるようになりました。

▼イメージ図

